岩手県文化財調査報告書　第98集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成７年度）

平成８年３月

岩 手 県 教 育 委 員 会

序　　文

埋蔵文化財は、私達の祖先より永く培われてきた貴重な歴史的財産であります。私達はそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は近年の増大する大規模な開発等によりきびしい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかるために、遺跡の性格・所在地・範囲を正確に示すことが必要であることはいうまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、現在確認されている遺跡数は9,800余箇所にも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成７年度に実施した県内遺跡の発掘調査・試掘調査・分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。

平成８年３月

岩手県教育委員会

教育長　橋田　純一

例　　言

1　本書は、岩手県教育委員会が平成７年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。

2　本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。

3　遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業所より入手した1/1,000地形図を原図に、縮尺1/2を原則として掲載した。

4　発掘調査については、概略を記した。

5　試掘調査に係る遺跡の推定範囲についてはアミで示し、試掘溝は実線で示した。

6　遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名のつけられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。

7　本事業の調査、整理、報告書編集等は岩手県教育委員会事務局文化課の小野田哲憲主任文化財主査、佐藤嘉広文化財調査員、佐々木務文化財調査員が担当した。なお、整理については関係市町村教育委員会のほか、下記の方々のご協力をいただいた。

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、今　明子、菅原絹子、浦田　希

8　本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目　　次

序文

例言

I　発掘調査

1　ほ場整備事業踊鹿地区（晴山II遺跡）…… 3

2　県営住宅（水沢市北野アパート）建築事業（北野IV遺跡）……8

3　県立胆沢病院移転事業（龍ケ馬場遺跡）……13

4　県道志和石鳥谷線拡幅工事（小林遺跡）……17

5　かんがい排水事業一方井地区（水無遺跡・飼鷹Ｉ遺跡）……20

6　低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業（大久保遺跡）……23

7　三陸縦貫自動車道建設山田道路（山ノ内III遺跡）……24

II　試掘調査

1　一般国道４号渋民バイパス事業（長渡遺跡）……29

2　北上川上流北上川白山築堤事業（川岸場II遺跡）……30

3　三陸縦貫自動車道建設山田道路（山ノ内II遺跡）……31

4　三陸縦貫自動車道建設山田道路（沢田II遺跡）……32

5　三陸縦貫自動車道建設山田道路（房の沢IV遺跡）……33

6　胆沢ダム建設事業（下尿前IV遺跡）……34

7　一般県道侍浜夏井線道路改良事業（麦生III遺跡）……36

8　一級町道津谷川線（代行事業）（上野平遺跡）……38

9　一級河川岩崎川中小河川改修事業（稲村II遺跡）……39

10　主要地方道宮古岩泉線築造事業（小平Ｉ遺跡）……41

11　県営長谷堂アパート建替事業（長谷堂貝塚）……42

12　砂防ダム建設工事（櫓沢II遺跡）……47

13　村道代行徳沢噌味２号線整備（向館遺跡）……48

14　農免農道整備事業巻堀地区（才津沢遺跡）……49

15　農免農道整備事業巻堀地区（本宮Ｉ遺跡）……50

16　担い手育成基盤整備事業宮手稲藤地区（谷地館遺跡）……51

17　県営ほ場整備事業飯岡第一地区（深淵Ｉ遺跡ほか）……52

18　県営畜産経営環境整備事業九戸軽米地区（江刺家IV遺跡）……54

19　県営畜産経営環境整備事業九戸軽米地区（江刺家館跡）……55

20　農免農道整備事業鳥長根地区（小池遺跡）……56

21　担い手育成基盤整備事業宮野目地区（田力遺跡）……57

22　低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業新堀地区（久保II遺跡）……58

23　その他の試掘調査……59

III　分布調査

担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区　　国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設

一級河川北上川上流北上川白山築堤事業
県営ほ場整備事業真城地区
県営ほ場整備事業東田地区
凍雪害防止緊急地方道整備事業
県営ほ場整備事業人首川東部地区
東北新幹線建設盛岡沼宮内間
担い手育成基盤整備事業金流川沿岸地区
急傾斜地崩壊対策事業浄法寺地区
砂防事業二戸市似鳥地区
主要地方道花巻衣川線横川目地区道路改良事業
一般県道東山薄衣線薄衣地区道路改良事業
北上川上流流域下水道事業小森林地区
県営ほ場整備事業徳岡地区
県営住宅（長谷堂アパート）建築事業
猿ケ石用水農業水利事業北部・東部幹線用水路
担い手育成基盤整備事業一関第三地区
中山間地域総合整備事業新町地区
主要地方道二戸田子線緊急歩道整備事業
一般県道宮古岩泉線道路改良事業
一戸病院・北陽病院移転事業
一般県道玉里水沢線田原地区道路改良事業

Ⅳ　貝塚調査事業……71
Ⅴ　写真図版……79

Ⅰ　発掘調査

1　ほ場整備事業踊鹿地区関連調査

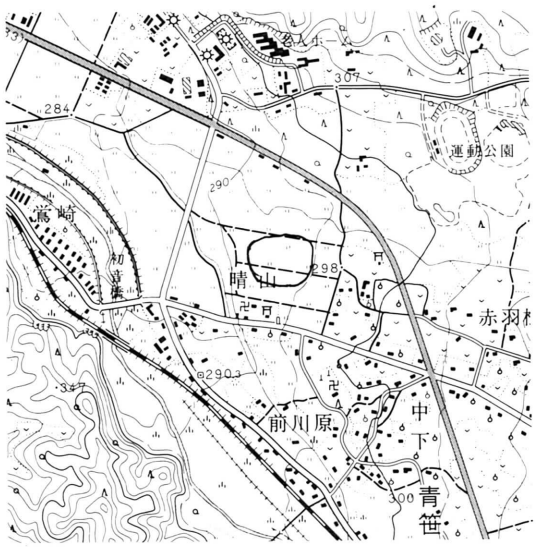
晴山II遺跡（ＭＦ45―2214）

所在地：遠野市青笹町糠前

事業者：遠野地方振興局農政部

調査期日：平成６年12月13日～７年３月15日（４日間）

遺跡は遠野バイパスの南側、北西から流れ込む小河川の北に位置する段丘上に立地する。標高287m。この調査に入る前、遺跡範囲は西側の宅地を中心とする部分ととらえていたが、ほ場整備にかかる道路敷部分の試掘調査の結果、東及び北東部に拡大することが明らかとなった。平成６年の調査で、Ｔ２より竪穴住居跡が検出されたことから、７年３月に記録保存を目的とした発掘調査を実施した。



第１図　晴山II遺跡の位置

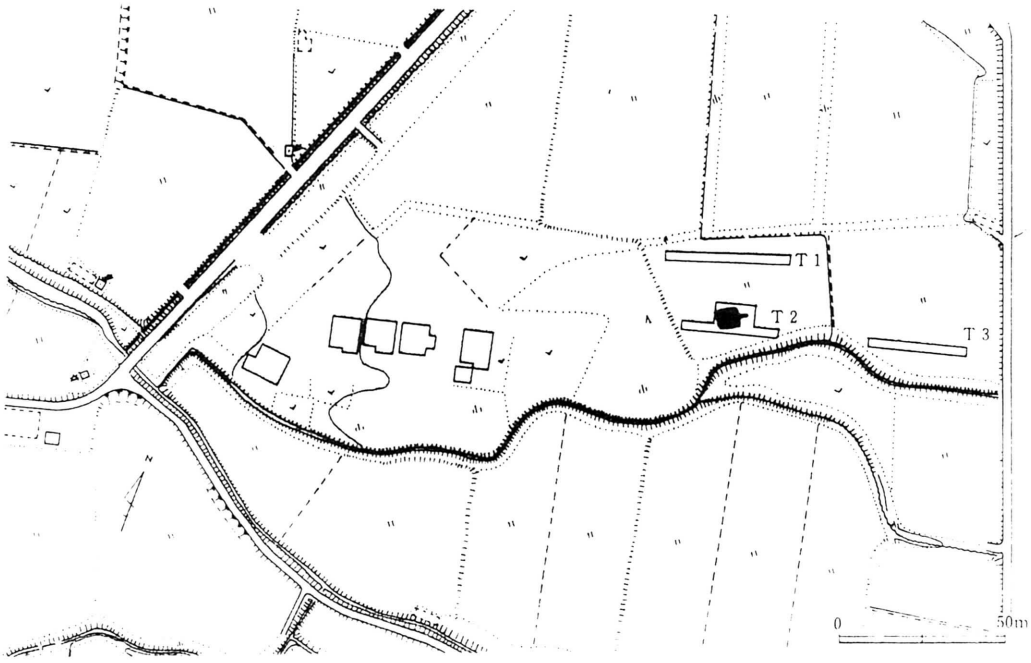
精査面積は約50㎡。基本層序は次の通りである。

Ｉ層　表土（耕作土）20cm　　II層　黒褐色土　20cm

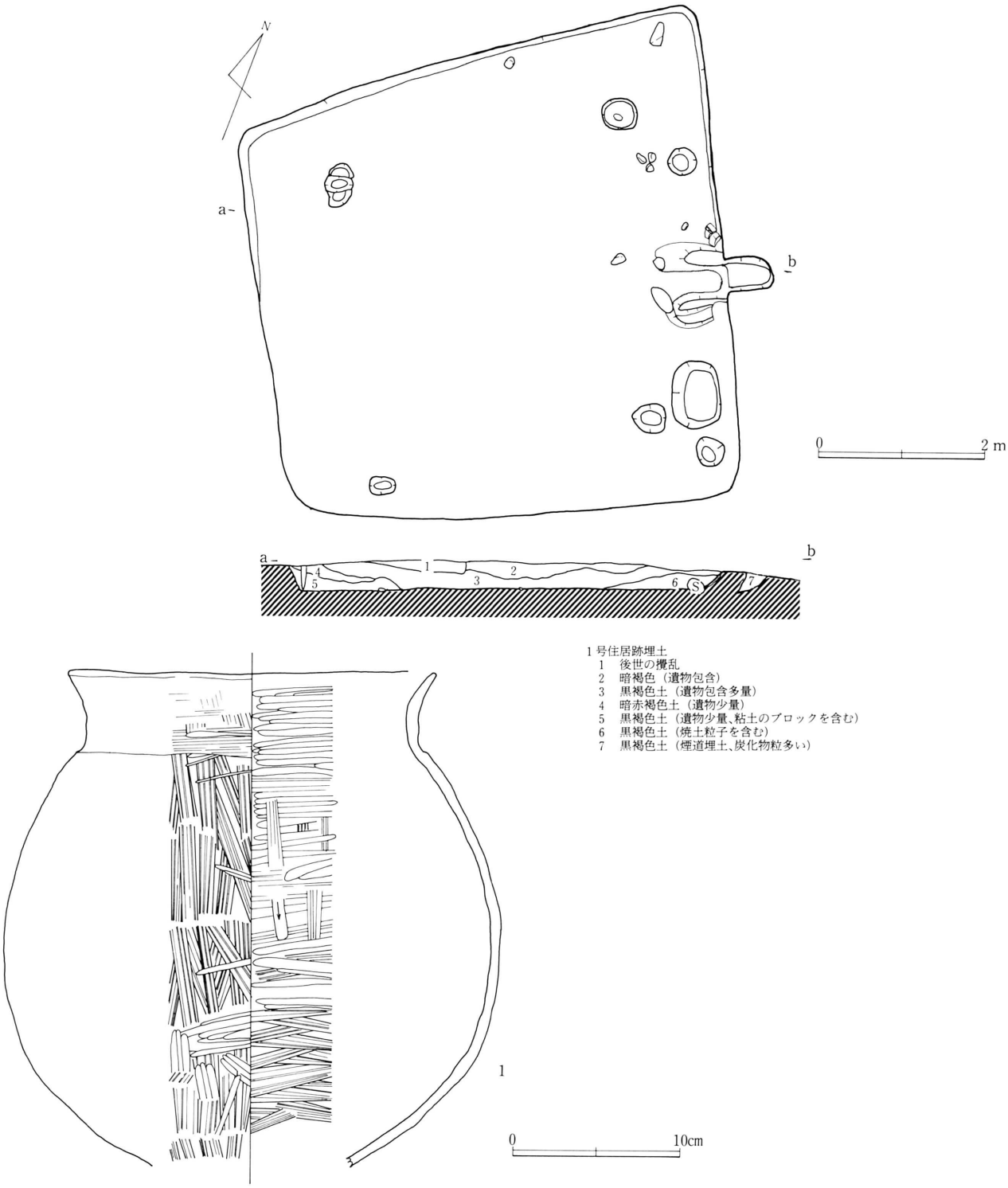
III層　暗褐色土　10cm　　IV層　灰褐色粘土　10cm

Ｖ層　灰褐色砂層　10cm以上

竪穴住居跡は１辺が６ｍ弱で、カマドがつくられる辺を底辺とする台形状を呈している。中央より南側壁は、以前の水路改修により、部分的に失われている。西側で一部撹乱されている箇所がある。竪穴の掘り込みは深い部分で30cmで、II層上面から掘り込んでいると考えられるが、III層上面で明瞭にプランが認められる。埋土は地山よりさらに黒色が強く、焼土粒や炭化物粒を含んでいる。地山に比してわずかに軟らかい。床面はほぼ全体に貼り床が行われており、固さによって埋土とは明瞭に識別できる。カマドは東壁中央に作られる。両袖は粘土で作られる。燃焼面は両袖の間に径50cmの楕円状に認められ、よく締まっている。カマ



第２図　遠野市晴山II遺跡調査区位置図



第３図　遠野市晴山Ⅱ遺跡竪穴住居跡及び出土土器(1)

ド付近は土器の出土量も多いが、一部袖にもぐり込むものも存在する。焼土面上には、天井部の崩落と考えられる粘土が層をなしている。煙道は地山より掘り込まれ、約60cmの長さを有する。燃焼部から煙り出し部にかけて、緩やかな上り傾斜となる。掘込み面には厚さ３cm程度の白色粘土を貼っている。柱穴は主柱穴と考えられるものが四隅に認められる。とくに、北側の二つの柱は堀方と柱痕跡が明瞭に識別できる。深さは床面から50cm前後である。このほか東南隅とカマド北脇に深さ10～15cm程度の小柱穴が認められる。カマド

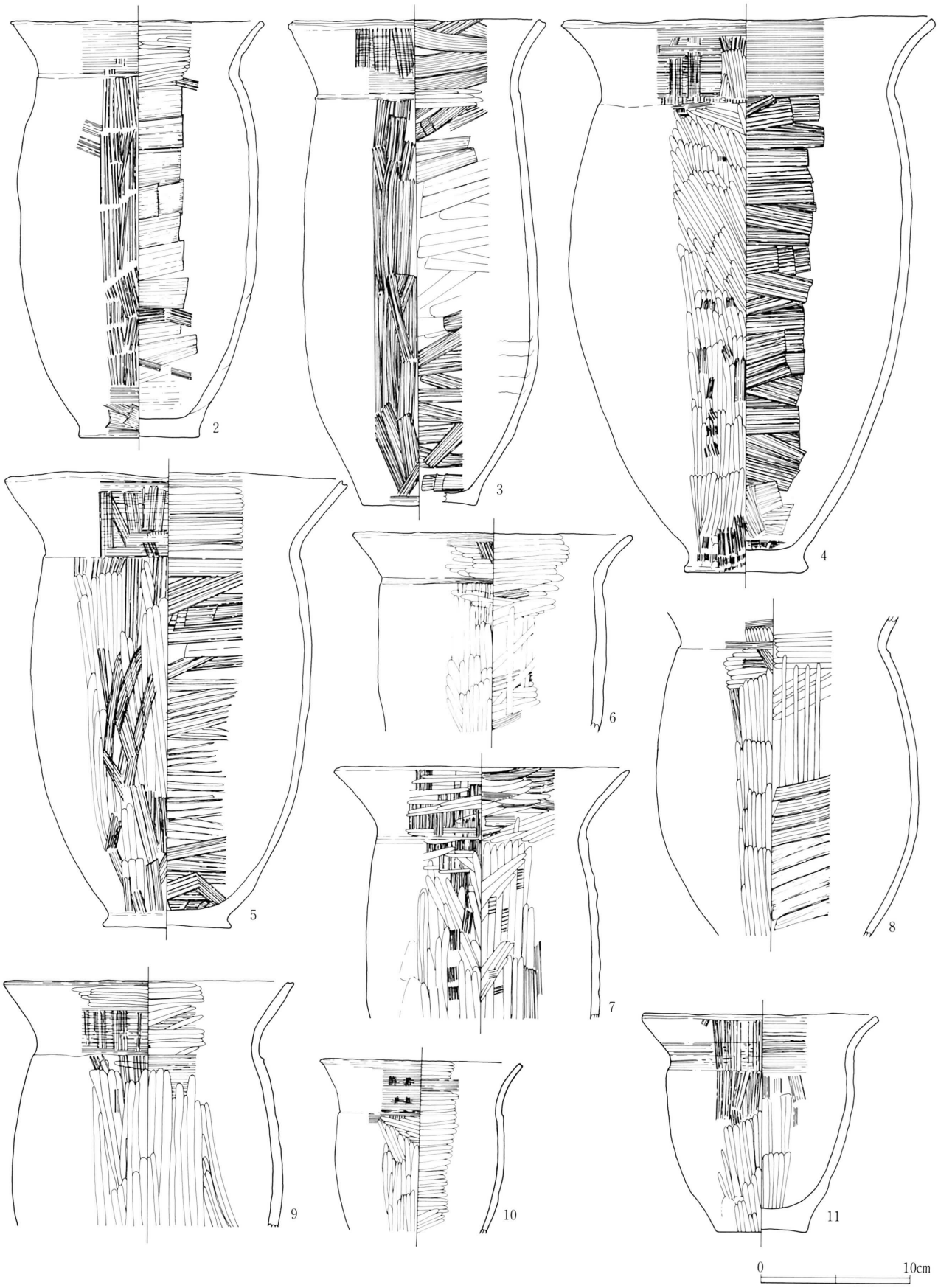
南脇では長軸55cmの隅丸方形状の土坑が検出された。深さ20cmで、土坑中より口縁部がやや開く胴部ミガキの甕（第４図４）１個体が出土した。

出土遺物は整理箱で６箱である。土師器片のほか、若干の須恵器片、磁器片及び鉄片が出土している。ほとんどが１号住居跡内出土である。カマド付近や土坑内で出土したもの以外は、細かな破片となっている。

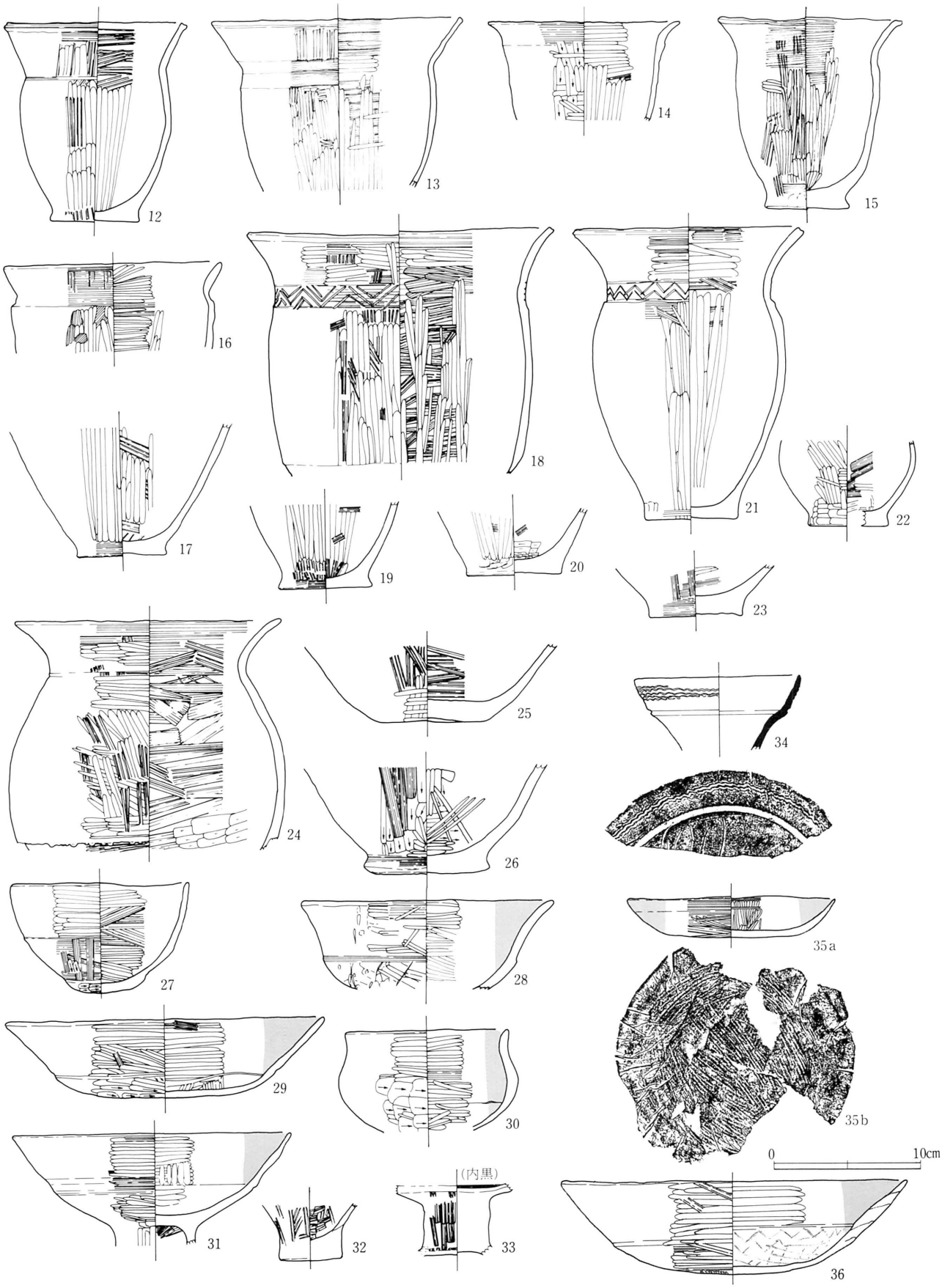
土師器、須恵器のうち、比較的大きめの破片や器形の復元できたものについて実測図で示した。土師器の器種の比率は甕が圧倒的に多く、坏及び高坏はごく少量である。

土師器甕は頸のくびれる壺形のものを含めて29個体図示した。ただし、底部については体部上半のみ残存しているものと同一個体のものを含んでいる可能性がある。１は赤褐色を呈する球胴を呈する甕。底部を欠損する。頸部は縦ハケのちヨコナデ。体部は縦ハケのち一部横ミガキ。内面は上半部で横ミガキ、下半部で横ハケ。２～16は中・大型の甕。器形は口縁部に最大径を有し、底部が小さくなる。３は胴下半部がやや膨らみ、下ぶくれ状を呈する。４はカマド脇土坑出土。胴部外面が縦ハケ調整の後全面がよく研磨されている。口径・胴径に比して底径が著しく小さい。２、７は輪積みの成形痕を顕著に残している。頸部と胴部の境界は、成形時に段が意識して粘土紐が積み上げられるほか、ナデが強調されて段状を呈している。底部は明らかに外側に張り出しているもの（４、５、11、14、18など）がある。器面調整は頸部は縦ハケのちヨコナデ、稀に横ミガキ。胴部外面は縦ハケのち縦ミガキ。頸部付近では右下がりの斜め方向に調整されることもある。内面は、頸部では横ナデまたは横ミガキで、横ハケが先行することがある。胴部では横ハケのち縦ミガキが施されるものが多いが、稀に横ミガキとなるものもある(10)。11～15は口縁が大きく開くもので、14以外は頸部が長くなる。11、13は頸と胴の境界がヘラ状工具で２段にナデられる。18、20は頸部に連続する山形の沈線を有している。20はさらに上下を沈線で区画している。施文方向は器面に向かって左から右である。18はカマド左袖部分からの出土で体部上半である。器形や器面調整で他の甕ととくに異なる点は見出だせないが、20の色調は暗赤褐色を呈し、焼成温度が異なっていた可能性もある。24は胴張りの甕であるが、下半部との接合部分が擬口縁状を呈するもので、ハケメが観察される。27、30は小型の鉢。坏と同様の調整で、外面は頸部が横ミガキ、底部付近がケズられる。30は内面黒色処理が行われる。29、35、36は坏。29、36は口径22～23cmと比較的大きい。底部と頸部の境界は成形時に意識され、わずかに段状を呈する。いずれも内面黒色処理されるが、36は内面ミガキののち、再度連続山形ないし格子状の丁寧なミガキを施し、暗文の効果を出している。35は内外面黒色処理がなされるが、外面底部は粗いハケ調整がそのまま残されている。28、31、33は高坏。33は中実の脚部となる。34は須恵器。口縁部外面に３条の櫛歯工具による雑な波状文が描かれる。

これらの遺物よりこの遺跡について特に記述しておかなければならないことは次の３点である。まず、住居跡の年代であるが、土師器坏は栗囲式（中～新）の特徴を有するもので、多少の意見の相違はあるものの７世紀中葉～後葉を前後して考えられている。須恵器についても宮城県域の横穴墓に副葬されるものなどと共通する特徴を持つことから、年代的に矛盾しないものである。次に、連続山形文様をもつ甕と坏である。甕頸部に沈線で連続山形が描かれる例は７～８世紀の北上川流域に最も多く、北大式との関連などが考えられている。一方内黒坏内面に暗文状のミガキを施している例は知られず、また文様モチーフからも甕との関連を伺わせている。近隣での古代の暗文手法は７世紀後半に出現するが、畿内の影響によることが明らかである。したがって、この手法及び文様の系譜と性格を慎重に検討する必要がある。３点目として、須恵器が出土することから、この遺跡が７世紀の遠野盆地内において何らかの政治的意味を有していた可能性を指摘できることである。紙幅の都合で詳論できないが、これらの点に付いて改めて考察を加えていく必要がある。



第４図　遠野市晴山Ⅱ遺跡出土土器(2)



第５図　遠野市晴山Ⅱ遺跡出土土器(3)

2　県営住宅（水沢市北野アパート）建築事業関連調査

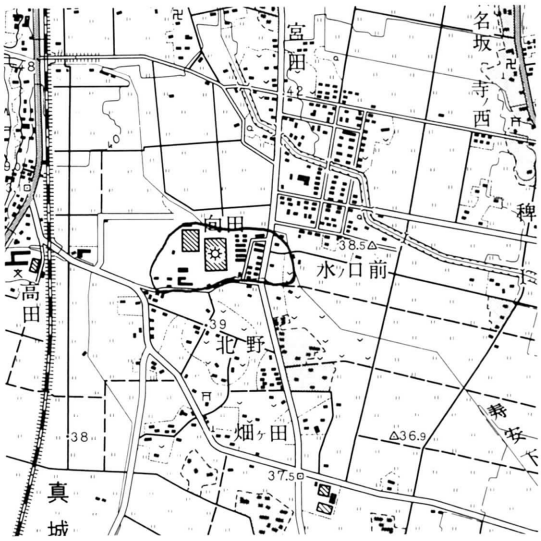
北野Ⅳ遺跡（ＮＥ26―2359）

所在地：水沢市真城字北野

事業者：水沢土木事務所

調査期日：平成７年６月５日～19日（のべ12日間）

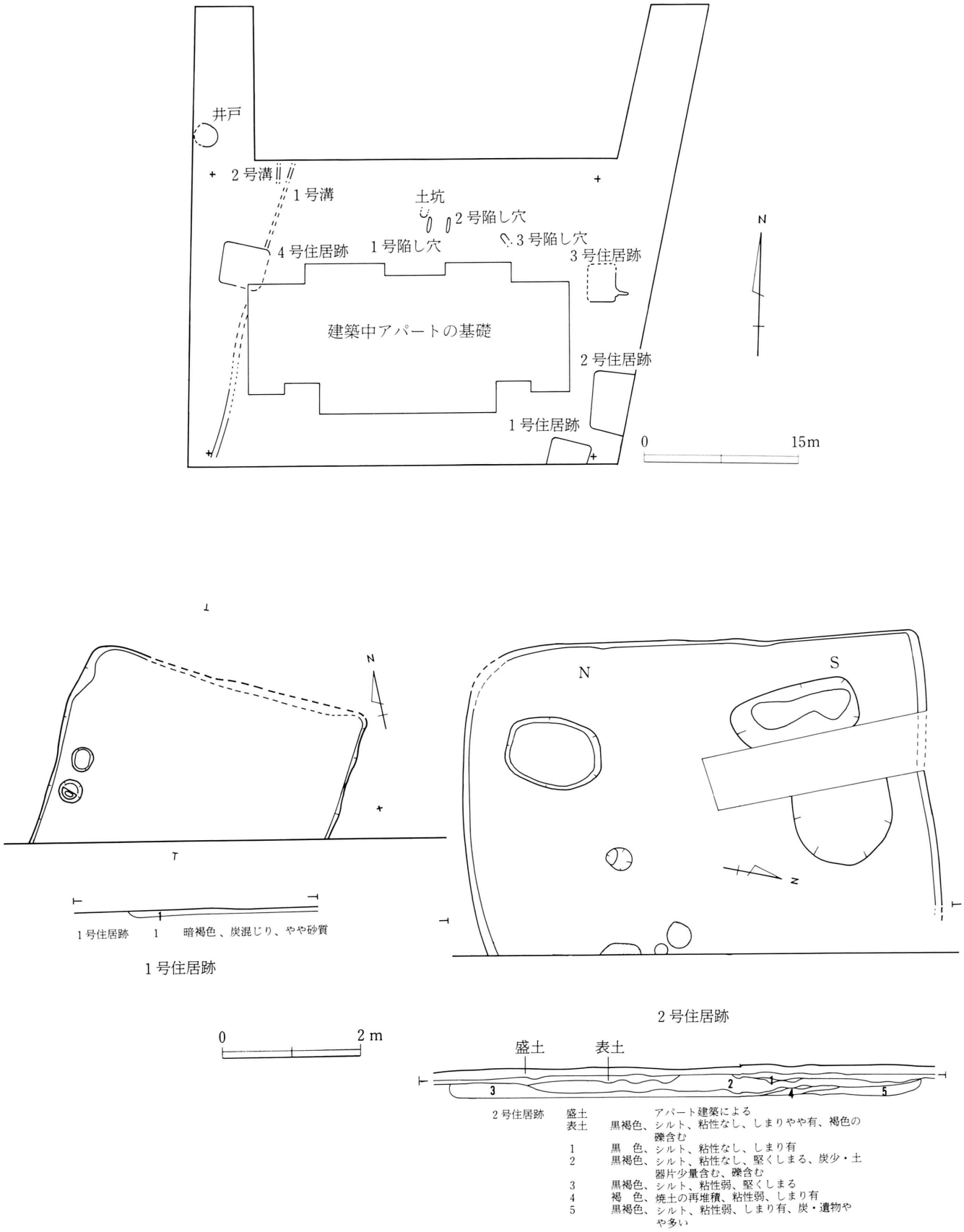
遺跡は北上川によって形成された沖積平野の微高地上に立地し、標高は40m前後で周囲との比高は約１ｍである。今回の調査は平成７年５月11日に行われた試掘調査の結果をうけて行われたものである。この試掘調査の結果現在建設中の県営アパートの用地内に平安時代の遺物や竪穴住居跡・縄文土器などが認められたため、アパートの建設工事を一時中断して発掘調査を行った。



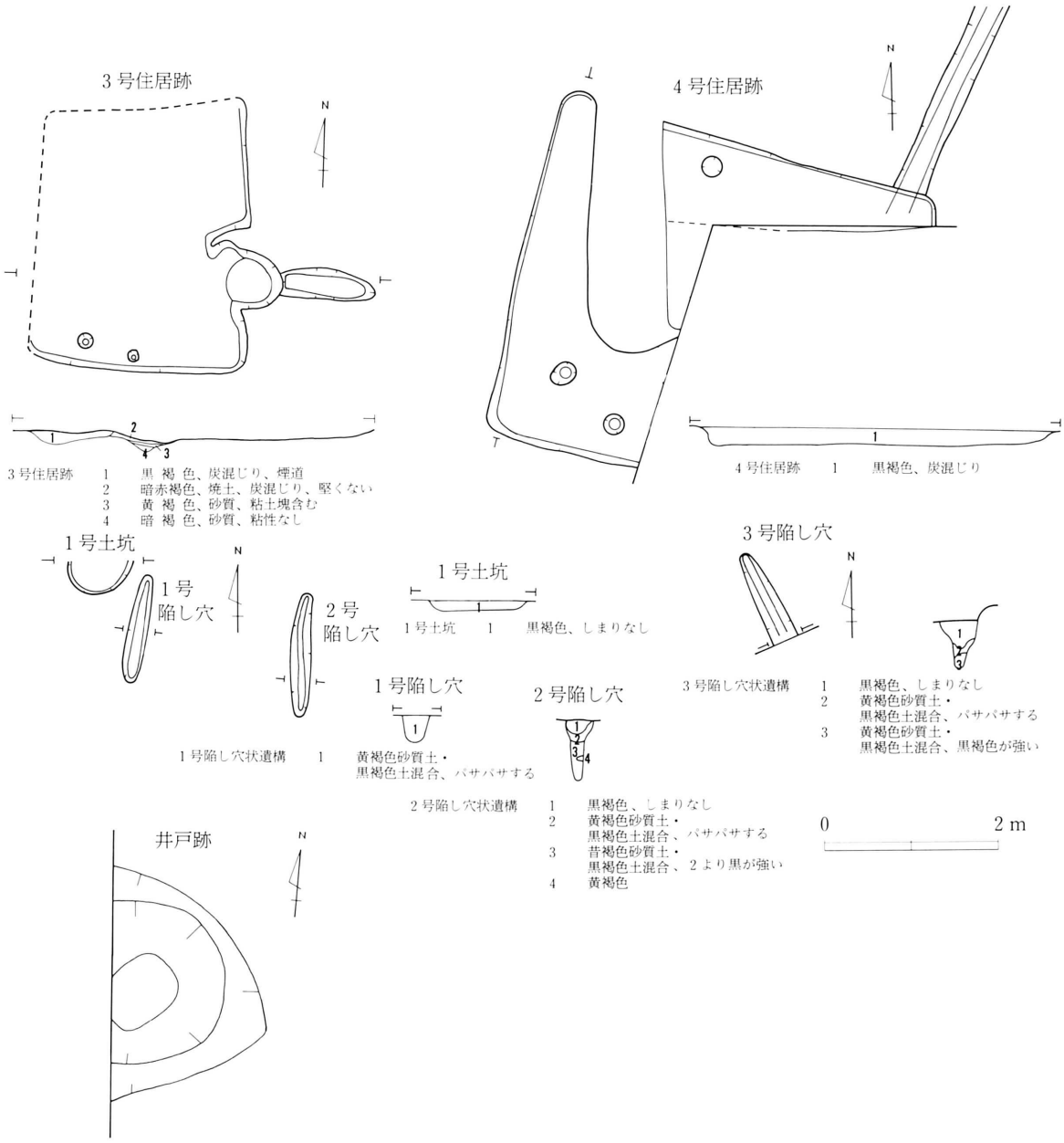
第６図　北野Ⅳ遺跡の位置

アパートの建設工事はある程度進んでおり、既に建物部分の基礎が掘削されていた。そのため実際に調査した面積は約490m²である。本遺跡は今まで日立構内遺跡とされていた遺跡である。

第７図　北野Ⅳ遺跡調査区位置図


井戸
2号溝
1号溝
土坑
2号陥し穴
3号陥し穴
1号陥し穴
4号住居跡
3号住居跡
建築中アパートの基礎
2号住居跡
1号住居跡
N
0
15m
N
1号住居跡　1　暗褐色、炭混じり、やや砂質
1号住居跡
N
S
N
0
2m
2号住居跡
盛土
表土
3
2
1
4
5
2号住居跡　盛土　アパート建築による
表土　黒褐色、シルト、粘性なし、しまりやや有、褐色の礫含む
1　黒　色、シルト、粘性なし、しまり有
2　黒褐色、シルト、粘性なし、堅くしまる、炭少・土器片少量含む、礫含む
3　黒褐色、シルト、粘性弱、堅くしまる
4　褐　色、焼土の再堆積、粘性弱、しまり有
5　黒褐色、シルト、粘性弱、しまり有、炭・遺物やや多い

第8図　遺構配置図、遺構



第9図　北野Ⅳ遺跡遺構

調査の結果、平安時代の竪穴住居跡4棟・井戸跡1基、縄文時代と考えられる陥し穴状遺構3基、時期不明の溝跡2条・土坑1基が検出された。今回取り壊された県営住宅建築時にある程度削平されたと考えられ、検出された住居跡の壁は10cm前後で一部建物の基礎で壊されているものがある。いずれの遺構も表土除去後、黄褐色土を地山として検出されている。

1号住居跡（第8図）

調査区の南東すみで検出された。南側約1/3は調査区から外れている。北辺の長さは3.8mで確認された壁の高さは10cmである。カマドは検出されていないが南側の調査区外の部分にあると考えられる。床面では柱穴が西壁際から2つ検出されたが、ほかの場所から柱穴は検出されず全体の配置は不明である。須恵器の蓋・土師器の坏などが出土している。調査区の東側に十和田aと考えられる火山灰が検出されている住居跡があるが、この住居跡では火山灰は検出されていない。

2号住居跡（第8図）

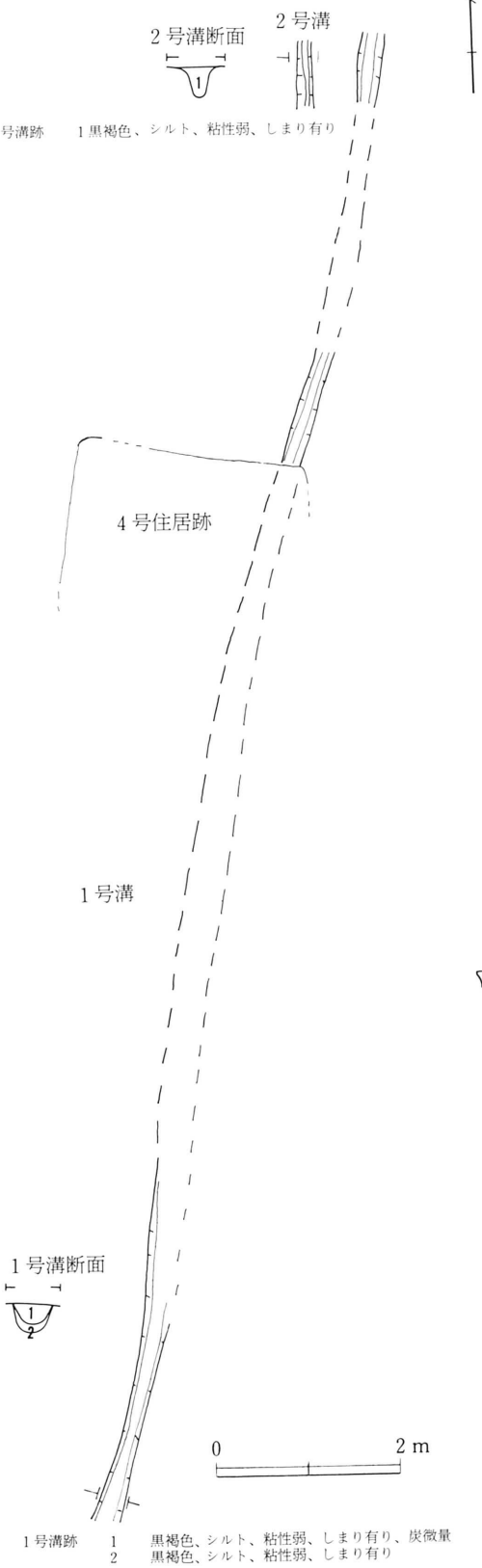
1号住居跡と同様調査区の南東すみで検出された。東側は調査区外に延びる。調査区の東側は舗装された道路になっておりこの住居跡の東側は破壊されている可能性が高い。西辺の長さは6mで今回検出した4棟の竪穴住居跡の中ではもっとも規模が大きい。カマドは検出されていないが調査区外にかかる南東部に焼土が認められ、住居跡の南東部にカマドがある可能性が高い。火山灰は検出されていない。

3号住居跡（第9図）

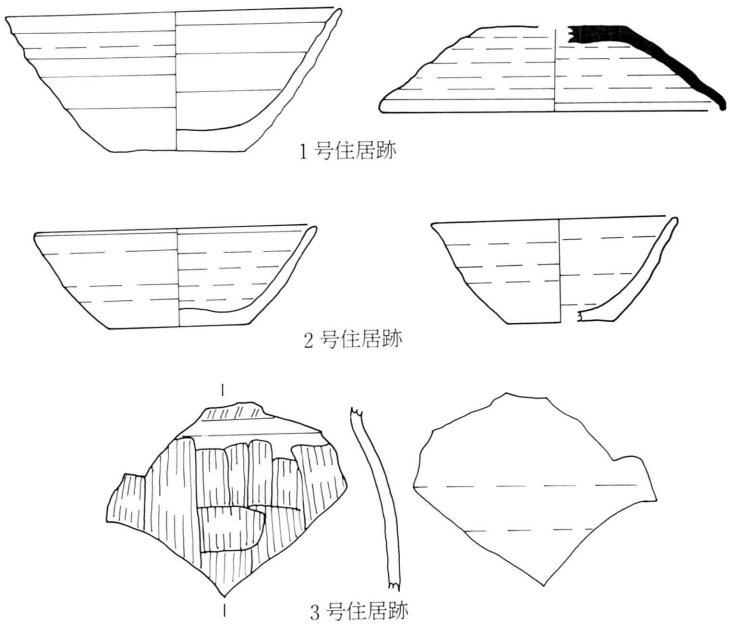
調査区の東側で検出された。西壁と北壁は削平によって失われている。今回の調査で唯一カマドが確認された住居跡で東壁の南側に設けられている。規模は確認できる長さで東壁が3.2m、南壁が2.6mである。実際の規模はこれよりやや大きくなる。須恵器の甕が出土している。本遺構の埋土中には十和田aと推定される火山灰が含まれており、この住居跡は9世紀末から10世紀初頭に廃絶されたと推定される。

4号住居跡（第9図）

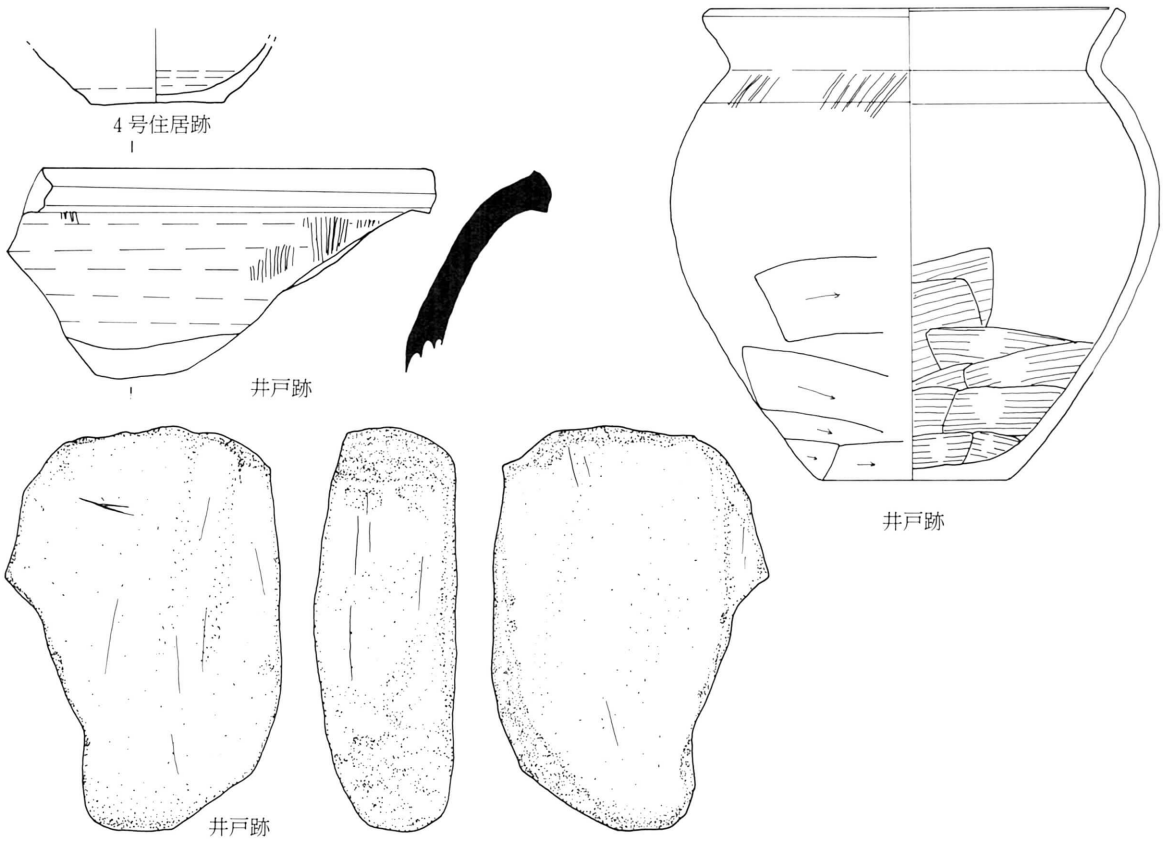
調査区の北西部で検出された。取り壊された県営アパートや建設中の建物の基礎で一部破壊されている。規模は北壁が4.6m、西壁が4.1mである。北東部に焼土が認められたがカマドではない。柱穴は南西部と北側であわせて3つ検出している。土師器の甕などが出土している。また、一号溝と重複しているが新旧関係は不明である。火山灰は検出されていない。



第10図　1、2号溝



第11図　北野Ⅳ遺跡出土遺物(1)（1/4）



第12図　北野Ⅳ遺跡出土遺物(2)（1/4）

1～3号陥し穴状遺構（第9図）

溝状の陥し穴で調査区の北側のほぼ中央で検出されている。1号は長さ1.3m、幅25cm、深さ30cm、2号はで長さ1.5m、幅25cm、深さ68cm、3号は残存している長さは96cm、幅32cm、深さ56cmでいずれもかなりの程度削平されていると考えられる。

井戸跡（第9図）

調査区の北西隅で検出された。開口部は不整な円形に近い形状だが下半部から底部は隅丸方形になっている。開口部径は2.6m、深さ約2m、底部は1辺が80cm前後である。底部からは丸みの強い土師器の甕が破損した状態で出土し、中位までは人為的な堆積と考えられる粘土まじりの黒褐色土で上半部は自然堆積である。上半部からは十和田aと推定される火山灰が検出されているため10世紀初頭と推定される。

1号溝（第10図）　調査区の西側をほぼ南北に縦断する溝跡である。4箇所に分かれて検出された溝跡から全体を復元した。南北いずれの端でも調査区外に延びていく。確認された延長は約30m、幅35cm前後、深さ30cm前後である

2号溝（第10図）

調査区の北西部で1号溝の西隣で検出された。北端は調査区外に延び南側は攪乱によって破壊されているため残存している長さは1.3mで、幅は35cm、深さ30cmである。1号溝が分岐したものか陥し穴状遺構である可能性もある。

1号土坑（第9図）

調査区北側ほぼ中央の1号陥し穴状遺構の西側で検出された。北側半分は攪乱によって破壊されている。平面形はほぼ円形になると推定される。深さは16cmと浅い。

3　県立胆沢病院移転事業関連調査

龍ケ馬場遺跡（ＮＥ26―1252）

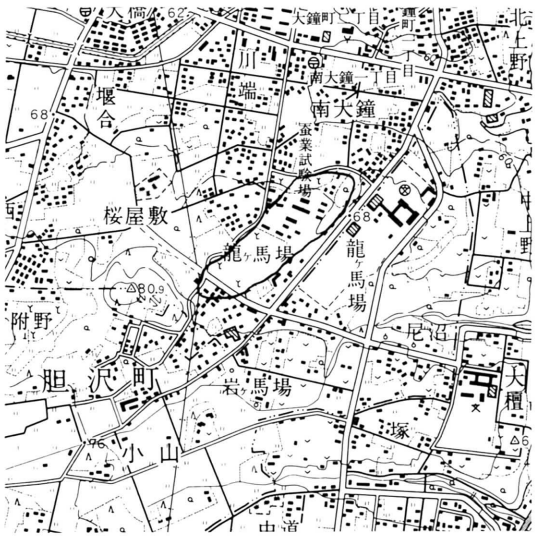
所在地：水沢市龍ケ馬場地内

事業者：岩手県医療局

調査期日：平成７年11月20日～12月８日(のべ６日間)

遺跡は胆沢川等によって形成された洪積低位の河岸段丘上に立地する。遺跡付近は広く平坦面が東西に延びるが、北側では緩く段丘崖を形成し、沖積地に及んでいる。

この遺跡については、すでに平成５年度に試掘調査を実施し、本調査が必要な部分については平成６年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにおいて調査を実施している。その際、平安時代の竪穴住居跡や炭窯跡などが検出されたほか、土師器・須恵器等の遺物が出土している。

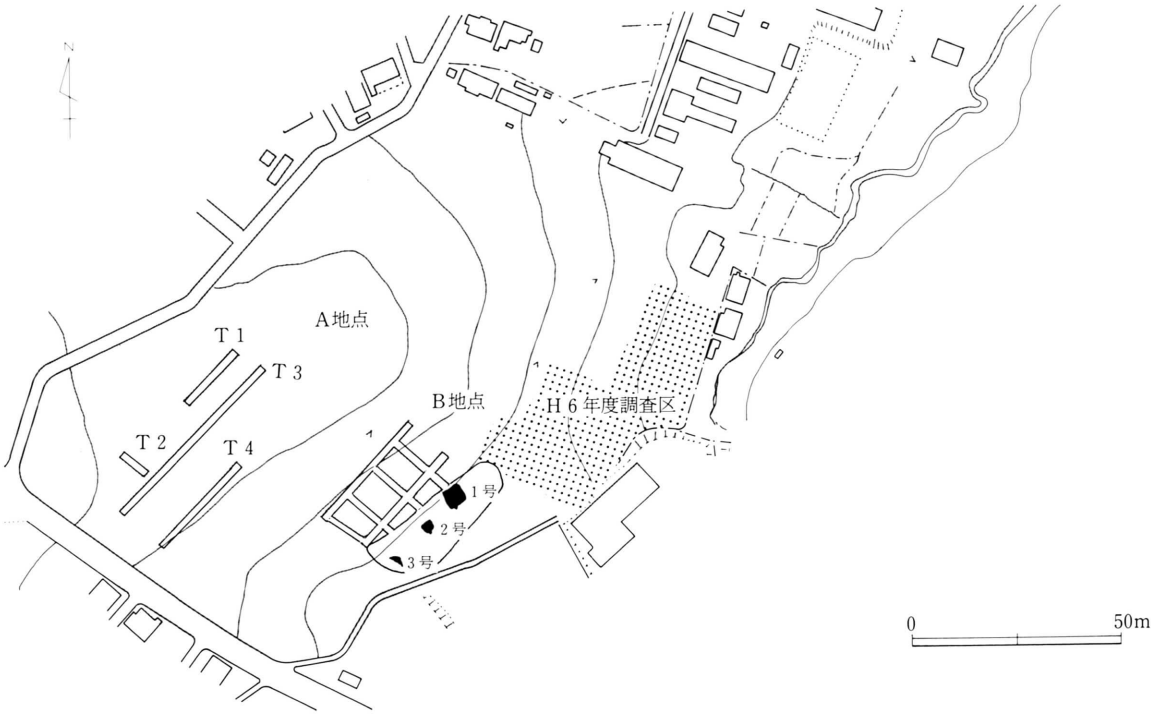


第13図　龍ケ馬場遺跡の位置

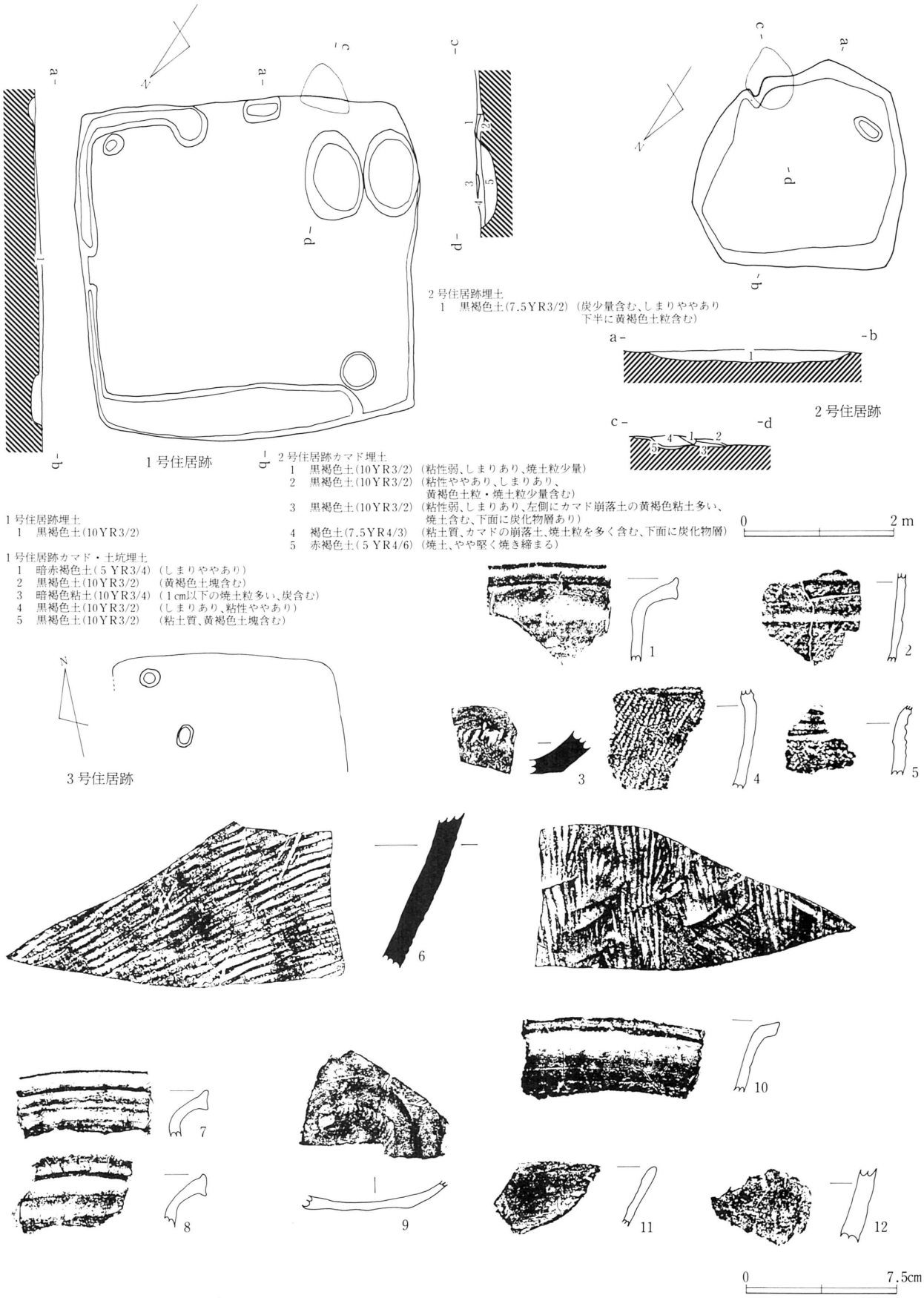
今回の調査は、胆沢病院建設予定地内の一部が、県蚕業試験場の平成７年秋季までの試験期間の桑園であったことから未調査であったため、その部分について実施したものである。基本層序は次の通りである。

Ⅰ層　表土（耕作土）20cm前後、（Ⅱ層　黒褐色土）、Ⅲ層　地山（遺構確認面）20cm以上

残地約4,000m²のうち、西側2,500m²をＡ地点、東側1,500m²をＢ地点とした。Ａ地点にはＴ１～４を設定したが、すでに桑園ほ場を造成した際に削平され、ほとんどの部分で本来の黒褐色土は失われていた。Ｔ２で炭化物と焼土が地山面で確認されたものの、ごく近年のものであると考えられた。その他遺構・遺物は確認



第14図　水沢市龍ケ馬場遺跡調査区位置図



第15図　水沢市龍ケ馬場遺跡竪穴住居跡及び出土遺物

第16図　水沢市龍ケ馬場遺跡竪穴住居跡出土遺物

されなかった。B地点ではT５～12を設定し試掘調査を実施した。A地点同様II層は削平されているものの、T５で竪穴住居跡に伴う焼土類を検出したため、この部分を中心にトレンチを拡大して精査を実施した。精査面積約600m²。

精査の結果、３棟の竪穴住居跡が段丘の縁辺に沿うように検出された。北東から、１号住居跡・２号住居跡・３号住居跡と命名した。なお、このほか土坑状の落ち込みが数ヶ所認められたが、いずれも風倒木痕と判断した。

１号住居跡は１辺が4.4～4.5mの方形を呈する。上部が大きく削平されているため、壁はわずかに確認されたのみである。カマドは東側辺南東コーナー付近に作られる。床よりやや立ち上がるように煙道状の凹部が取り付く。壁際から煙道にかけてもっともよく焼けている。燃焼部付近ではカマド天井部の崩落と考えられる焼土・炭化物がブロックで混じる固い土が見られる。その下部が浅皿状に掘りくぼめられている。南壁際にカマド脇土坑が作られる。長径1.1m程度の小判型である。深さ25cm。埋土に焼土・炭化物が混じる。床面はやや固く、ところどころ撹乱によって凹凸が著しい。貼り床は基本的に行われていない。明瞭な柱穴は確認されなかったが、北東隅と南西隅に円形の落ち込みがあってその可能性を有している。周溝は東壁際と西壁際で幅広く、北壁際では狭い溝状に確認されている。床面からの深さは10cm程度である。１～５が出土遺物。１はロクロ使用の小型の甕で、口縁部外面にタタキ目が観察される。口唇端部はロクロ成形の際につまみ上げられている。黄褐色。２は小型の甕か。ロクロ成形で、体部にタタキ目が観察される。頸部と体部が沈線状の段で区画される。内面は板状工具を使用したナデ。３は須恵器の中型甕。底部と体部の境界に成形のタタキ目を残す。４、５は縄文晩期の土器。本住居跡構築以前に縄文時代の小集落が形成されていた可能性がある。

２号住居跡は１辺が2.7～2.8mの不整な方形を呈する。上部が削平されているものの、20cm程度の壁高を残している。北東隅が歪んでおり、その部分にカマドが作られる。カマド袖は明瞭ではないものの、壁の立

上がりの焼土左にシルトの高まりが認められる。床は軟らかく、貼り床は認められない。床と壁の境界が不明瞭で、なだらかな立ち上がりを見せる。南東隅に柱穴状の楕円形の落ち込みが確認されたが、詳細は不明である。遺物は主にカマド燃焼部付近で出土した。6、14は須恵器大型甕の胴部片。内外面にタタキ痕が観察される。13は須恵器長頸瓶の底部。自然釉が内外面乃び底面に付着する。7は内黒甕。10は内黒坏。11はあかやき坏である。

3号住居跡は上部削平のため竪穴の掘り込みが確認できず、柱穴と地山の土色変化によっておおむねの平面形を把握した。

以上より、本遺跡が縄文時代晩期及び9世紀後半頃を中心とする平安時代の遺跡であることが明らかになった。平成6年度に本調査が行われた部分と合わせ、特に平安時代の炭窯工房を伴う住居配置に新地見が得られた。

4　県道志和石鳥谷線拡幅工事関連調査

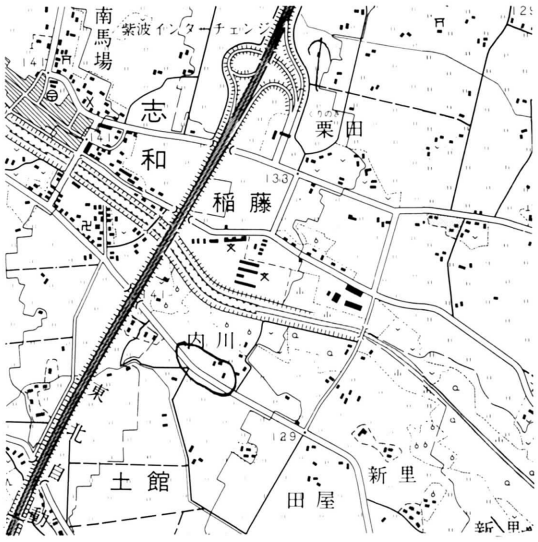
小林遺跡（ＬＥ66―2043）

所在地：紫波郡紫波町土舘字牡丹野

事業者：盛岡土木事務所

調査期日：平成７年４月13日～14日（２日間）

遺跡は滝名川南岸の微高地に立地する。調査区の南西側には県道志和石鳥谷線が南東から北西に延びる。遺跡周辺は開田が進んでいるが今回の調査区は以前にほ場整備が行われた際に埋蔵文化財が確認されたため削平されずに畑としてやや高いまま残されていた。調査区の標高は129m前後で周囲との比高は40cm～１ｍである。



第17図　小林遺跡の位置

今回の調査は県道志和石鳥谷線の拡幅に伴い、平成６年11月22日に行われた試掘調査の結果をうけたもので設計変更による回避が不可能だったため発掘調査することとなった。

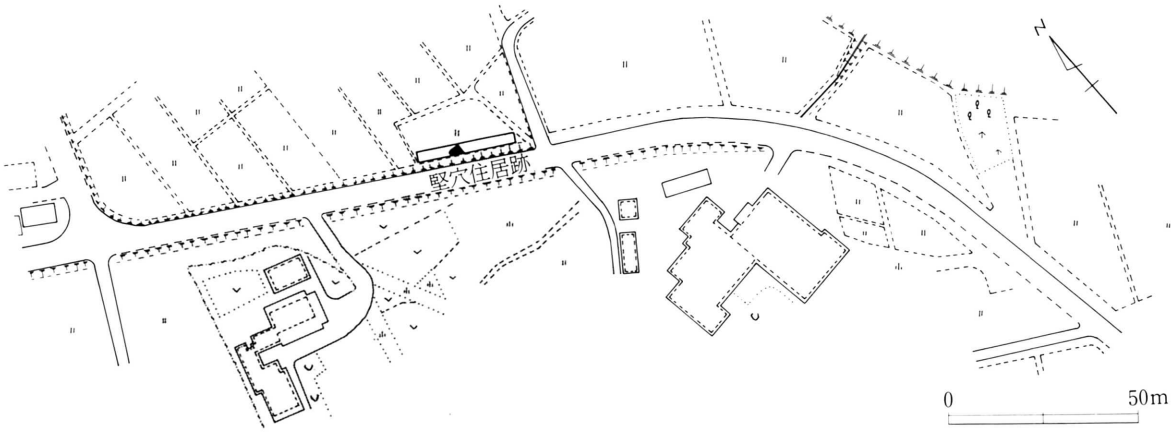
調査でははじめ古代の竪穴住居跡１棟がみこまれたが、結果として２棟の竪穴住居跡が確認されている。２棟はほぼ同じ場所にあり、床面が異なるのと若干一方が広がっていることで２棟の竪穴住居跡としてとらえている。プランがほぼ一致し、カマドの位置も同じため時期差はほとんどないと考えられる。

１号住居跡（第19図）

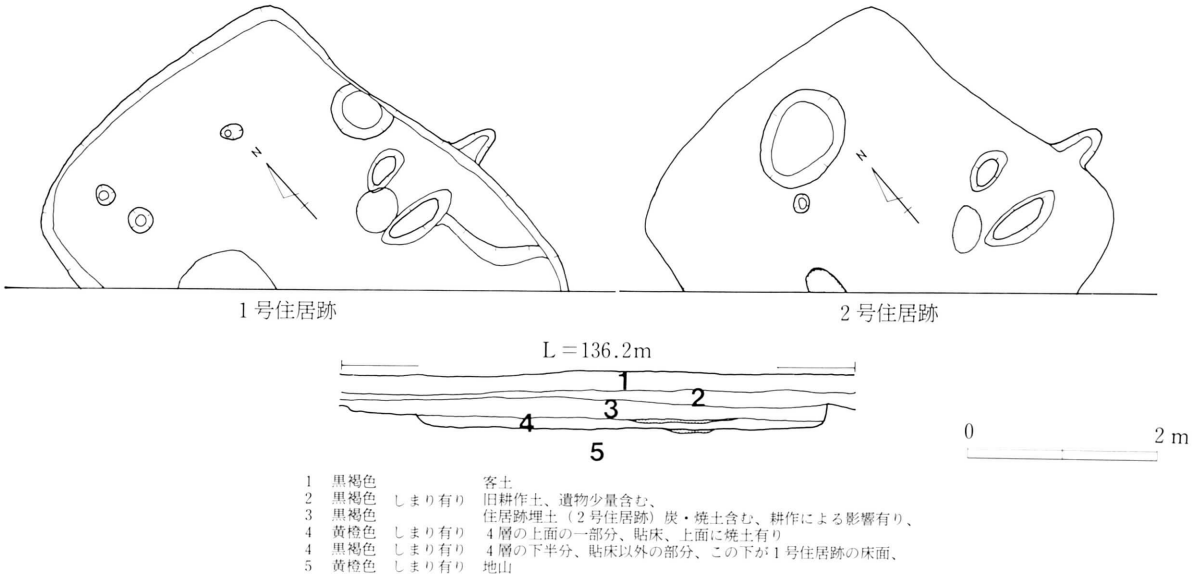
はじめに検出された新しい方の竪穴住居跡である。南西部分は調査区外に延びている。平面形は隅丸の長方形で南壁を除いて２号住居跡と壁を共有している。規模は南北4.8m・東西3.6mで確認された深さは15cmである。２号住居跡に比べ南北に長いためカマドは東壁のほぼ中央に位置しており、煙道は東側に延びている。

床面はほぼ平坦で２号住居跡の床面上に５cmほどの厚さの黒褐色のシルトで貼床を設け、新たに床面を作っている。カマドの袖は２号住居跡と共有しているが燃焼部は約５cmのレベル差がある。また、西側に焼土が認められるがこれも２号住居跡の床面の焼土の真上に有りカマドの燃焼部と同様に５cmほどのレベル差がある。こちらの焼土は２号住居跡の焼土より範囲が広くなっている。

柱穴は北側に３箇所確認され、カマドの北側には土坑があるが、これらも２号住居跡と共有していた可能性が高い。



第18図　小林遺跡調査区位置図



第19図　小林遺跡竪穴住居跡

2号住居跡（第19図）

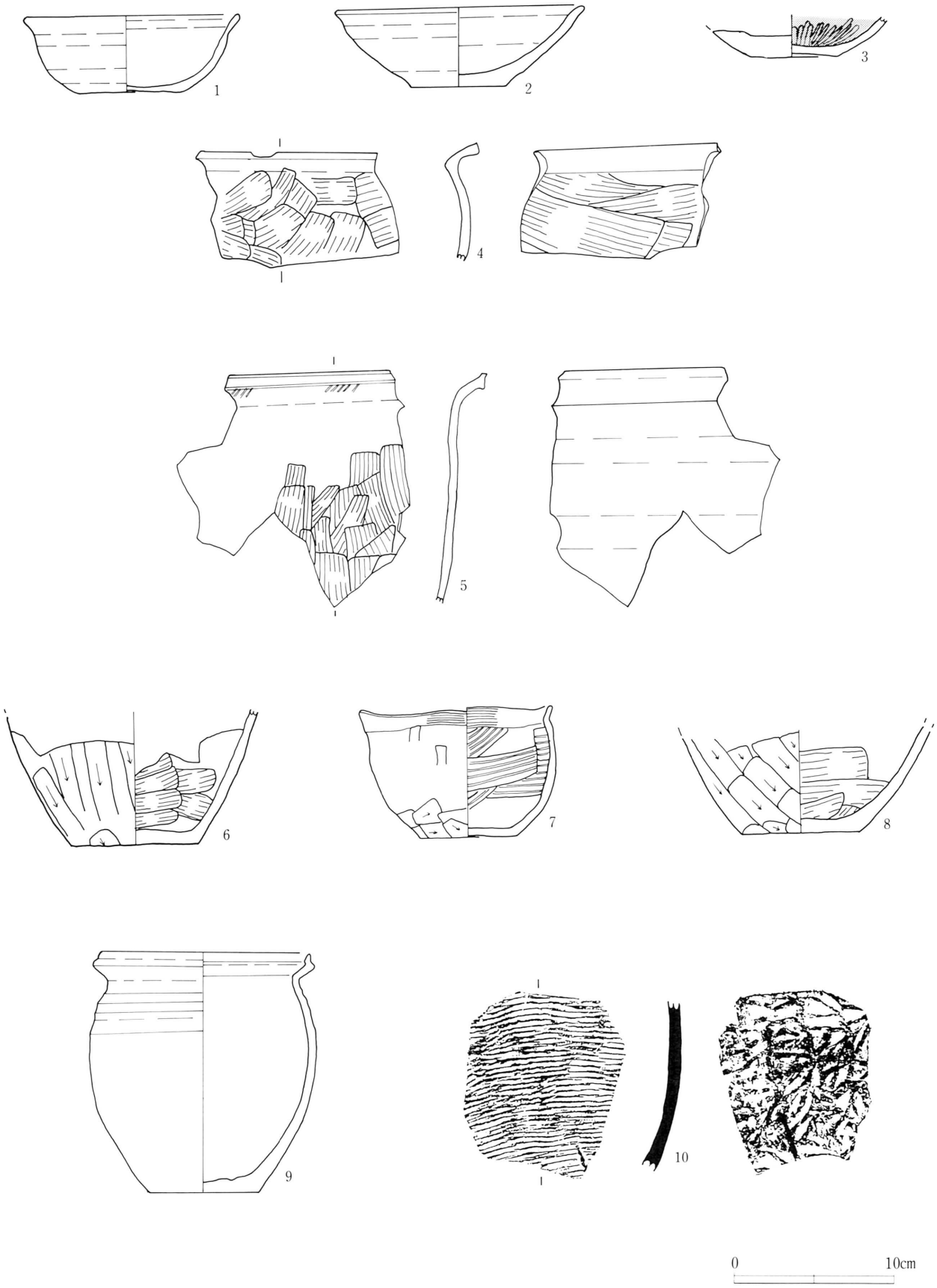
1号住居跡の下から検出された住居跡で、1号住居跡と平面形やカマド・焼土の位置が一定のレベル差を持ちながら一致している。南西部分も同様に調査区外に延びる。

平面形はやや歪んでいるが隅丸方形である。北壁・東壁・西壁は1号住居跡と共有している。規模は南北3.9m・東西3.6mで確認された深さは20cmである。1号住居跡より南北がやや短いためそれぞれが共有しているカマドは東壁の南側に位置し、煙道は東側に延びる。

床面では北側に土坑と柱穴状ピットが確認されている。この2つは2号住居跡の床面では検出できなかったもので、1号住居跡にだけ属する可能性が高い。1号住居跡で検出されたほかの土坑・柱穴については既に述べた様に2つの住居跡で共有すると思われる。ほかに1号住居跡と同じ位置で床面に焼土が検出されている。焼土の範囲は狭くなっている。1号住居跡とは異なり床面には貼床は認められず、黄褐色の地山がそのまま床面として利用されている。

1号住居跡と2号住居跡は床面に5cmほどのレベルの差があり、南壁の位置が異なることを除けばほぼ一致しており、2号住居跡を拡張し、やや高い位置に床面を新たに設ける形で1号住居跡が作られたと考えられる。こうした2棟の住居跡の関係からこの2棟にはほとんど時期差は無く、利用した人々も同じだった可能性が高い。

遺物は1号住居跡と2号住居跡で区別して取り上げることはできなかったが、出土した遺物は概ね新しい1号住居跡に属するものと考えられる。出土遺物は土師器の甕・坏、須恵器の甕・坏などが出土しているほか鉄滓が1点出土している。土師器の坏は内面を磨き黒色処理されたもの2点のうち1点は底部に回転糸切り後再調整が施されているが、内面が処理されていない個体3点は底部も無調整である。土師器の甕にはロクロ使用と使用していないもの両方が有る。いずれも破片の上、残存状況が使用の状況を反映するような条件ではないがロクロを使用していない甕の方が量的には多い。カマド脇から出土したロクロ使用の小形の甕は口唇直下5㎜ほどの部分が内外面両方からえぐれているのが特徴的である。破片であるが同様の口縁部を持つ個体がもう一点出土している。



第20図　小林遺跡出土遺物

5　かんがい排水事業（一方井）地区関連調査

水無遺跡（ＫＥ06―2392）

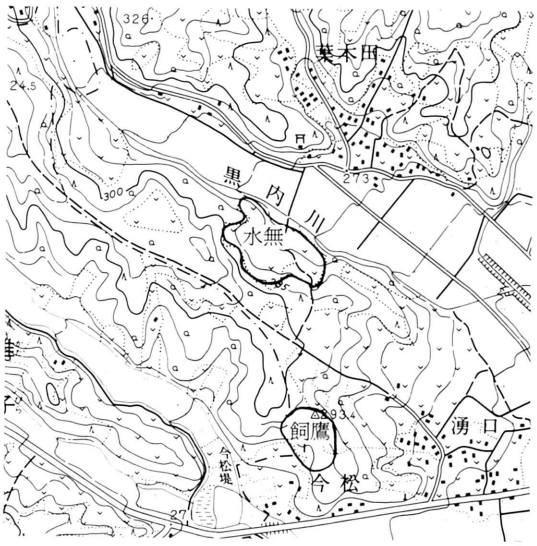
飼鷹Ｉ遺跡（ＫＥ16―0362）　　ほか

所在地：岩手郡岩手町一方井字水無

事業者：岩手北部土地改良事業所

調査期日：平成７年９月18日～11月６日(のべ４日間)

遺跡は黒内川によって開析された丘陵及び河岸段丘上に立地する。今回の調査は延長８kmに及ぶ排水管の埋設に伴うもので、上記２遺跡のほか飼鷹II遺跡（ＫＥ16―0322)、ＫＥ16―1302の２遺跡の試掘調査を行っていて、後二者では遺物・遺構とも確認されていない。



第21図　水無遺跡・飼鷹Ｉ遺跡の位置

水無遺跡は、調査区の中で北端に位置し、現状は畑地である。縄文土器及び土師器が散布している。排水管の埋設は現道下に行われ、掘削幅は上端で2.2m前後である。現道に沿って、南北及び東西にそれぞれＴ１、Ｔ２を設定した。その結果、Ｔ１、Ｔ２でそれぞれ１ヶ所ずつ焼土及び土師器が検出され、平安時代の竪穴住居跡が所在することが明かとなった（１号住居跡、２号住居跡)。

そこで、工法や設計の変更を検討し、２号住居跡については遺構に掛からない範囲で工事を実施することとし、現状での保存が図られた。１号住居跡については可能な範囲で設計変更を行い、再度試掘調査を実施して遺構の有無確認を行ったが、遺構の広がりが確認されたため、記録保存の調査を実施することとした。

基本層序は、Ｉ層　表土（耕作土）30cm、II層　黒褐色土50cm、III層　黄褐色土（地山）30cm以上。

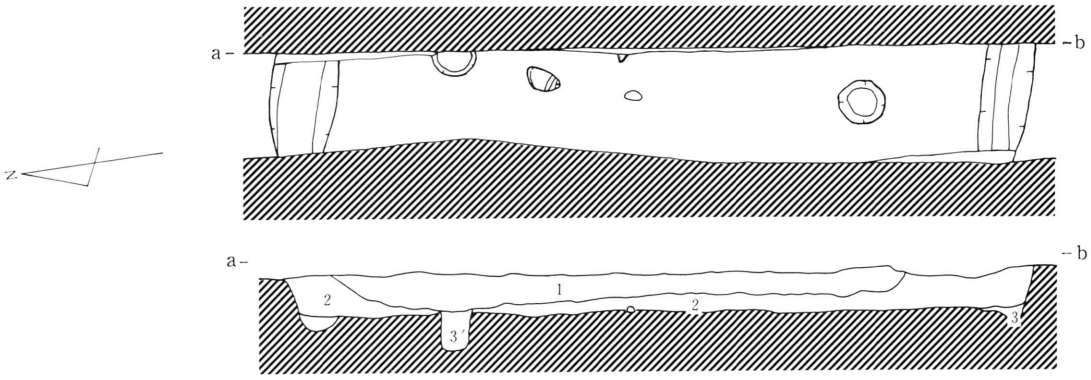
遺構はII層上面で確認することができる。現道との間に残された１m幅の部分は、耕作によってすでに地山まで掘削されていたため、実際に遺存していたのは１m幅程度であった。１辺が７mの大型の竪穴住居跡で、30～40cmの柱穴が２ヶ所で検出されたことから、西壁に近い部分である可能性が考えられる。南北壁際で周溝が確認されているが、上幅70cmと広い。床面はII層中で、やや固い。貼り床は認められない。埋土はII層と類似するものの、わずかに褐色味が強く、また灰白色火山灰をブロック状に含み軟らかい。

出土遺物は平安時代の土師器片であるが、わずかに縄文土器片も出土した。

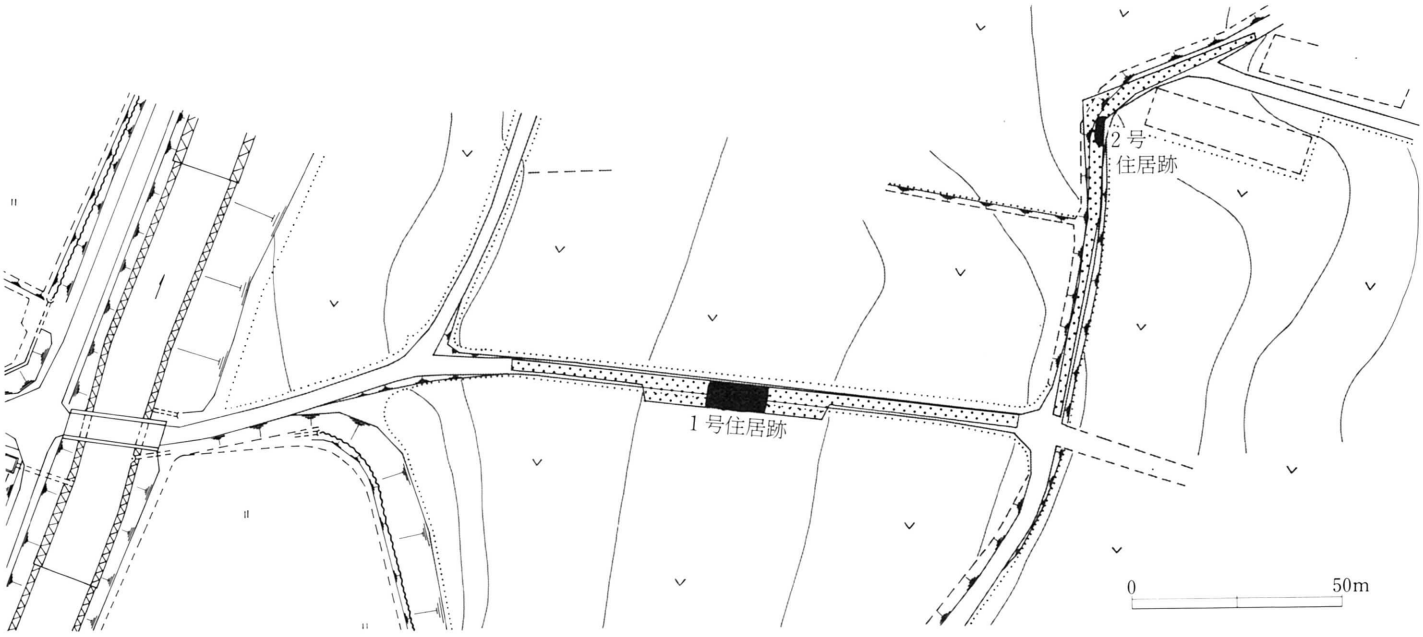
飼鷹Ｉ遺跡は黒内川支流の二双沢東岸の緩やかな南向きの斜面に立地しており、東側は丘陵地になっている。この遺跡の広がる緩斜面は現在畑として利用されており、ここからは縄文土器が表面から採集できる。今回の調査の原因となったパイプラインの埋設予定地は遺跡の西側に位置し、東側の丘陵部との境界にあたる。ここは周囲よりいちだん低く削られた砂利敷きの道路になっている。試掘調査では、この道路に沿ってトレンチをいれ、埋蔵文化財の有無の確認を行っている。

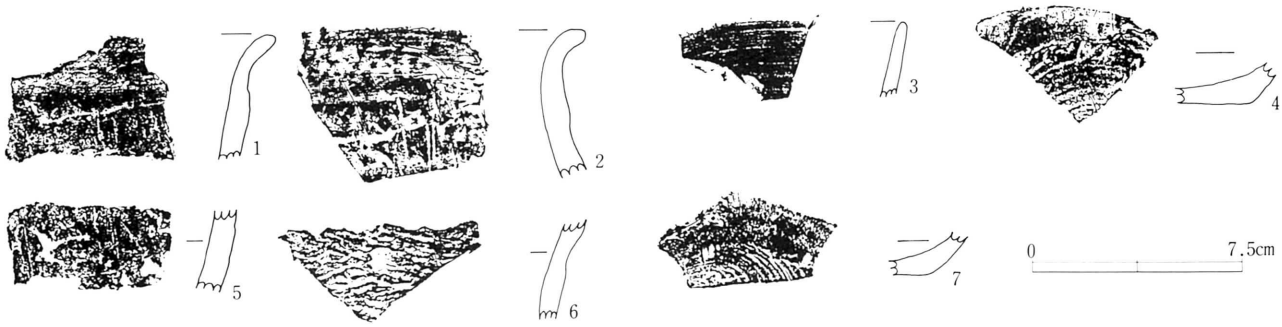
試掘調査の結果、北側にあたる斜面の上方で溝状の陥し穴状遺構が検出された。パイプラインのルートの変更も選択肢のなかにあったが、東側には地形的に移すことができず、西側には計画されたルートより埋蔵文化財の密度が高いと考えられたため、この陥し穴状遺構については発掘調査を行い記録保存することとした。

遺構は表土直下で検出され、検出時には１基かと思われたが大きさの異なる２基の溝状の陥し穴状遺構が若干方向をずらす形で重なっていた。長い方は開口部の長さ４m、幅40cm、深さ１mで、短い方は開口部の長さ3.2m、幅40cm、深さは90cmである。中央の断面では底の深い長い方の断面が観察され、浅く短い陥し穴

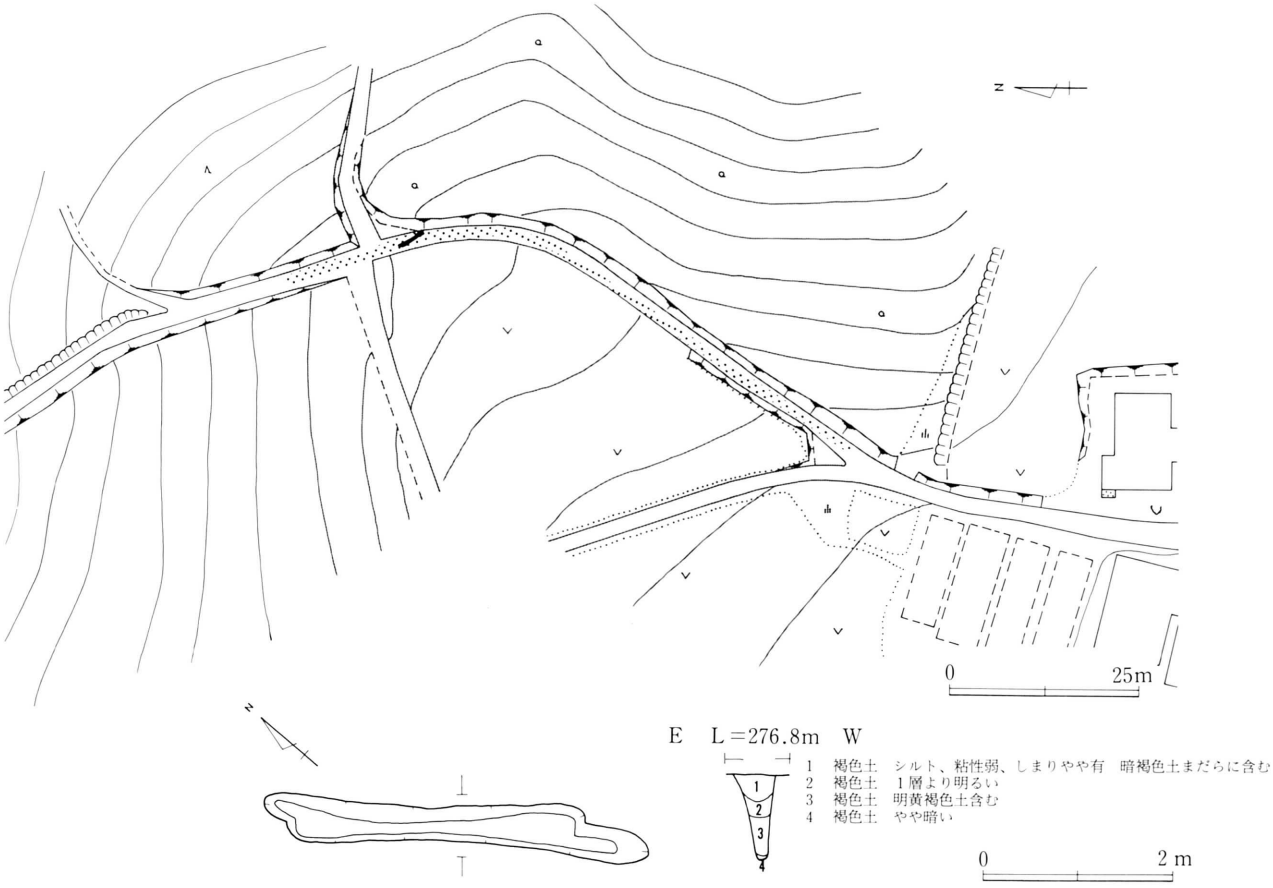


1号住居跡埋土
1　黒褐色土(十和田a火山灰ブロック状、小礫含む)
　　やわらかい、遺物小片はいる
2　暗褐色土(黄褐色土細粒まじる、中せり火山灰状の浮石)
　　やわらかい、遺物少量
3　暗褐色土(2と類似、炭化物粒多い)
3′　暗褐色土(3より暗く、粘性有り)





第22図　水無遺跡調査区・竪穴住居跡及び出土遺物



第23図　飼鷹Ⅰ遺跡調査区位置図、遺構

状遺構の底部は断面で確認できない。従って、長い方が新しい陥し穴状遺構と判断される。遺物は出土していないが縄文時代と推定される。

6　低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業関連調査

大久保遺跡（ＭＦ43―2232）

所在地：遠野市綾織町下綾織大久保

事業者：遠野地方振興局農政部

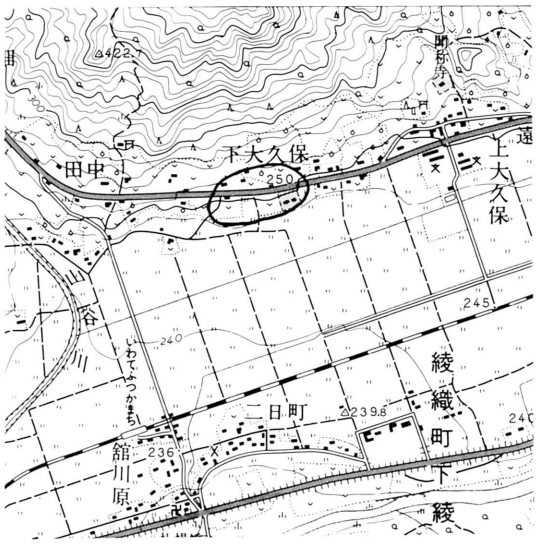
調査期日：平成７年８月22日（１日間）

遺跡は猿ケ石川によって形成された段丘上に立地している。この遺跡は７月25～26日に試掘調査を行っている。試掘調査で陥し穴状遺構が確認されており、ほ場整備による掘削を避けることができなかったため今回の発掘調査が行われた。

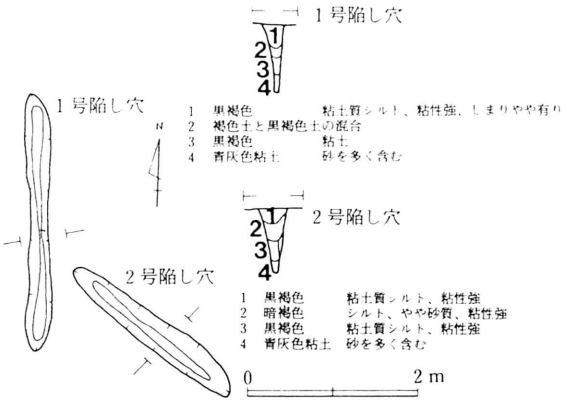
調査区の標高は約280mで現状でも水田となっている。調査区は段丘縁にあたり、南側が一段低くなっている。比高は４～4.6mである。今回の調査では２基の陥し穴状遺構はが検出された。

２基の陥し穴状遺構は溝状の平面形を持つもので水田の南西隅に軸方向は異なるが並んで検出された。西側の１号陥し穴状遺構はほぼ南北方向に沿った軸方向で長さ3m、幅30cm、深さ80cmである。

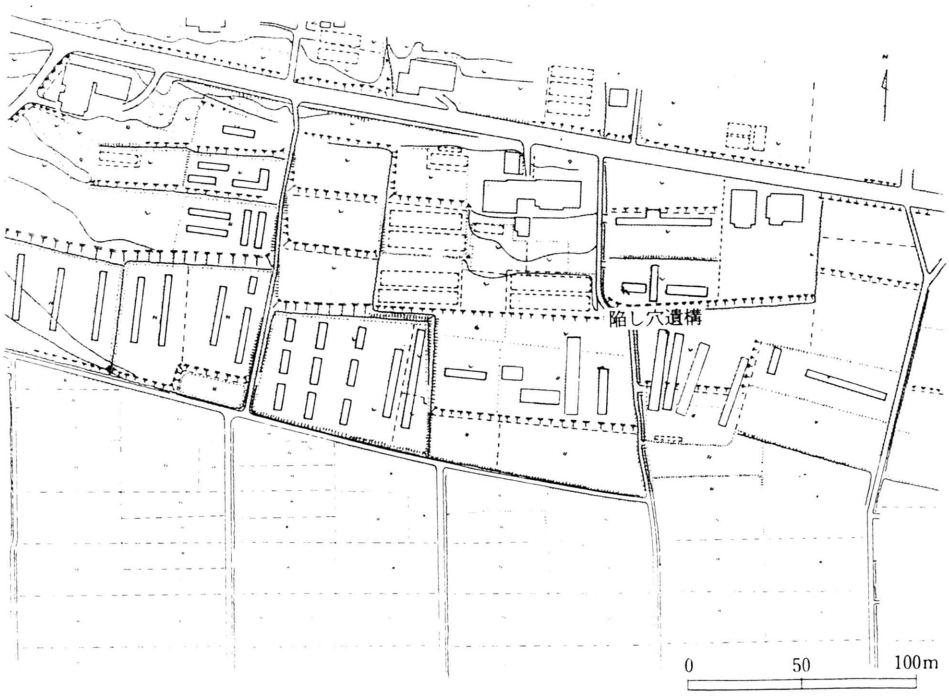
２号陥し穴状遺構は、１号の南東の隣に有り軸方向は45°程度西側に傾く。規模は長さ2.3m、幅40cm、深さ80cmである。１号よりやや短い。



第24図　大久保遺跡の位置



第25図　遺跡陥し穴状遺構



第26図　大久保遺跡調査区位置図

7　三陸縦貫自動車道建設山田道路関連調査

山ノ内Ⅲ遺跡（ＭＧ14―0281）

所在地：山田町船越字山ノ内地内

事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所

調査期日：平成７年11月13日～29日（延べ13日間）

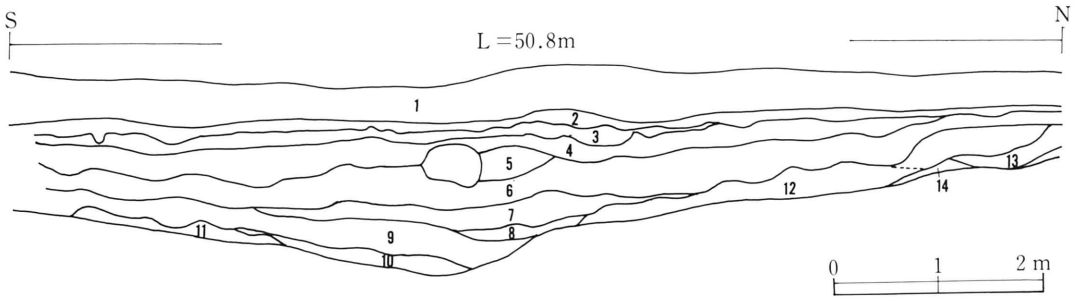
遺跡は東に船越湾をのぞむ台地上に立地しており、南側には沢が東西に走っている。平成７年９月19日の試掘調査の結果、この位置で縄文時代前期の土器や炭化物・焼土などが確認され、発掘調査を行うこととなった。

第27図　山ノ内Ⅲ遺跡の位置

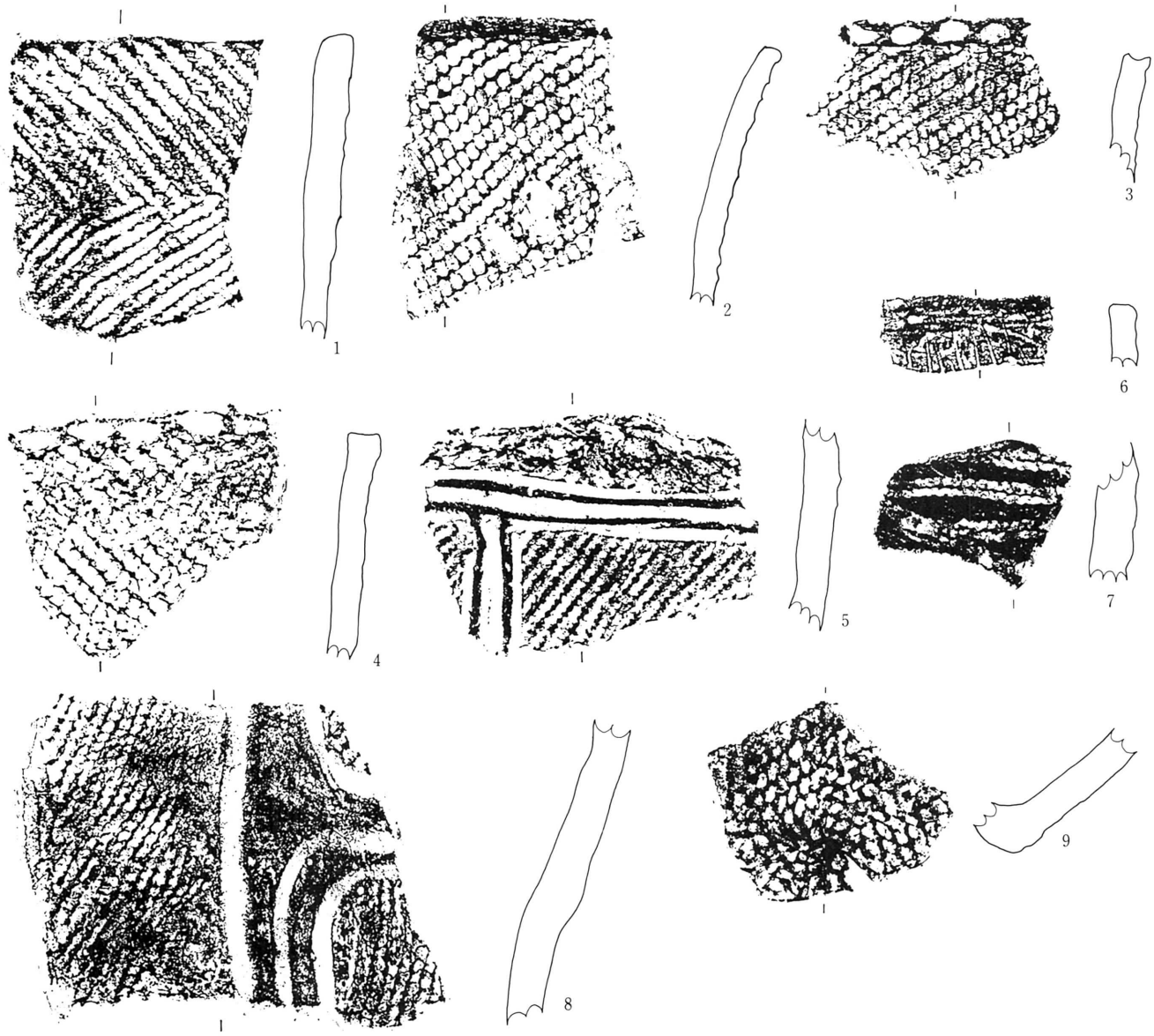
本遺跡は平成５・６年の２年に亘って（財）文化振興事業団埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われている。調査されたのは今回の調査区の西側とやや離れた南側で縄文時代中期の集落跡や平安時代の製鉄関連遺構などが検出されている。住居跡は検出されていないが縄文時代前期前葉の土器も多く出土し、中期の土器と併せてほとんどを占めている。

今回の調査区は東西に延びる沢状の浅い窪地が埋没した部分で、北側の斜面に比較的遺物が多く出土している。包含層が形成され始めた頃にはもっとも低い部分は埋まって若干周囲より低いもののかなり平坦な地形になっていたようである。南側には花崗岩の礫や花崗岩が風化した砂などが多い。調査面積は約400m²である。１層は最近の盛土で厚さ約40cmで、２層は盛土が堆積する以前の表土と考えられる。地山部分は比較的平坦だが遺構は検出されていない。遺物あるいは遺物の出土状況からこの位置にまとめて土器を廃棄したのではなく西あるいは北側から二次的に移動した可能性がある。

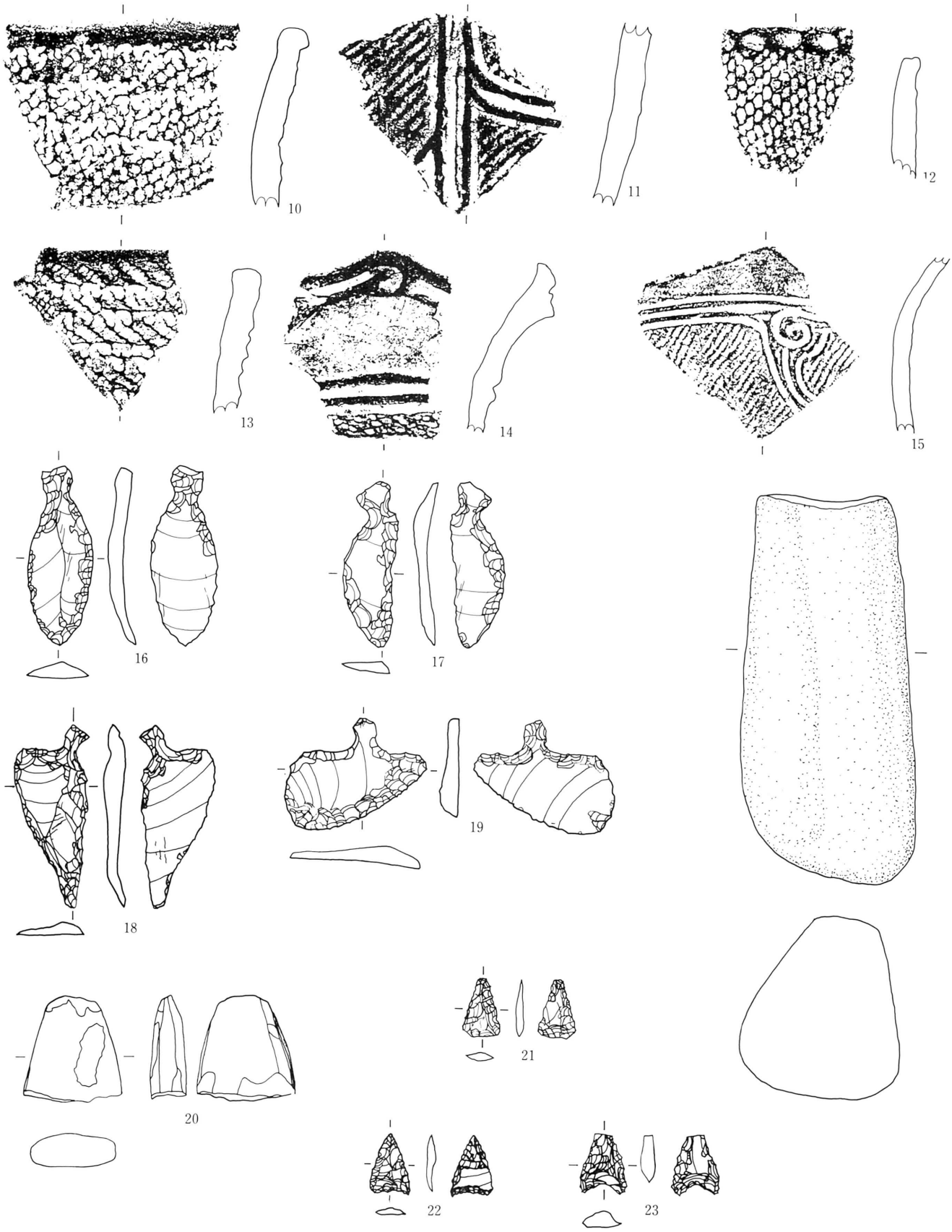
第28図　山ノ内Ⅲ遺跡調査区位置図



1		盛土
2	黒褐色	砂質シルト、粘性なし、しまり有り、花崗岩の風化した砂を若干含む
3	黒褐色	シルト、粘性・しまりやや有り、
4	北側　黒褐色	シルト、粘性・しまりやや有り、砂少量含む、やや黄色みが強い
4	南側　黒褐色	シルト、粘性・しまりやや有り、花崗岩礫などを含む
5	黒褐色	シルト、粘性なし、しまりやや有り
6	北側　黒褐色	シルト、粘性なし、しまりやや有り
6	南側　黒褐色	花崗岩礫などを含む（4層より多い）
7	黒褐色	シルト、粘性やや有り、しまり有り、砂少量含む
8	黒褐色	シルト、粘性やや有り、しまり有り
9	黒色	シルト、粘性なし、しまりやや有り、花崗岩粒（5㎜以下）含む
10	黒褐色	砂質シルト、粘性やや有り、しまり有り、花崗岩粒（1㎝以下）含む
11	にぶい黄褐色	シルト、粘性やや有り花崗岩礫などを含む
12	暗褐色	砂質シルト、粘性なし、しまり有り、砂含む
13	暗褐色	シルト、やや粘性有り、しまり有り、花崗岩粒（1㎝以下）含む
14	褐色	粘土質シルト



第29図　山ノ内Ⅲ遺跡西壁断面、出土遺物



第30図　山ノ内Ⅲ遺跡出土遺物

II　試掘調査

1　一般国道４号渋民バイパス事業関連調査

長渡遺跡（ＫＥ75―2180）

所在地：玉山村渋民地内

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成７年５月９日～18日

渋民バイパスの予定ルートは現在の国道４号の東側に平行し丘陵部を南北に延びていく。長渡遺跡は玉山村渋民の北上川の東岸に位置し、沖積地が入江状に入り込む丘陵の裾の緩やかな斜面上に立地している。現況は水田になっており標高は205m前後である。水田造成の際に斜面の上方は削平され下方にその土を盛っている。

第31図　長渡遺跡の位置

今回の試掘調査では遺跡範囲の内バイパス予定地に５箇所のトレンチを設定し、埋蔵文化財の有無と状況の確認を行っている。調査区は１層が水田耕作土で２層が盛土になっている。遺構の存在は３層めの黒褐色土で確認することができた。遺構が確認されたのはＴ1とＴ4で遺構と考えられる場所が３箇所検出されている。時期ははっきりしないが竪穴住居跡である可能性がある。当初、遺跡の範囲は水路の北側が除かれていたがトレンチを設定した地点と一連の地形と判断して発掘調査予定地に含めている。（平成８年度本調査予定）

第32図　長渡遺跡調査区位置図

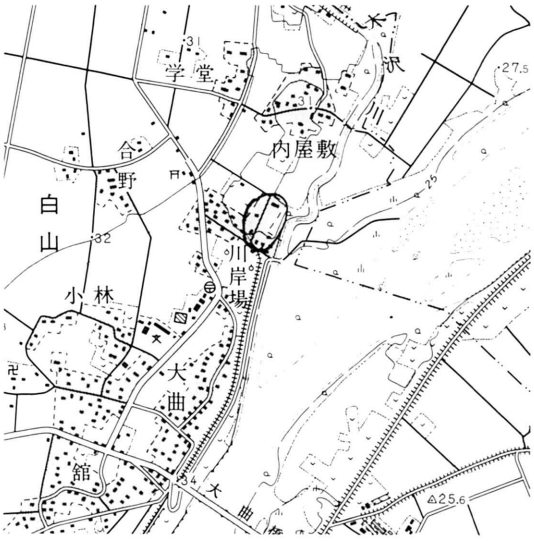
2　北上川上流北上川白山築堤事業関連調査

川岸場II遺跡（ＮＥ47－0190）

所在地：胆沢郡前沢町白山字川岸場

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成７年６月８日



第33図　川岸場II遺跡の位置

遺跡は北上川右岸の自然堤防上に立地する。標高30m。試掘トレンチは、この自然堤防を東西に横断する形で設定した。遺跡内は近年まで主に宅地として利用されており、特に南側では住宅のコンクリート敷がそのまま残されていた。また、北側の一部分で径10mほどの抜根による掘削が認められた。Ｔ１ではII層上で焼土が検出されている。また、Ｔ２～５では縄文時代晩期後半から終末にかけての土器・石器類がII層及びIII層中で出土している。北側のトレンチほど時期的に新しくなるようである。なお、遺跡北側には近世期の土塁状の積み上げが確認される。（平成８年度本調査予定）

第34図　前沢町川岸場II遺跡調査区位置図及び出土遺物

3　三陸縦貫自動車道山田道路建設事業関連調査

山ノ内II遺跡（MG14—0280）

所在地：山田町船越山ノ内地内

事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所

調査期日：平成７年６月30日

第35図　山ノ内II遺跡の位置

山ノ内II遺跡は船越湾の北西に位置し、西から東に向かって延びる尾根上とその南側の沢に広がりをもっている。標高は沢部分で30～55m、尾根上で66～75mほどである。今回の試掘調査は尾根上の部分とそこから沢に向かう斜面にかけての範囲を対象としている。調査区西側に隣接した尾根から沢にかけての一部については昨年度の試掘調査の結果、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって平成７年度に発掘調査が行われており、縄文時代中期の集落跡や平安時代の製鉄関連遺構が確認されている。今回の試掘調査はこの調査期間中に、県埋文センターの協力を得ながら行われた。

試掘調査では、８箇所のトレンチを設定し埋蔵文化財の有無と残存状況の確認を行った。調査の結果、尾根から南側の沢に向かう斜面では遺構・遺物とも確認できなかった。尾根部分については東半分では縄文土器が出土している。また、西側では炭窯・土坑・鉄滓などが検出され、製鉄あるいはそれに関連する遺構・遺物の存在が予想された。

今回の試掘調査区域については、遺構・遺物とも確認されていない斜面部分を除き、県埋文センターの今年度調査範囲に組み込んで発掘調査が行われることとなった。

第36図　山ノ内II遺跡調査区位置図

4　三陸縦貫道山田道路建設事業

沢田II遺跡（ＬＧ94―0033）

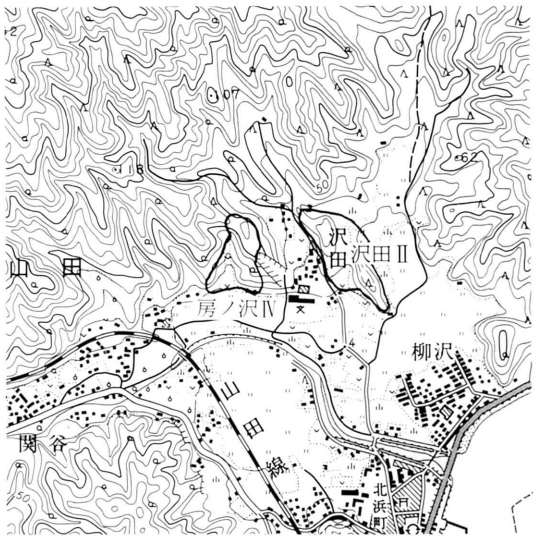
現在地：下閉伊郡山田町山田第４地割沢田地内

事業者：建設省三陸国道工事事務所

調査期日：平成７年10月31日

遺跡は山田湾に流入する小河川などによって形成された扇状地の縁部及び背後の丘陵から延びる独立丘陵状の尾根上に立地している。標高30m。

中世期の館跡は尾根上の平坦部をさらに削平して、主郭を形成している。試掘トレンチを設定したが、建物等の痕跡は確認されなかった。帯曲輪が存在した可能性もあるが、南西部は伐採された木材の搬出用林道が新規に作出されて、詳細は不明である。北東部は２段の平場が明らかに人工的に形成されてれいる。この館の東側には畑地を挟んでもう一つ類似した独立丘陵が存在し、同様に空堀や曲輪を観察することができる。この館の主要な部分を含めた東側斜面及び下部では、縄文時代及び古代の遺跡が形成されている。厚く遺物を含む山砂が堆積し、その下位に製鉄もしくは鍛冶に関連した鉄滓などの遺物と炭化物、焼土が検出された。（平成８年度本調査予定）



第37図　沢田II・房ノ沢IV遺跡の位置

第38図　沢田II遺跡調査区位置図

5　三陸縦貫自動車道山田道路建設事業関連調査

房の沢IV遺跡（ＬＧ93―0359）

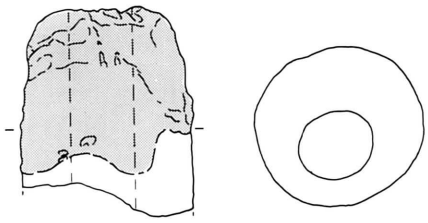
所在地：山田町山田第14地割地内

事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所

調査期日：平成７年６月30日

房の沢IV遺跡は山田町中心部の北に位置する。尾根を一つ東側に越えたところに山田北小学校があり、さらに東側には沢田II遺跡がある。遺跡は沢の埋没した部分と丘陵部分からなるが、丘陵部分については杉の立木のため試掘調査はできなかった。

今回の調査では試掘トレンチを９箇所設定して埋蔵文化財の有無と残存状況を確認している。調査区は黒褐色土が厚く堆積している。調査の結果、Ｔ1で羽口・木炭片、Ｔ4で焼土が検出された。そのほかのトレンチでは遺構・遺物は確認されなかった。調査した範囲の内東側が遺構・遺物の比較的密度が高いと考えられる。また、羽口や木炭が検出されていることから製鉄に関連した遺構や遺物の存在が予想される。今回調査できなかった東側の斜面にもそうした遺構が存在する可能性がある。(平成８年度本調査予定)



第39図　出土遺物

第40図　房の沢Ⅳ遺跡調査区位置図、出土遺物

6　胆沢ダム建設事業関連調査

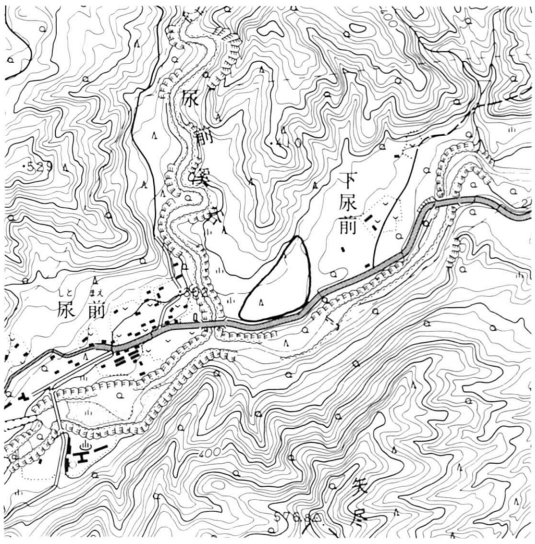
下尿前Ⅳ遺跡（ＮＥ21－2312）

所在地：胆沢郡胆沢町大字下尿前

事業者：建設省東北地方建設局胆沢ダム工事事務所

調査期日：平成７年９月12日～14日

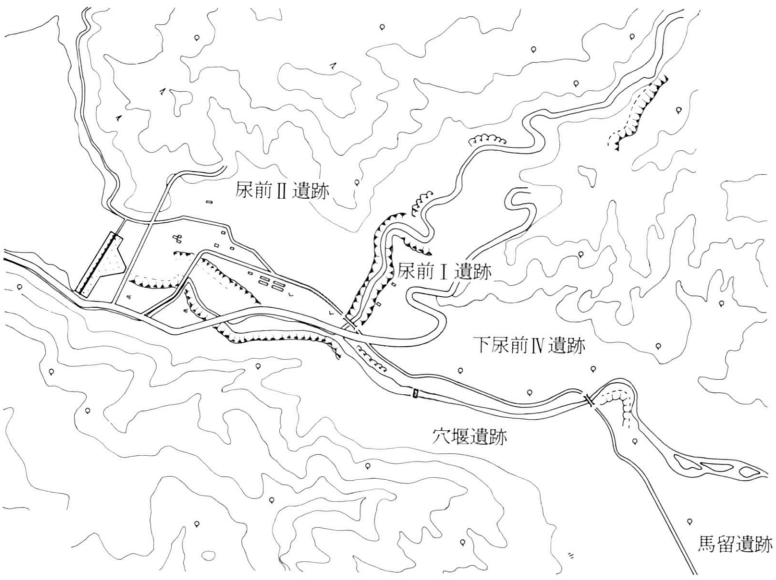
遺跡は胆沢川と尿前川が合流する地点に形成された河岸段丘上に立地する。現河床との比高は60m前後。

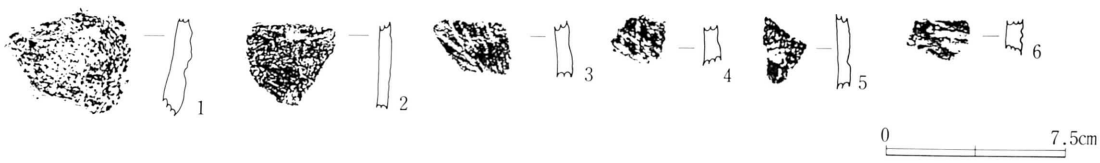


第41図　下尿前Ⅳ遺跡の位置

遺跡西側の尿前川に面した箇所については平成４・５年度に調査を終了しており、今回調査対象とした約26,000㎡が未了部分であった。Ⅲ層（地山）中には崖錐起源と考えられる径１m前後の亜角礫、円礫が包含されている。また、全体に腐食土層が未発達である。Ｔ４～８では竪穴状の遺構や小規模な焼土遺構が検出され、弥生時代後期を中心とする土器片が出土している。しかし、遺物の出土量は少なく、一帯に大規模な集落跡などが営まれていた可能性には乏しい。立地から予想された旧石器時代にさかのぼる遺跡は出土していない。また、他のトレンチではほとんど遺物が出土せず、また遺構も確認されなかったことから本調査対象範囲からは除外した。（平成８年度本調査予定）

平成７年度にはこのほか尿前Ⅰ遺跡の試掘調査を実施した。この遺跡範囲はかつて学校や住宅などが立ち並び、遺跡本来の状況は大幅に改変されている。当初国道397号の北側が遺跡の中心と考えていたが、撹乱土層中ではあるが、国道南側の段丘先端部より若干の縄文土器片が出土した。





第42図　胆沢ダム関連遺跡及び下尿前Ⅳ遺跡出土遺物

第43図　胆沢町下尿前Ⅳ遺跡調査区位置図

7　一般県道侍浜夏井線道路改良事業関連調査

麦生III遺跡（ＪＧ11―1077）

所在地：久慈市侍浜町字麦生地内

事業者：久慈土木事務所

調査期日：平成７年11月21日

遺跡は久慈湾の北側を区画する海岸段丘もしくは丘陵端部に立地する。この北西部分を中心に古い丘陵が開析され、ところどころ緩やかな沢状の地形を形成している。

麦生地区には今回調査した３遺跡のほか、縄文時代を中心とする遺跡が全部で10ヶ所以上確認されている。宅地、畑地のほか山林として残されている部分も多く、遺跡の数はなお増加する可能性を有している。

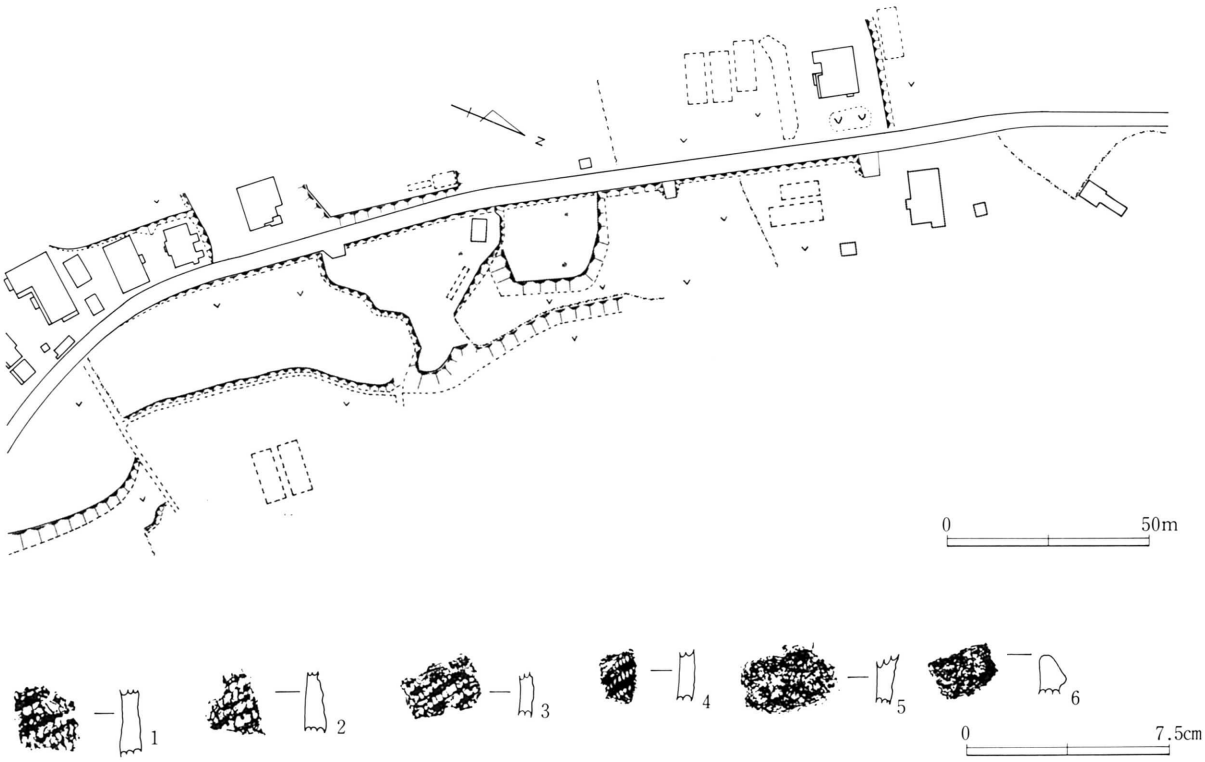
第44図　麦生Ⅲ・Ⅸ遺跡の位置

麦生III遺跡は、現道の拡幅部分が遺跡と重なったため、十分な範囲で試掘トレンチを設定できなかったものの、付近の畑地からは縄文時代前期及び後期の土器・石器類が多量に採取されていることから、本調査を実施することとした。

麦生IX遺跡は道路が新設される部分にあたり、南西部が段丘崖となり久慈湾に面している。現在は畑地として利用されている。Ｔ１～５の試掘トレンチを設定した。Ｔ１及びＴ２では傾斜がやや急であるためか、現耕作土直下に本来存在したII層（遺物包含層）が失われ、地山直上で焼土及び土坑が検出されている。またＴ３では炭化物が集中する箇所があり、遺構の存在が予想された。縄文時代中期の土器・石器が出土している。Ｔ４・５では、厚くII層が堆積している。表面でわずかに遺物が採取されるものの、試掘トレンチでは遺物等は確認されず、この付近については本調査の必要は認められないと判断した。（平成８年度本調査予定）

麦生VIII遺跡は、III遺跡同様現道の拡幅部分にあたっている。現在は水田及び休耕田を転作した畑地として利用されている。試掘した範囲ではすでに地山が大きく削平されていることが明らかになり、遺跡の現状を止めていなかった。

第45図　麦生Ⅸ遺跡調査区位置図及び出土遺物



第46図　麦生Ⅲ遺跡調査区位置図及び出土遺物

8　一級町道津谷川線（代行事業）整備関連調査

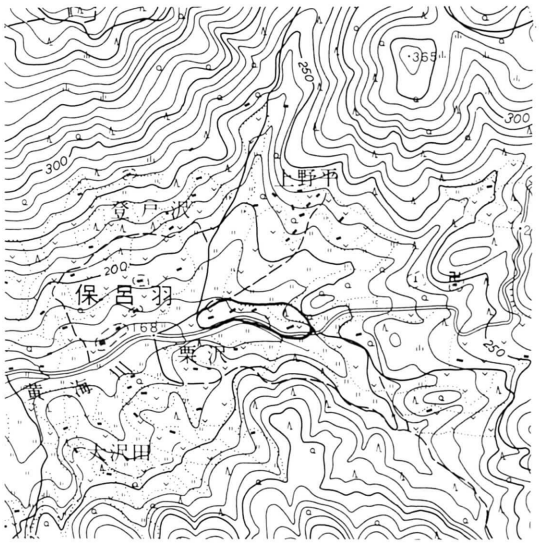
上野平遺跡（ＯＦ22―2019）

所在地：東磐井郡藤沢町保呂羽字上野平地内

事業者：千厩土木事務所

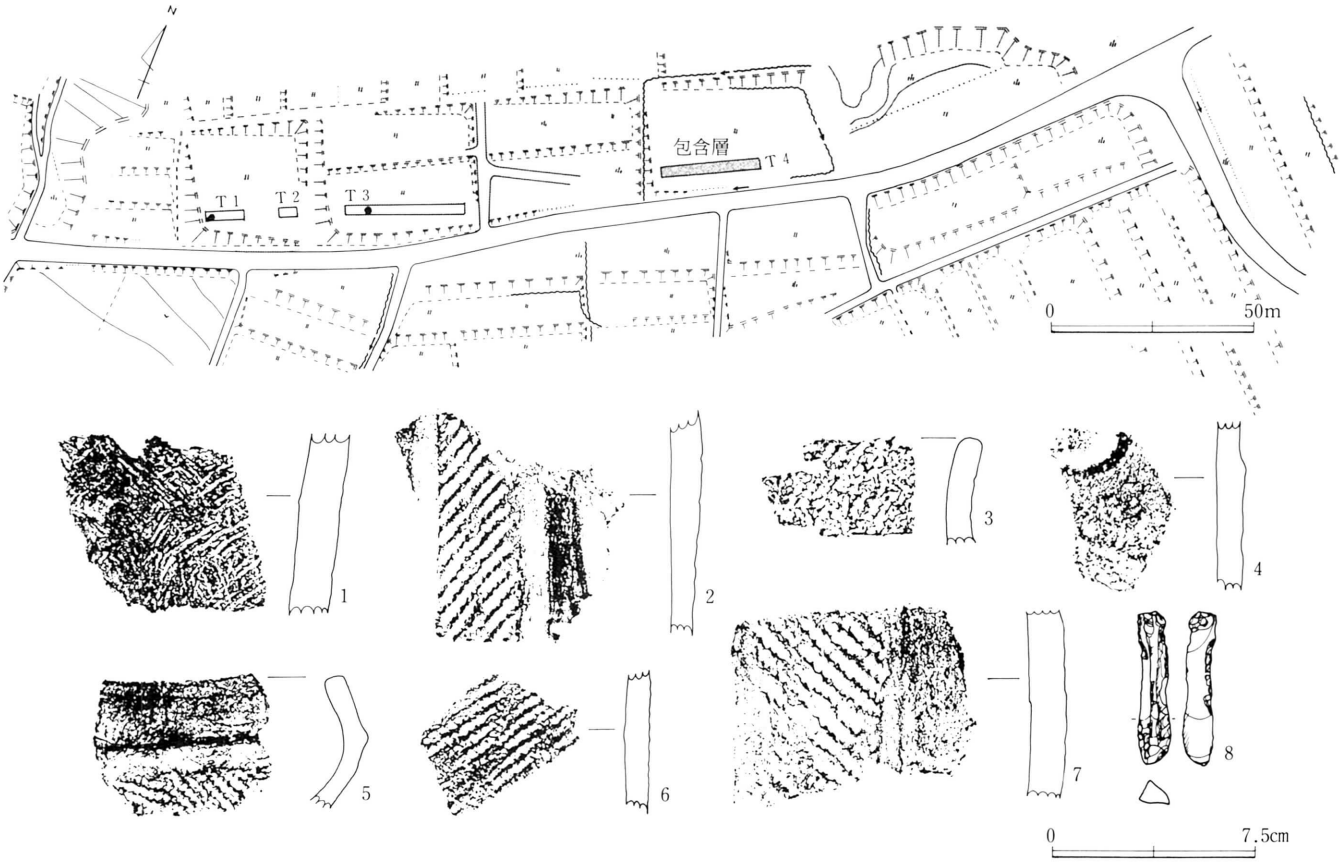
調査期日：平成７年３月７日～８日

遺跡は北上山系から流れ出る２つの小河川によって挟まれた丘陵裾部に立地している。標高190m。遺跡付近は開田が進み、本来の地形は大きく改変されている。以前の造成の際に、多量の土器等が出土したことが伝えられている。



第47図　上野平遺跡の位置

今回の調査の主目的は、遺跡の内容がどの程度残されているかについて、確実なデータを得ることであった。その結果、Ｔ１では当初の地形において低位の部分に上方を削平して盛土がなされ、水田面の水準を調整したことが明らかになった。そのため、西側では２ｍの盛土が観察され、その下部で土坑が検出された。Ｔ３・４では遺物包含層であるII層は削平されていたが、地山面で土坑が確認された。Ｔ４では縄文時代中期の土器および石器類がやや多量に出土し、道路側に向かって若干の遺物包含層を形成している状況が観察された。出土石器中には頁岩のほか、黒曜石を素材として用いているもが多く、付近の原石を採取して利用していることが予想される。（平成８年度本調査予定）



第48図　藤沢町上野平遺跡調査区位置図及び出土遺物

9　一級河川岩崎川中小河川改修事業関連調査

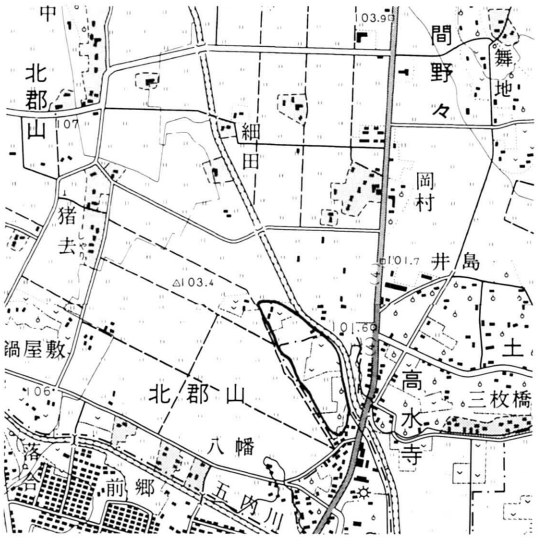
稲村II遺跡（ＬＥ57―1141）

所在地：紫波町高水寺地内

事業者：盛岡土木事務所

調査期日：平成７年11月20日

稲村II遺跡は紫波町の北部を流れる岩崎川と五内川に挟まれた沖積地にあり、岩崎川西岸の自然堤防上に立地している。遺跡の標高は100m～101.6mで、現況は水田あるいは宅地である。今回の試掘調査は岩崎川の河川改修に伴うもので、ほかに周辺にある稲村Ｉ遺跡・高水寺遺跡も併せて試掘調査を行っている。また、遺跡は今回の調査区の西側にも広がっており調査区の南部の西側の隣接地では紫波町教育委員会によって民間の住宅開発に伴う発掘調査が行われ、奈良時代の竪穴住居跡などが検出されている。

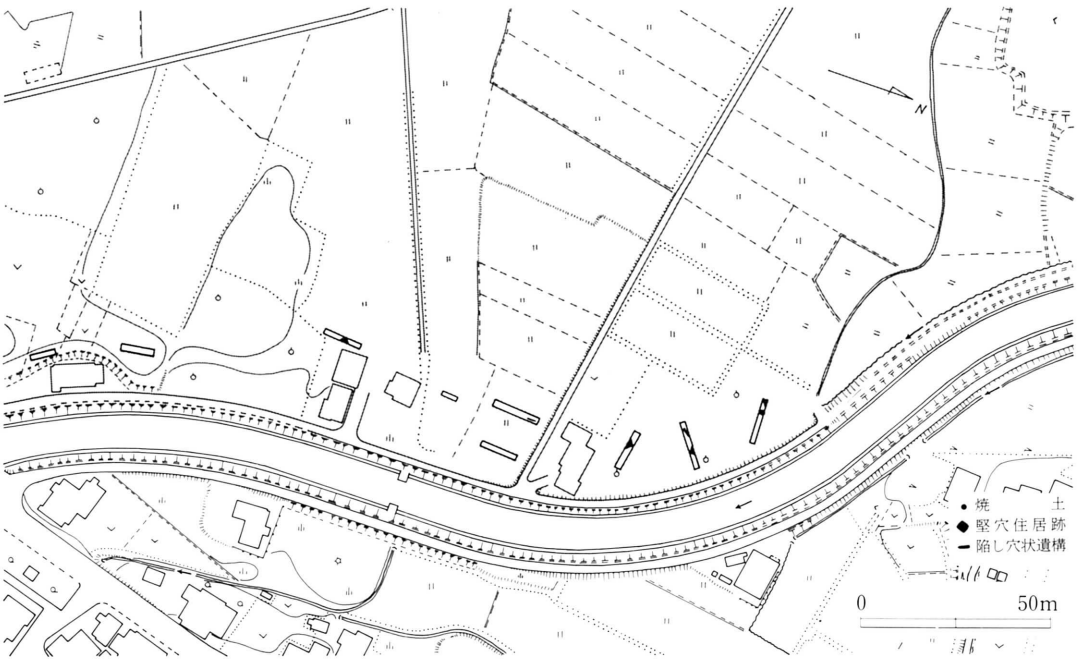


第49図　稲村II遺跡の位置

今回の試掘調査は、岩崎川と国道４号が交差する場所から若干上流側で岩崎川に沿って帯状に約250mの範囲が対象となっている。調査区は、間に今回の調査対象にはならない場所を挟んで北・中央・南の大きく３箇所に分けられる。調査区の土層はおおむね４層にわけられ、１層は水田耕作土、２層は攪乱、３層は遺構検出面である褐色土層、４層が黄褐色の粘土質土層である。

試掘調査では河川改修予定地内に任意に９箇所の試掘トレンチを設定し、埋蔵文化財の有無と残存状況の確認を行っている。調査の結果、紫波町教育委員会の調査区域に隣接する南部の飛び地のＴ8・Ｔ9では確実な遺構は確認されなかった。しかし、小破片ではあるが遺物が確認されており、紫波町教育委員会の調査区でも平安時代の竪穴住居跡が検出されているため何らかの遺構・遺物が存在する可能性は高い。

中央部ではＴ4・Ｔ5・Ｔ6・Ｔ7の４箇所の試掘トレンチを設定している。この部分では密度は高くはない



第50図　稲村II遺跡調査区位置図

が古代の竪穴住居跡と推定される遺構や遺物、縄文時代の陥し穴状遺構が検出されている。T6付近では水田耕作土と3層の間にほかの場所では認められないあつい黒褐色土が堆積しており、この部分は東西方向に延びる古い時代の流路のようなものの可能性がある。この黒褐色土中から平安時代の土師器の坏が確認されている。T4・T5付近では水田造成時に削平されていると考えられ、大部分で4層の黄褐色土層が水田耕作土の直下に認められる。ここではT4の北端で溝状の陥し穴状遺構が検出された。

北部ではT1・T2・T3の3箇所のトレンチを設定している。T6付近で見られた2層と3層の間の黒褐色土層はここでは確認されていない。この北部は今回の試掘調査では遺構・遺物の密度が最も高い場所である。ここでは焼土1基・竪穴住居跡と考えられる遺構3基・陥し穴状遺構が1基が検出されている。3箇所のみのトレンチで確認された数なので実際にはもっと多くの遺構が存在すると予想される。(平成8年度本調査予定)

今回試掘の対象にならなかった北・中央・南を分けている場所も、今回の試掘調査の結果からみると平安時代あるいは縄文時代の遺構・遺物が存在している可能性が高い。また、今回最も遺構・遺物の密度が高かった北部のさらに北側にも遺跡は延びている。

10　主要地方道宮古岩泉線築造事業関連調査

小平Ⅰ遺跡（ＬＧ23―1255）

所在地：宮古市山口５丁目地内

事業者：宮古土木事務所

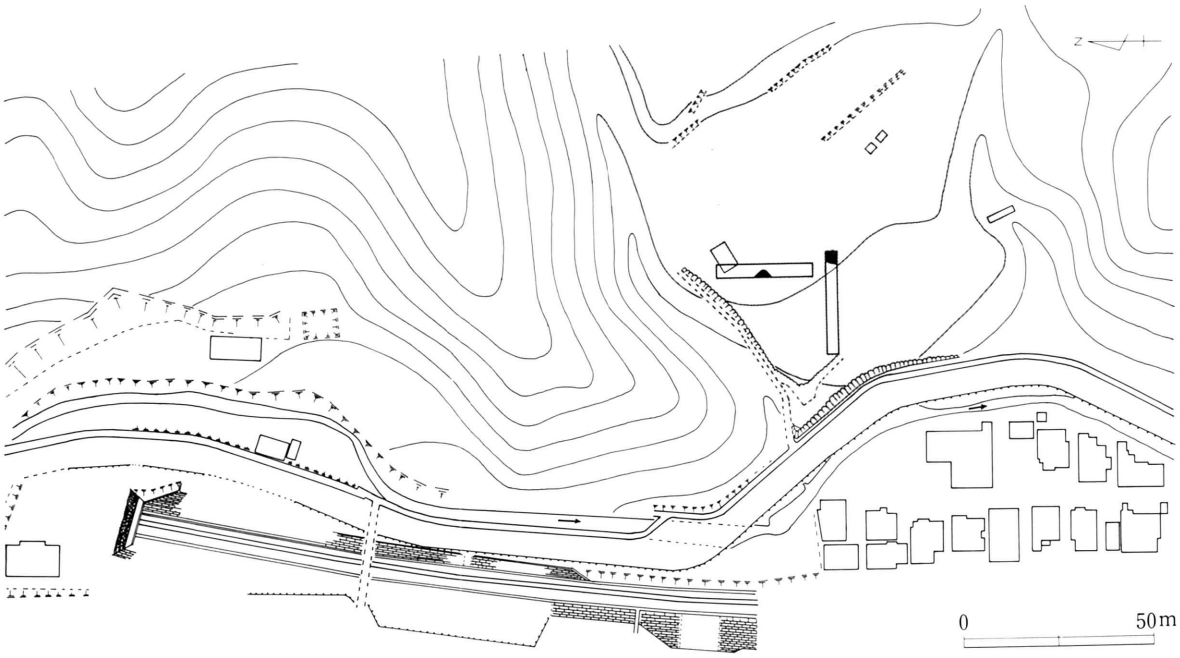
調査期日：平成７年12月５日

今回の試掘調査は主要地方道宮古岩泉線の道路築造に伴うもので、北側の尾根を隔てて隣接するもう一箇所の遺跡と併せて試掘調査が行われた。

第52図　小平Ⅰ遺跡の位置

小平Ⅰ遺跡は山口川によって形成された段丘の縁辺部に位置し、段丘崖の下には山口川が北から南に流れている。道路事業予定地は遺跡の西側先端部に相当し、標高は55～61mである。比較的平坦な地形でわずかに西側に向かって低く傾斜している。調査区の南と北側には山口川に流れ込む沢が入っていて、遺跡の広がる平坦地とその沢の南側と北側とは地形的に切り離されている。事業予定地の東側にも平坦な部分は広く延びており、遺跡そのものは事業予定地のさらに東側に広がっている。

今回の調査区の現状は山林と畑地からなっているため調査するための十分なスペースが確保できず、試掘トレンチは調査区の北側に東西方向と南北方向各１本の２本しか設定できなかった。２本の試掘トレンチの土層は４層に分けられ、１層が表土（耕作土等、15cm）、２層が黒褐色土層（20cm）、３層が褐色土層（20cm）、４層が地山となっている。両方のトレンチから１層から３層まで縄文土器の出土が確認されている。遺物の出土量は西側（山口川）に向かうほど少なくなる傾向が認められた。遺構はそれぞれのトレンチで一箇所ずつその一部が検出されたが、立木が多く全体は把握できなかった。いずれも住居跡あるいは土坑の一部と推定される。（平成８年度本調査予定）



第53図　小平Ⅰ遺跡調査区位置図

11　県営長谷堂アパート建替事業関連調査

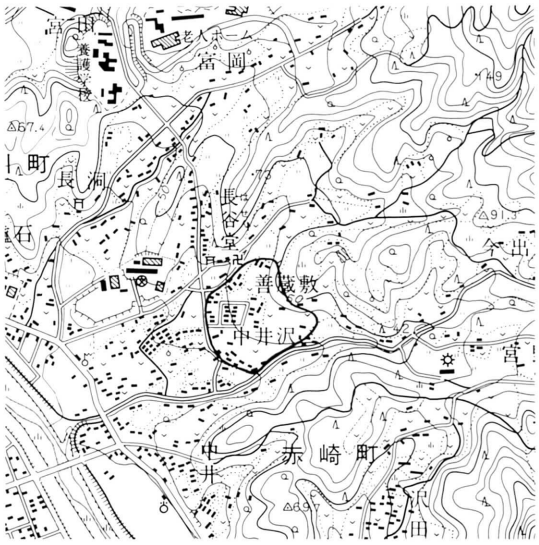
長谷堂貝塚（ＮＦ39―1151）

所在地：大船渡市猪川町字長谷堂

事業者：大船渡土木事務所

調査期日：平成７年10月26日～27日

遺跡は大船渡湾をのぞむ低い丘陵の端部に立地する。この貝塚はいくつかの地点に分かれていて、今回の試掘調査地点は長谷堂南貝塚と呼ばれている。昭和45～49年にかけて現在の県営長谷堂アパートが建設されたが、それに伴って、46年に緊急発掘調査が実施されているほか、個人住宅の建設などでも事前調査が実施されてきている。



第54図　長谷堂貝塚の位置

今回の試掘調査の結果は下記の通りであるが、県営アパート敷地内において事前調査が実施されて記録保在されていたのはおもに８号棟・14号棟の敷地内であることが確認された。貝層はこの敷地に隣接する畑地において地表面で観察できる。

他は、特に11～13・15号棟の部分で破壊が著しかったものの、造成の際に慎重な工事が実施され盛土されていたことから、４・９・10号棟の西側部分などでは一部遺物包含層が良好に保存されていることが観察された。貝層は確認できなかった。

地点別の出土遺物はいずれも縄文土器で、詳細は次の通りである。

Ａ地点では縄文時代晩期の土器を中心に、後期中葉の土器が少量混在する。１～4，6は晩期前半の鉢形土器の体部片と考えられる。器壁は概して薄い。５は深鉢ないし鉢の口縁部。４単位のおおぶりな波状口縁を形成する。表裏ともよく研磨される。

Ｂ地点では、中期（7，8）、と晩期（9，10）が出土。７は深鉢の口縁部付近で、太い沈線で楕円状のデザインが描かれる。９は深鉢の口縁部。10は晩期後半～終末に属するものか。

Ｃ地点では、中期（11）、晩期（12，13）の土器片が少量出土。12は晩期終末の台付土器の台部である。胎土にキンウンモが含まれている。

Ｆ地点では、後期（14，17，18，21，22，24）と晩期（15，16，19，20，23）が出土。遺物量は多い。後期の土器は磨消縄文で装飾される深鉢などが中心で、縄文は短い原体で結束のない羽状縄文を多用している。ミガキ調整が丁寧に行われている。晩期の土器は後半期が中心である。

Ｈ地点では縄文中期の深鉢口縁部（27）が出土。

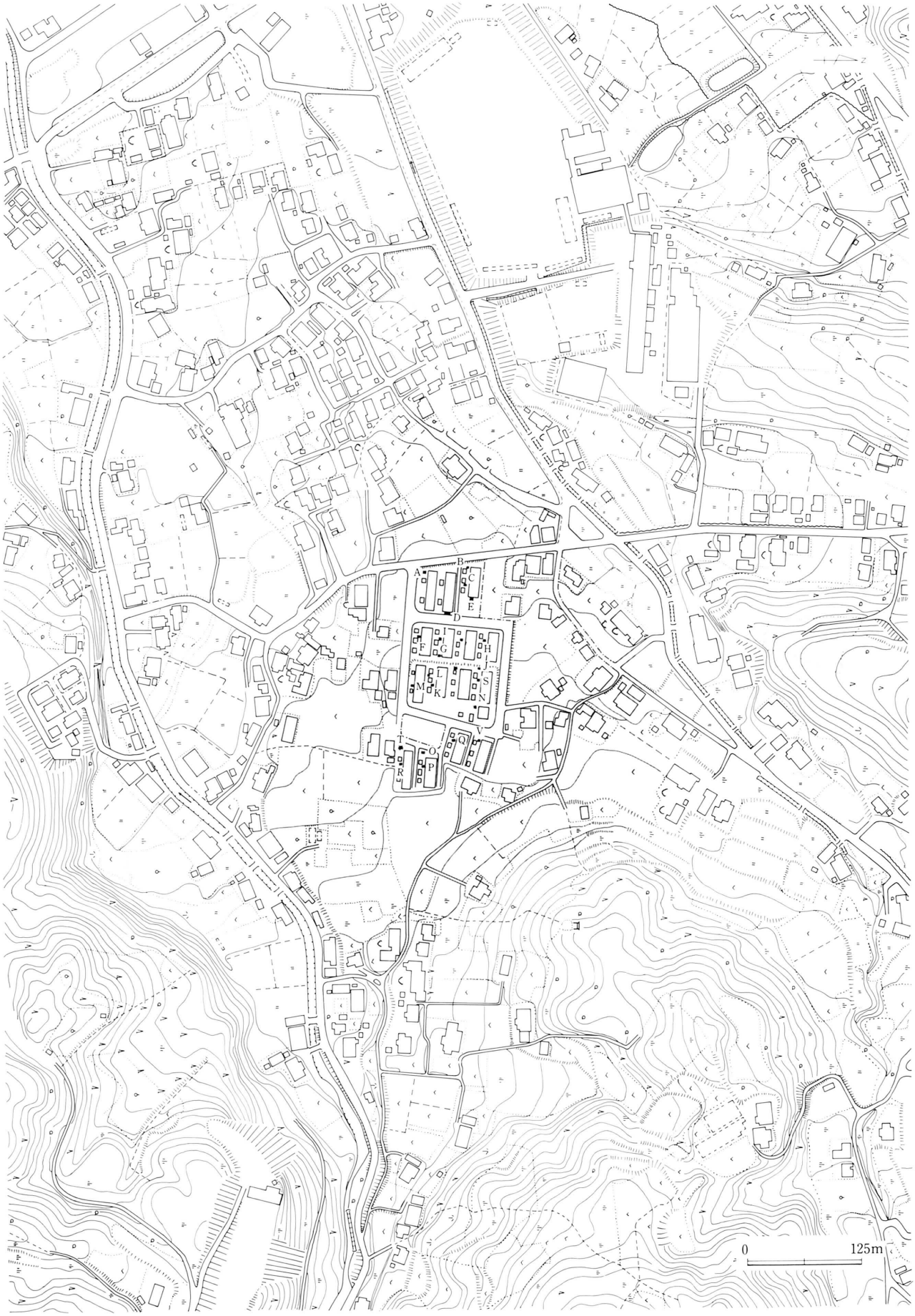
Ｉ地点では縄文中期の深鉢口縁部（25）と体部（26）が出土。

Ｋ地点では縄文時代中期（30，31，34）、後期（32）、晩期（28，29，33，35，36）が出土。量的には晩期前半と考えられるものが多い。

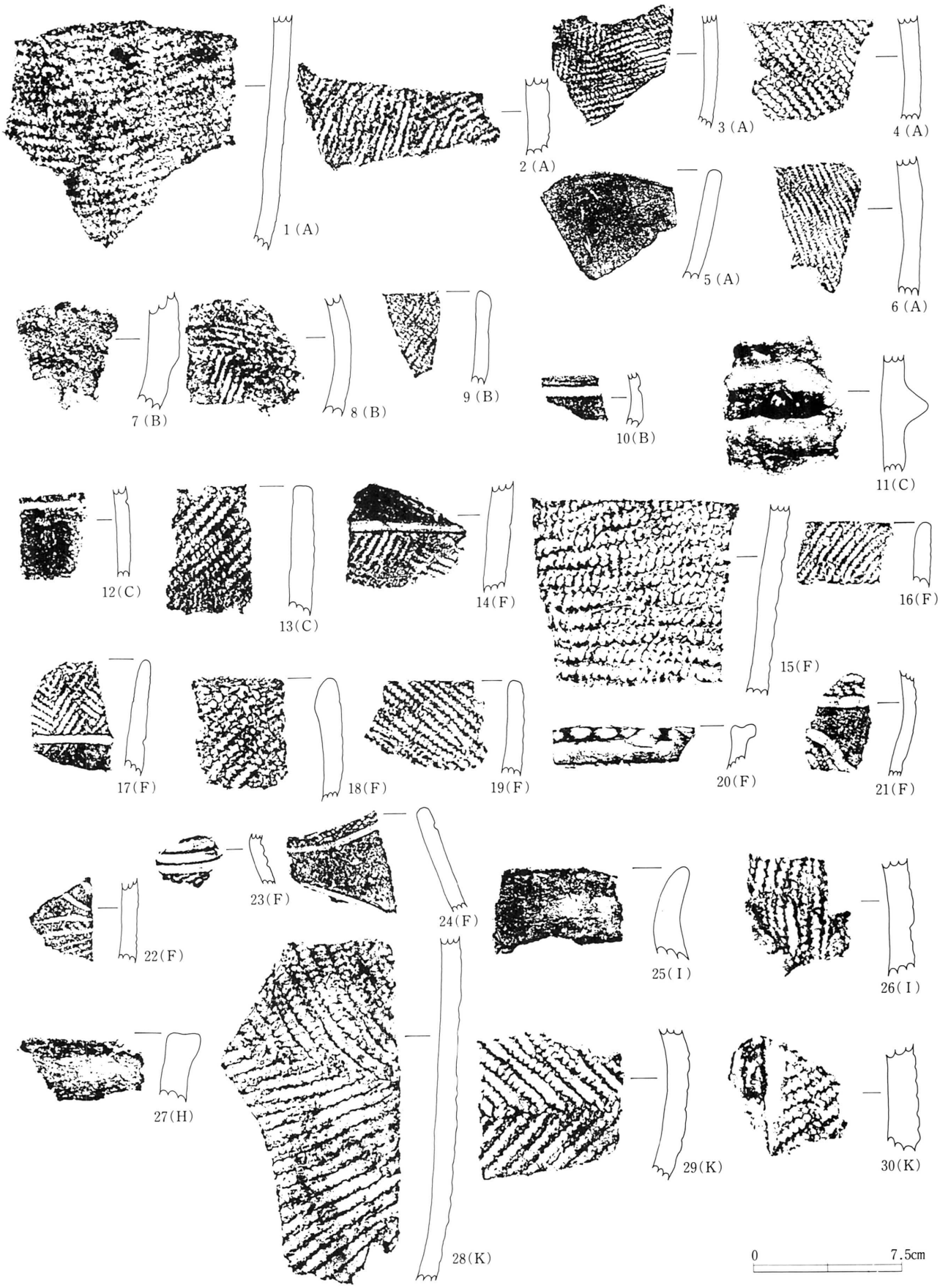
Ｌ地点では縄文後期もしくは晩期の土器片が少量出土。

Ｍ地点では縄文中期の土器片が大多数をしめ、わずか後期（49）、晩期（50）が混じる。中期の土器片は中期中葉～後葉を中心とし、縦方向に回転された縄文が沈線で区画されて磨消されているものが多い。41は底部付近の破片。

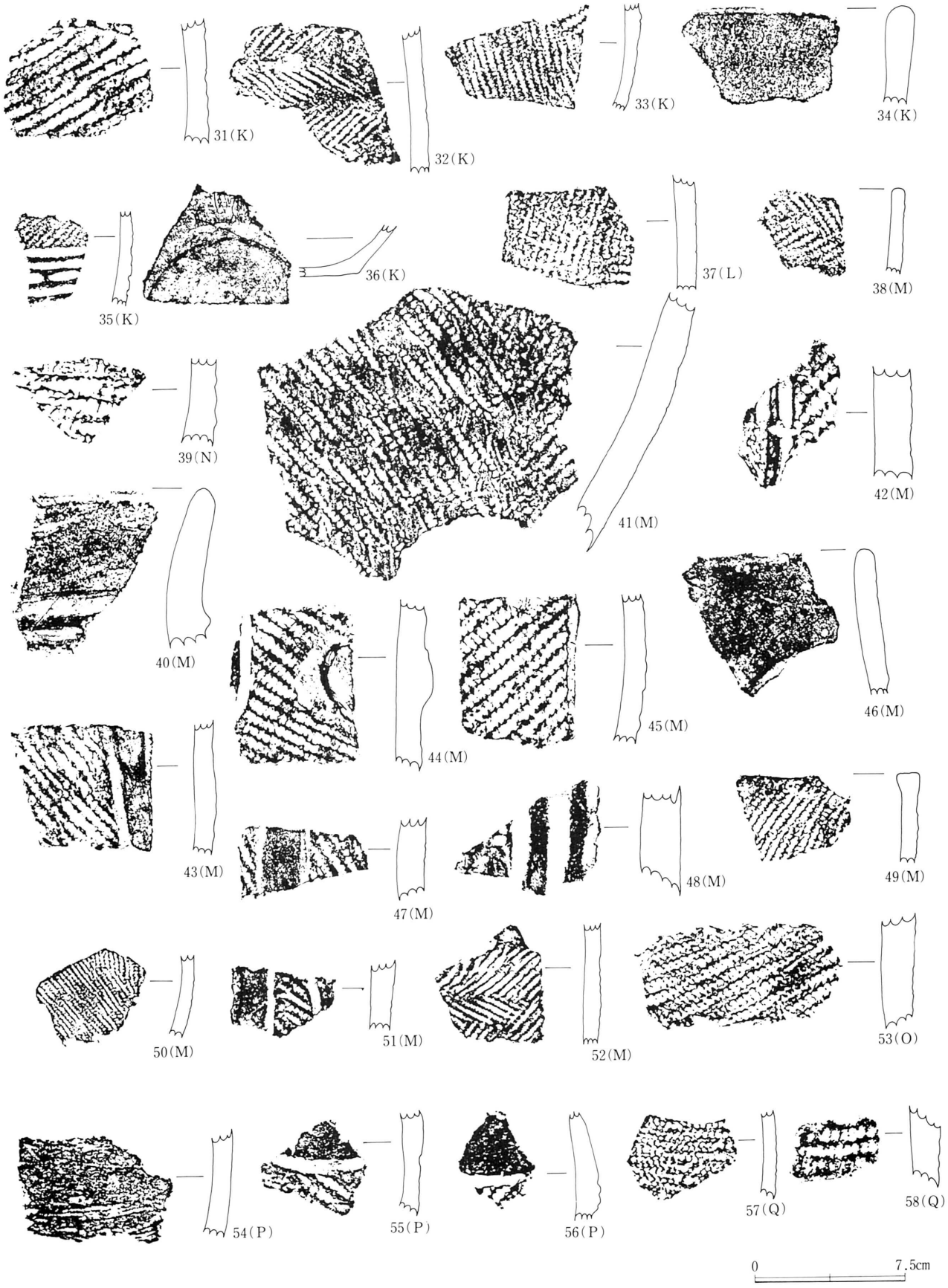
Ｏ地点では縄文中期土器の体部片が出土。



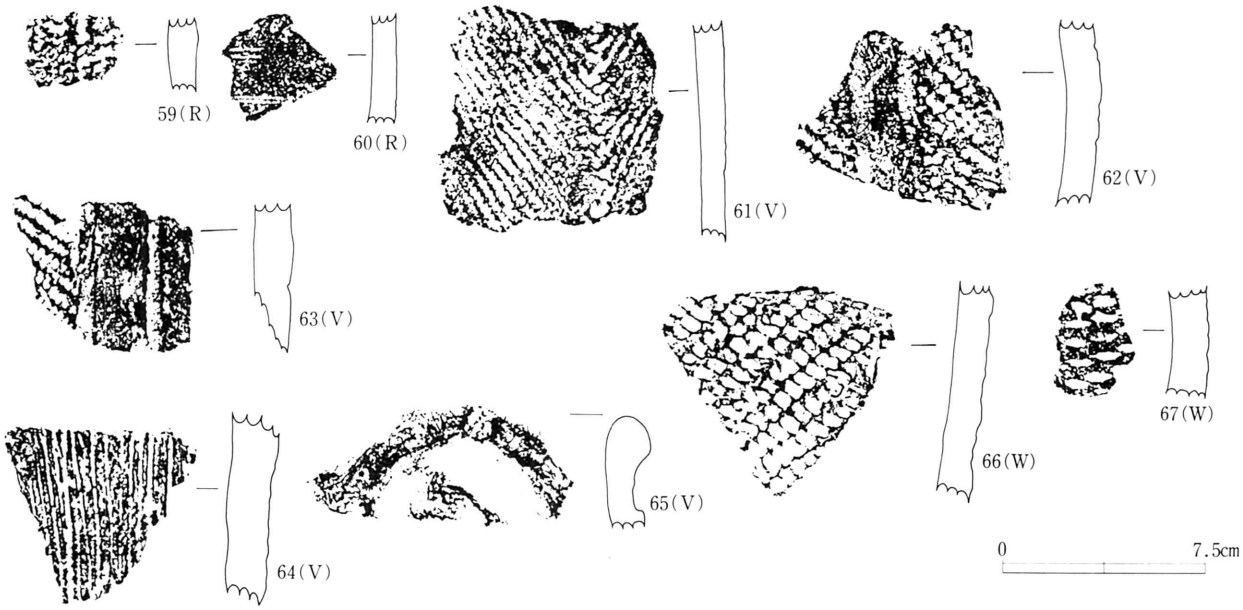
第55図　大船渡市長谷堂貝塚調査区位置図



第56図　大船渡市長谷堂貝塚出土土器(1)(A～K)



第57図　大船渡市長谷堂貝塚出土土器(2)(K～Q)



第58図　大船渡市長谷堂貝塚出土土器(3)(R～W)

P地点では縄文中期土器片が出土。

Q地点では縄文中期及び晩期土器片が出土。土器は表面がかなり磨滅しているものが多い。

R地点では縄文中期の土器片が出土。

V地点では縄文中期の土器片が出土。61は結束された羽状縄文が縦方向に回転施文される。65は口縁部片。太い沈線が渦状に引かれる。64は櫛歯状工具による施文。

W地点で縄文中期の土器片が出土。67は棒状工具による刺突。

12　砂防ダム建設工事（屋敷の沢地区）関連調査

櫓沢Ⅱ遺跡（ＭＧ32－0259）

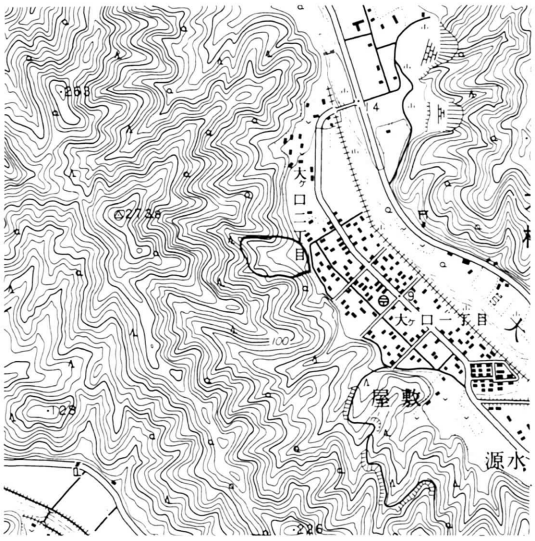
所在地：上閉伊郡大槌町大槌大ケ口地内

事業者：釜石土木事務所

調査期日：平成８年１月９日

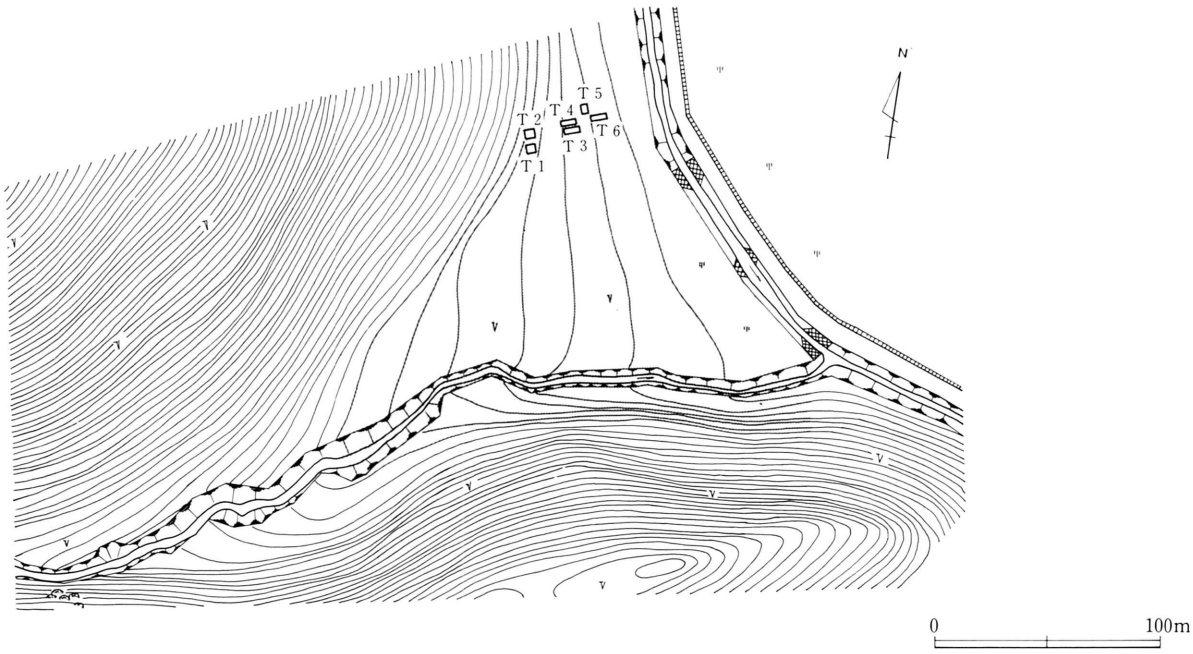
遺跡は大槌川から分岐する大ケ口川に注ぐ小規模な沢筋に形成されている。沢と大ケ口川の合流点付近ではやや広い扇状地形を成している。標高10m。

当初今回の工事予定箇所は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、この付近では同様の立地に古代の製鉄関連遺跡が残されていることから、工事に先立って試掘調査を実施した。また、昭和20年代に学術発掘調査が行われた櫓沢遺跡にも隣接している。



第59図　櫓沢Ⅱ遺跡の位置

試掘トレンチは川際及び斜面に続く一段高く張り出した部分に設定した。その結果、いずれの箇所でも鉄滓が出土し、古代の土師器片が得られている。Ｔ１では焼土及び整地層状の暗褐色焼土混じり層が検出され、何らかの鉄生産に関連する施設であることが予想された。さらに今回の直接の工事箇所ではないが、北側の小さな尾根を越えた部分では、小規模な平場が数段形成されている。なお、道路予定地は標高15mを境に傾斜が著しく急になることから、この先については遺跡の範囲外とした。（平成９年度本調査予定）



第60図　大槌町櫓沢Ⅱ遺跡調査区位置図

13　村道代行徳沢噌味２号線整備関連調査

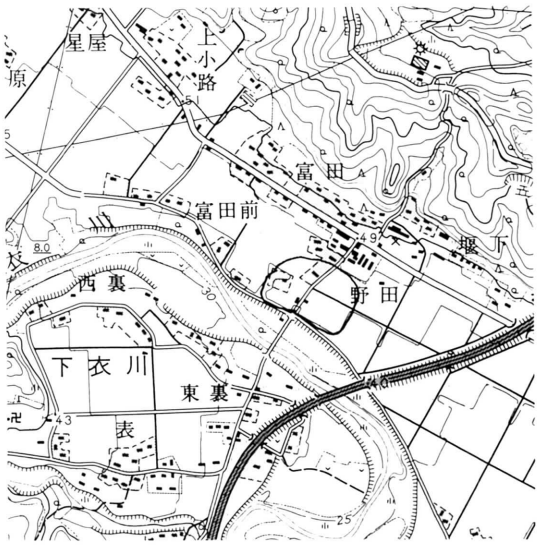
向館遺跡（ＮＥ65―1225）

所在地：胆沢郡衣川村向館地内

事業者：水沢土木事務所

調査期日：平成７年１月23日～４月25日（４日間）

遺跡は衣川左岸の河岸段丘上に立地している。標高45m。現状は主に水田と宅地となっている。現河床との比高は10mで、この段丘崖及び衣川に流入する小河川によって開削された自然地形をそのまま館の要害として利用したものと想定される。試掘トレンチを設定した箇所では特に館の構築物は検出されず、現在の地形から明瞭な曲輪等を想定することは困難である。したがって記録保存は、掘削箇所を中心に地形測量を行うに止めた。なお、Ｔ２では表土中から18世紀代の陶磁器片が出土している。



第61図　向館遺跡の位置

第62図　衣川村向館遺跡調査区位置図

14　農免農道整備事業巻堀地区関連調査

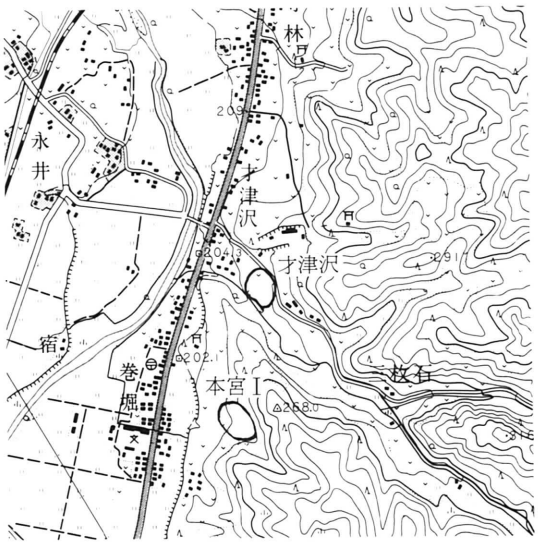
才津沢遺跡（ＫＥ37―2357）

所在地：岩手郡玉山村寺林字才津沢

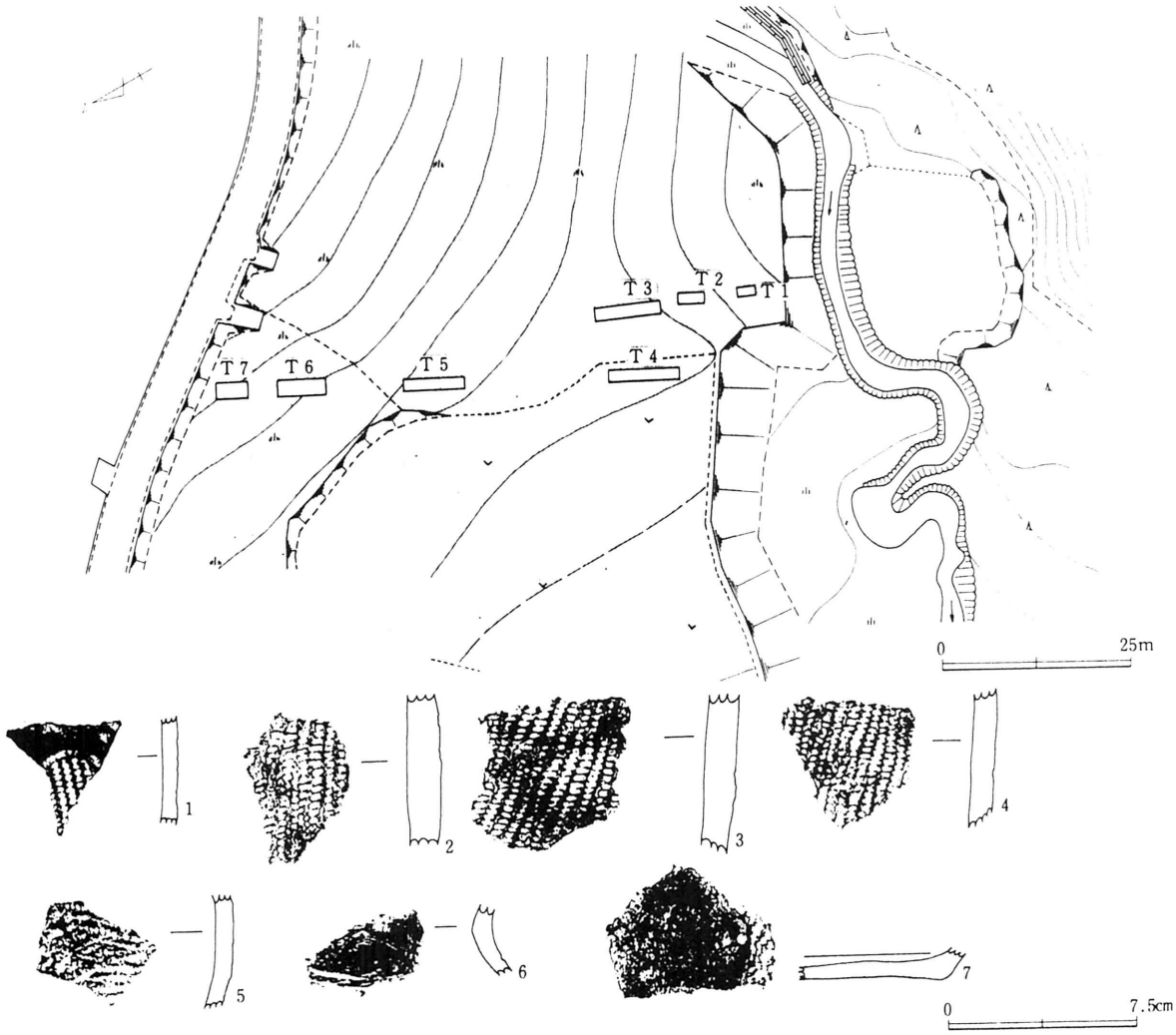
事業者：岩手北部土地改良事業所

調査期日：平成７年12月11日～12日

遺跡は北上川に東方より流入する西郡川の右岸の丘陵裾の平坦部に立地する。現状は畑地となっているが、牧草地として利用されている部分は一部地形が大きく改変されている。遺物を包含する黒褐色土は平坦部で60cm程度の厚さを有し、中間に岩手山起源と考えられる浮石状の火山灰層が観察される。試掘の結果、Ｔ４を中心とする範囲に火山灰層を前後して縄文時代中期及び後期の土器片が集中して出土し、北側のトレンチほど遺物量は少ない状況が観察された。川に面する急斜面にＴ１を設定したが、遺物包含層の形成は認められなかった。（平成８年度本調査予定）



第63図　才津沢・本宮Ⅰ遺跡の位置



第64図　玉山村才津沢遺跡調査区位置図及び出土遺物

15　農免農道整備事業巻堀地区関連調査

本宮Ⅰ遺跡（ＫＥ47－0316）

所在地：岩手郡玉山村寺林字本宮

事業者：岩手北部土地改良事業所

調査期日：平成７年12月11日～12日

遺跡は北上川左岸の河岸段丘上に立地している。この段丘面と丘陵に繋がる傾斜変曲の裾部を南北に工事が予定されている。

今回の調査区のうち南端にあたる東側の丘陵より流れる小規模な沢に面したＴ１で、厚い黒褐色土に挟まれた岩手山起源と考えられる浮石層の下位より縄文早期の土器片がほぼ１個体分出土した。しかし、それ以外に遺物の出土はなくまた遺構等も確認できなかったことから、自然堆積層への流れ込みによる遺物と判断した。

第65図　玉山村本宮Ⅰ遺跡調査区位置図及び出土遺物

16　担い手育成基盤整備事業宮手稲藤地区関連調査

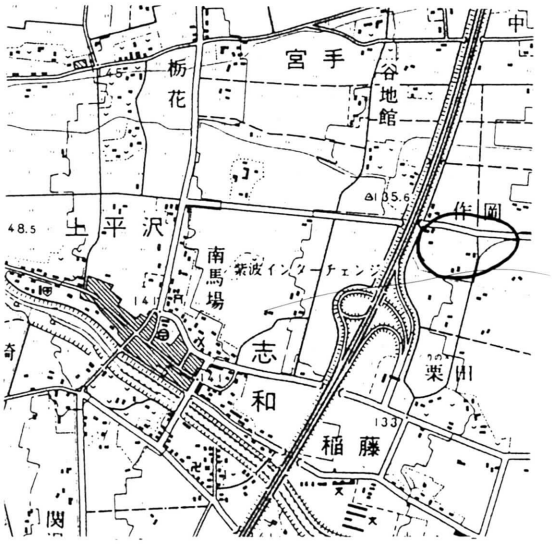
谷地館遺跡（ＬＧ66―1026）

所在地：紫波町宮手字谷地館地内

事業者：盛岡南部土地改良事業所

調査期日：平成７年９月25日

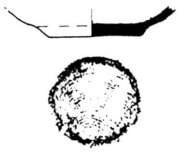
谷地館遺跡は滝名川によって形成された扇状地の微高地上に立地し、現状は水田となっている。南西にはすぐ東北自動車道紫波インターチェンジがあり、南側約500mの位置には滝名川が東に流れている。調査区の標高は133m前後で、周囲との比高は70～100cmである。調査区は東西２箇所に分かれ、東に６本、西に７本のトレンチを設定している。

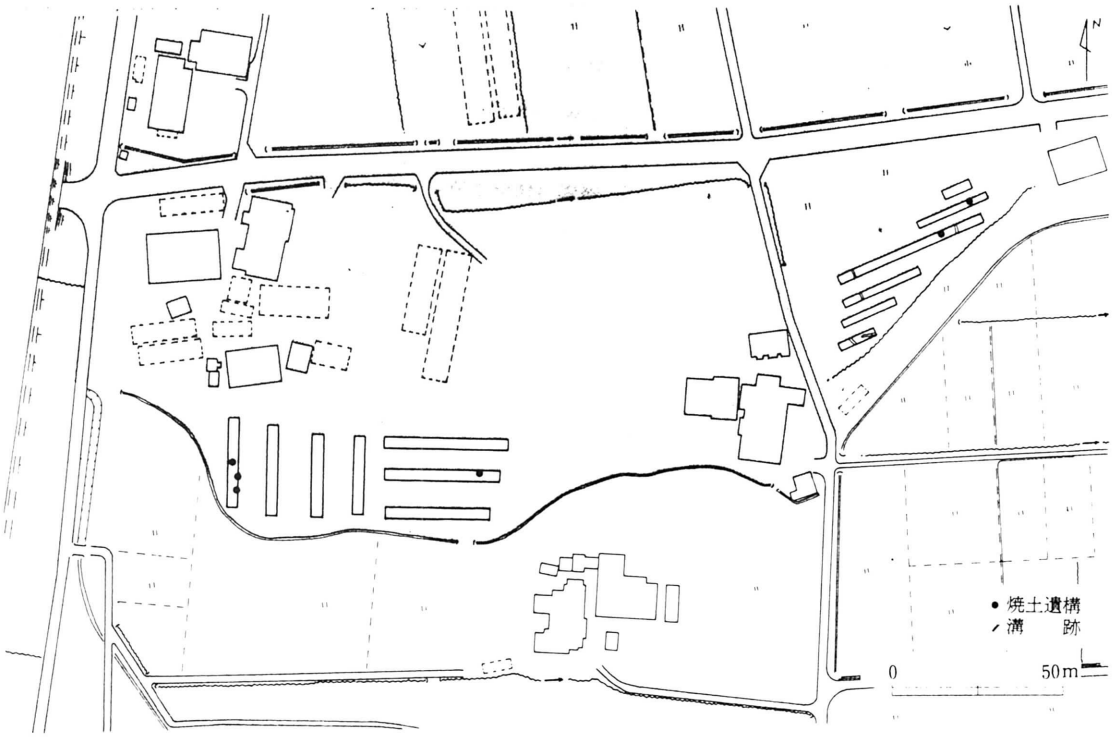


第66図　谷地館遺跡の位置

遺物は東西両方で平安時代の遺物が出土している。遺構は東側で竪穴住居跡のカマドと考えられる焼土２箇所と溝４条が検出され、焼土跡は平安時代と考えられる。溝跡については時期不明であるが平安時代のものを含むと推定される。西側では竪穴住居跡のカマドの焼土３箇所が確認されている。東西とも竪穴住居跡のほとんど床面で検出しており、水田造成の際にかなり削平されていると考えられる。残存状況はあまり良くないものの遺構の密度は低くない。ある程度の規模の北側に広がりを持つ集落が平安時代にこの場所にあったと考えられる。

この遺跡については、協議の結果、埋蔵文化財に掘削が及ばないように盛土によって保存することとなった。





第67図　谷地館遺跡調査区位置図、出土遺物

17　県営ほ場整備事業飯岡第一地区関連調査

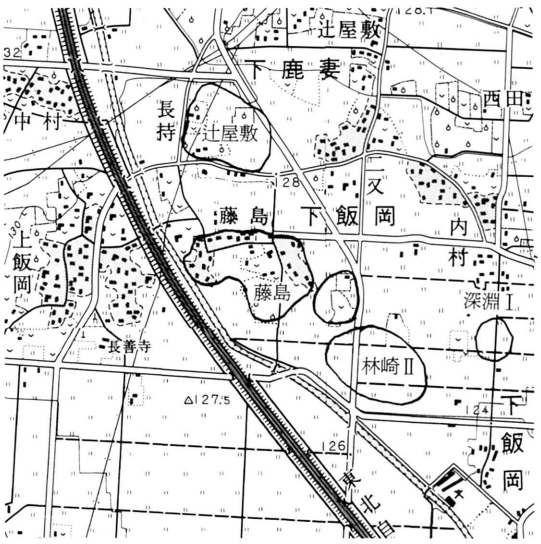
深淵Ⅰ遺跡（ＬＥ26―0098）ほか

所在地：盛岡市上飯岡深淵地内

事業者：盛岡南部土地改良事業所

調査期日：平成７年１月25日～27日

遺跡は北上川と雫石川の合流点に近い沖積平野中の微高地上に立地している。これらの微高地は主に河川作用によって形成された自然堤防または小規模な段丘を起源としている。



第68図　深淵Ⅰ遺跡ほか位置図

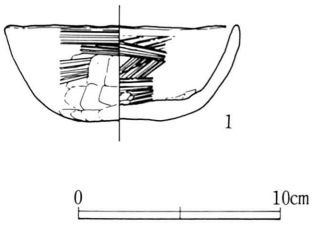
飯岡第一地区は、すでに平成３年度及び４年度にほ場整備に先立つ試掘調査を実施し、古代を中心とする遺構が検出されていたため、水路関連部分について発掘調査を実施し、水田面については盛土等による遺跡の保護を図っていた。しかし、今回新たに水田面にほぼ10m間隔で幅20cmの遺構面まで及ぶ暗渠排水路を設置することになったため、改めて試掘調査を実施したものである。

深淵Ⅰ遺跡では、設定したトレンチ内で奈良時代末の竪穴住居跡及び土坑状の落ち込みが検出されたことから、前回の試掘結果も合わせ、遺跡内の遺構密度が相当高いことが予想されたことから、排水路の設置計画を変更し保存を図った。

林崎Ⅱ遺跡（ＬＥ26―1003）では、前回の試掘調査で１棟の古代の竪穴住居跡が検出されていたが、今回の調査で新たに遺跡の周縁付近から竪穴住居跡が検出されたため、事業区南端の道路から北側へ30mの範囲については事業計画を変更することとした。なお、林崎Ⅲ遺跡と隣接し、遺構が密集すると考えられる水田２面（№355、356）については、事業計画を変更し保存を図った。

藤島遺跡（ＬＥ26―0060）では、前回の試掘調査で１棟の古代の竪穴住居跡が検出されていたが、今回の調査で新たに遺跡の周縁付近から掘立柱跡及び溝跡が、集落間のやや低い部分で竪穴住居跡が１棟確認された。したがって、これらの遺構が分布している水田面では事業計画を変更し保存を図った。

辻屋敷遺跡（ＬＥ26―0020）では、前回の試掘調査で平安時代前期の竪穴住居跡２棟が確認されていた。今回の調査では特に遺構等は検出されなかった。そのため、事業計画の変更は前回の遺構検出部分に止めた。



第69図　盛岡市深淵Ⅰ遺跡出土土師器

第70図　盛岡市深淵Ⅰ遺跡ほか調査区位置図

18　県営畜産経営環境整備事業九戸軽米地区関連調査

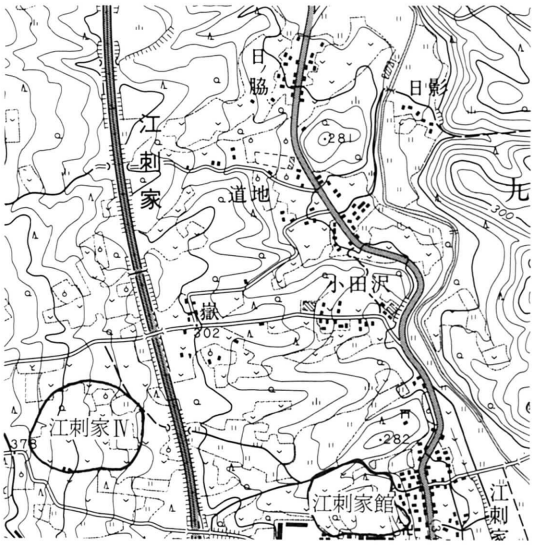
江刺家Ⅳ遺跡（ＪＦ02－1067）

所在地：九戸郡九戸村字江刺家10

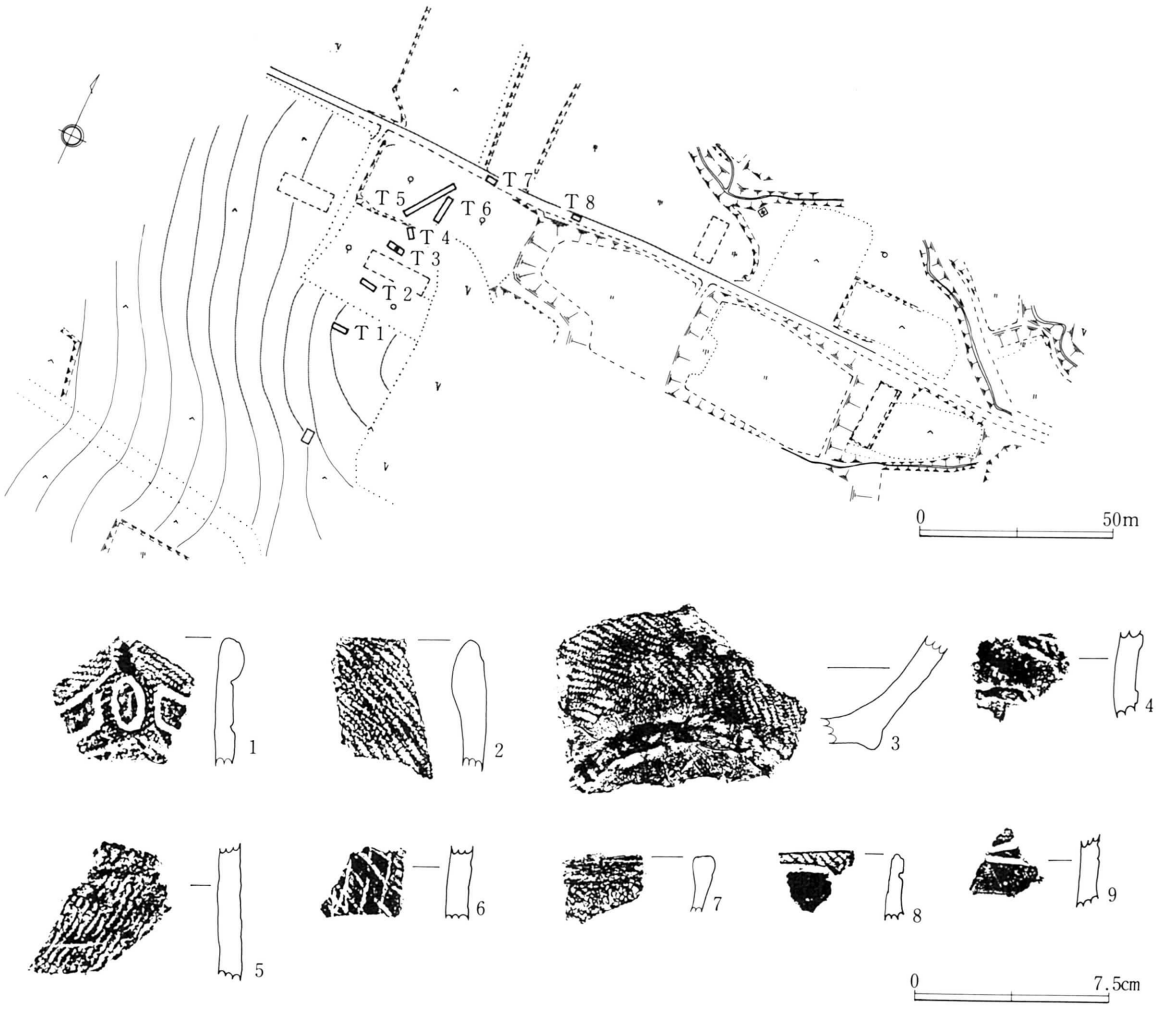
事業者：二戸地方振興局農政部

調査期日：平成７年７月28日

遺跡は瀬月内川を東方に望む山麓東斜面に立地している。遺跡付近はところどころ西上方からの小さな沢によって開析され、部分的に遺跡立地に適当な穏やかな張出しを形成している。７年度の調査は６年度調査に続くもので、前回調査未了部分である。Ｔ５、６では道路際に向かって斜面となり、厚さ40cm程の遺物包含層が形成されている。層中に中掫浮石や灰白色火山灰が混入するヶ所がある。Ｔ１～４では大きく原地形が改変されているが、地山面で土坑等が検出されている。さらに現道に設定したＴ８でも遺物が出土し、一部良好に残存している状況が確認された。出土遺物は、縄文時代前期･後期の土器片などである。（平成８年度本調査予定）



第71図　江刺家Ⅳ遺跡・江刺家館の位置



第72図　九戸村江刺家Ⅳ遺跡調査区位置図及び出土遺物

19　県営畜産経営環境整備事業九戸軽米地区関連調査

江刺家館跡（ＪＦ02―1172）

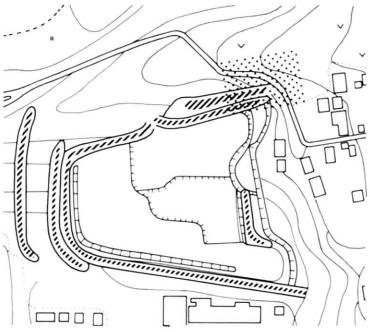
現在地：九戸郡九戸村字江刺家

事業者：二戸地方振興局農政部

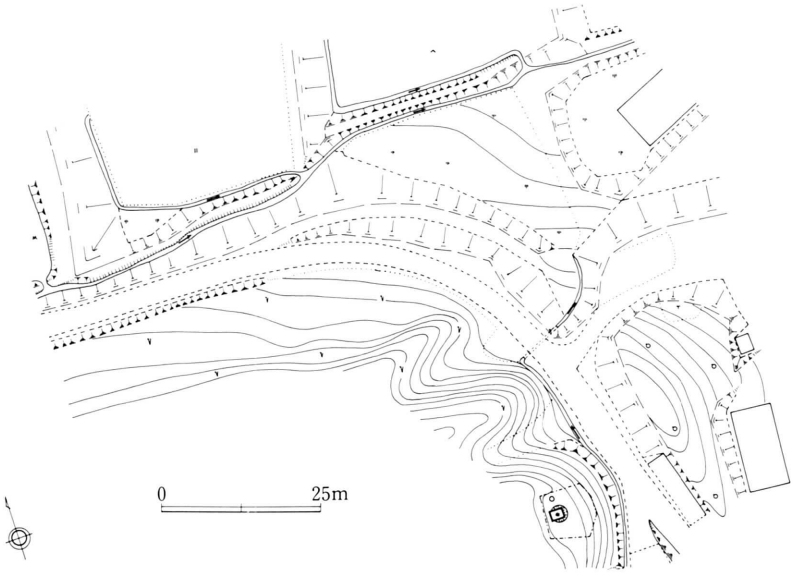
調査期日：平成７年７月28日

江刺家館は瀬月内川左岸の河岸段丘状の張出しに形成されている。東西170m、南北80～120mの規模を有する。館主は九戸氏に始まり、のち江刺家氏に替わったといわれる。郭は大きく三ヶ所認められ、さらに東側縁に沿って腰郭状の細長い平場が段上に続いている。一部に土塁も認められる。

今回の調査は館の北東隅を通っている現道の改修に伴うものである。この部分は自然地形の急斜面を利用しながら二重に堀を巡らしている箇所である。土塁の痕跡は認められない。今回の工事は人工的な館の構築物には直接影響のないものであったため、改めて地形測量を実施するに止めた。



江刺家館跡の概略



第73図　九戸村江刺家館跡現況図

20　農免農道整備事業鳥長根地区関連調査

小池遺跡（ＪＥ36―0300）

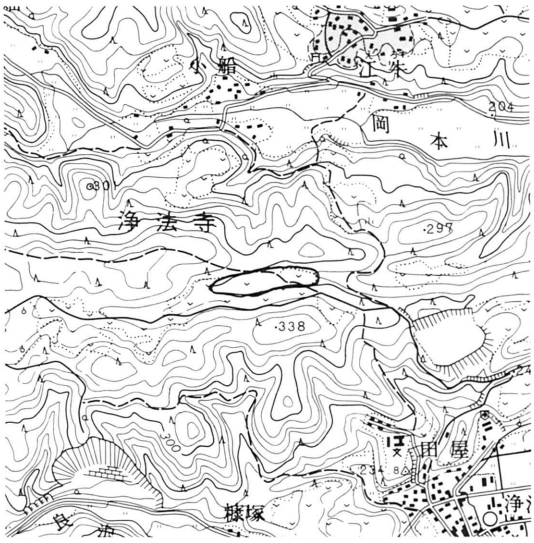
所在地：二戸郡浄法寺町大字浄法寺字合名沢96―1

事業者：二戸土地改良事業所

調査期日：平成７年11月１日

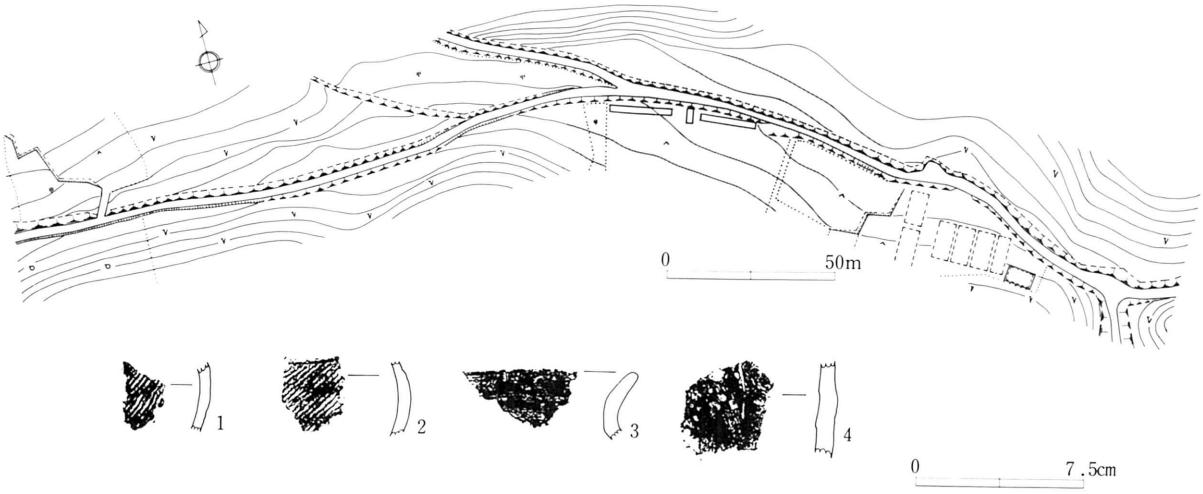
遺跡は安比川に面し、開析が進んだ古丘陵の北側斜面に位置している。標高300m。７年度調査区の東側に隣接する箇所については６年度に試掘調査を実施している。

現道及び拡幅工事箇所に沿った北側は急角度の傾斜で落ちているが、周辺の地形から判断すると自然地形であることが理解される。30cm程度の表土下に暗褐色土（II層）が厚く堆積する。その下位に中掫浮石混じりの黒褐色土層が堆積する。この層とさらに下位の明褐色土には遺物を含まず、地山と考えられる。遺物を包含するII層はＩ層との境界が漸移的で、しかも100cmの厚さほぼ全体にわたり縄文土器と土師器を混在して出土している。また土器の出土量は少なく、細片がほとんどである。これより、遺跡の中心が斜面上方に所在し、調査区で検出された遺物等は上方からの流れ込みによるものであることが確実であろう。



第74図　小池遺跡の位置

なお、II層下部からIII層にかけての調査区西側の一部で灰白色火山灰が堆積している箇所が認められたが、風倒木による撹乱によるものと考えられた。



第75図　浄法寺町小池遺跡調査区位置図及び出土遺物

21　担い手育成基盤整備事業宮野目地区関連調査

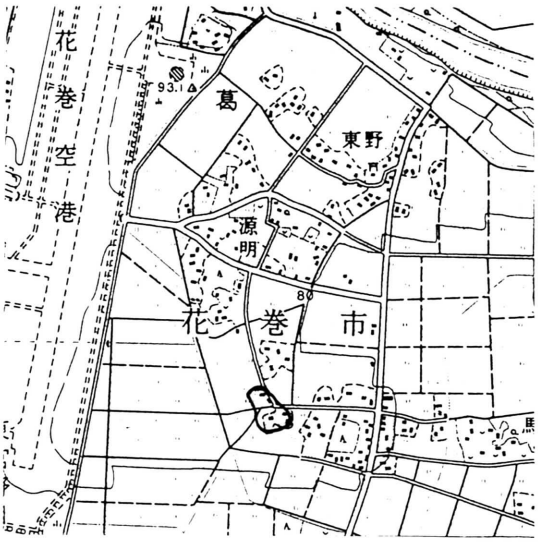
田力遺跡（ＭＥ16―1229）

所在地：花巻市宮野目字田力地内

事業者：花巻土地改良事業所

調査期日：平成７年４月19日

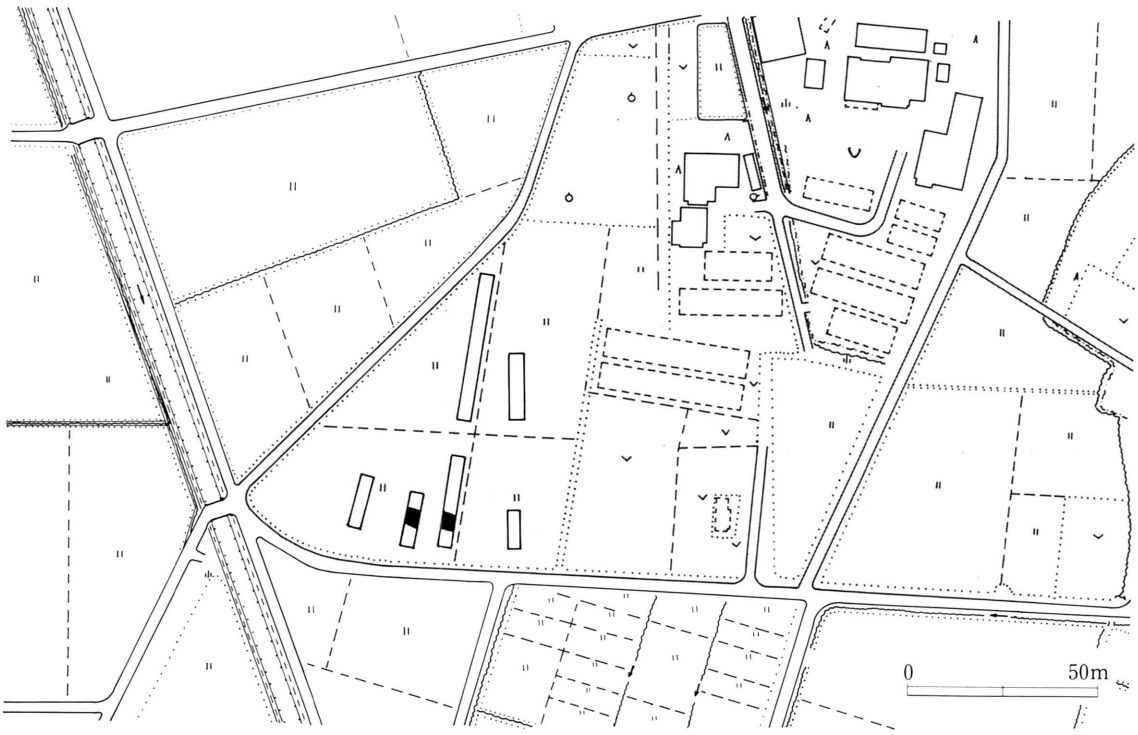
田力遺跡は、花巻空港の南東約300ｍの位置にあり、遺跡の東側を流れる北上川は遺跡の北側で大きく東に蛇行している。遺跡は蛇行した北上川に囲まれた地形の中にあり、北上川によって形成された河岸段丘及び段丘上に点在する沖積微高地上に立地している。遺跡の標高は78ｍ前後で沖積面と微高地との比高は２ｍ前後である。微高地上には民家や畑地が分布しており、沖積面には水田が広がっている。この沖積面は昭和初期のほ場整備により地形の改変がなされている。



第76図　田力遺跡の位置

今回の試掘調査区域は、周知の埋蔵文化財包蔵地の西側に隣接する部分で地形の改変が予想された場所である。試掘調査では調査対象区域内に４箇所のトレンチを設置し、埋蔵文化財の有無の確認を行っている。調査の結果、遺跡と連続する西側部分で土師器・須恵器が確認されたほか、地表下約30cmで平安時代の竪穴住居跡と考えられる遺構が２棟検出されており、遺跡がさらに西側の段丘崖まで続いていることが確認された。

なお、当初の計画では遺構が検出された面まで掘削が及ぶことから、田面高を計画より高く設定し、掘削が及ばないようにすることで遺跡の保存をはかっている。また、北側部分では、現状で確認できる微高地端がそのまま旧地形の微高地と低湿地の境界となっている。



第77図　田力遺跡調査区位置図

22　低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業(新堀地区)

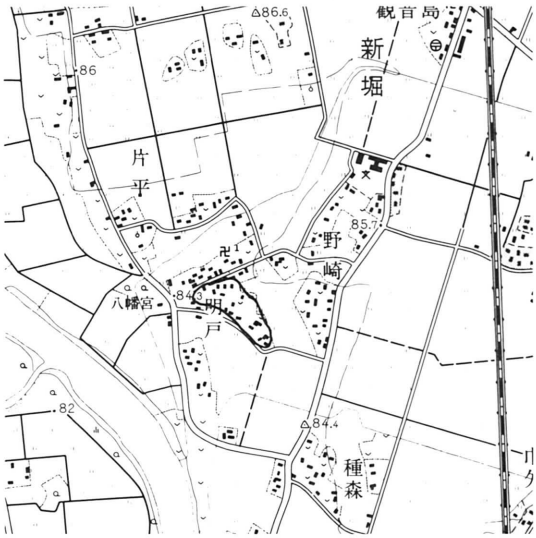
久保II遺跡（ＬＥ97－0180）

所在地：稗貫郡石鳥谷町字新堀46地割

事業者：花巻土地改良事業所

調査期日：平成７年２月13日

遺跡は北上川の右岸の沖積平野中に形成された自然堤防状の微高地の南端に位置している。付近全体に亘って一度以上の耕地整理が行われており、表土下は広い範囲で削平されているかもしくは撹乱を受けている。



第78図　久保II遺跡の位置

以前のほ場整備はほぼ自然地形に従って行われたと考えられ、現在の水田面のうち高い部分の比高差は１ｍ程度である。低位の水田についてはこの遺跡及び隣接する遺跡においても遺物･遺構とも確認されなかった。一方、高位部分は水田が休耕され畑地として主に利用されている。この部分で古代の竪穴住居跡や焼土が検出され、遺構が残存していることが明らかになった。これを踏まえ事業者と協議した結果、新規の道路開設工事については今回は見送り、遺跡を保護することとした。

第79図　石鳥谷町久保II遺跡調査区位置図及び出土遺物

23　その他の試掘調査

No.	事業名	事業者	遺跡名	所在地	調査期日	備考
1	担い手育成基盤整備事業湯本第４地区	岩手県農政部	椚ノ目	花巻市	3/25	
2	担い手育成基盤整備事業湯本第４地区	岩手県農政部	狼沢	花巻市	3/25	
3	担い手育成基盤整備事業宮野目地区	岩手県農政部	源明Ⅰ	花巻市	4/19	
4	一般国道４号渋民バイパス事業	建設省	KE67-0122	玉山村	5/9～18	
5	一般国道４号渋民バイパス事業	建設省	KE67-2142	玉山村	5/9～18	
6	一般国道４号渋民バイパス事業	建設省	KE67-1184	玉山村	5/9～18	
7	一般国道４号渋民バイパス事業	建設省	KE67-1164	玉山村	5/9～18	
8	一般国道４号矢巾拡幅事業	建設省	西田	矢巾町	6/29	
9	農免農道整備事業晴山地区	岩手県農政部	IF72-1299	軽米町	7/5	
10	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業	岩手県農政部	巫子塚	遠野市	7/25	
11	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業	岩手県農政部	MF43-2236	遠野市	7/25～26、8/22	
12	一般農道整備事業豊畑地区	岩手県農政部	豊畑Ⅱ	安代町	7/27	
13	県営畜産経営環境整備事業	岩手県農政部	江刺家Ⅳ	九戸村	7/28	
14	一般県道宮古岩泉線道路築造	岩手県土木部	赤畑	宮古市	8/2	
15	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設	農林水産省	釜石Ⅳ	一戸町	8/23	
16	一般県道志和石鳥谷線四屋工区道路改良工事	岩手県土木部	内川	紫波町	9/5	
17	猿ヶ石用水東部幹線用水路改修	農林水産省	栗生沢	江刺市	9/11	
18	かんがい排水事業一方井地区	岩手県農政部	KE06-2392	岩手町	9/18、11/6	
19	一般国道４号矢巾拡幅事業	建設省	岡村	矢巾町	9/19	
20	一級河川岩崎川中小河川改修事業	岩手県土木部	LE47-1084	矢巾町	9/20	
21	かんがい排水事業一方井地区	岩手県農政部	飼鷹Ⅱ	岩手町	9/21～22	
22	かんがい排水事業一方井地区	岩手県農政部	KE16-1302	岩手町	9/21～22	
23	東北横断自動車道路秋田線建設	建設省	峠山牧場Ⅰ	湯田町	9/21～22	
24	胆沢ダム建設事業	建設省	尿前Ⅰ	胆沢町	9/25～27	
25	東北新幹線建設工事二戸市金田一地区	日本鉄道建設公団	段ノ越	二戸市		
26	農免農道整備事業上野地区	岩手県農政部	北館F	一戸町	9/28	
27	広域農道整備事業盛岡西部地区	岩手県農政部	間洞Ⅱ	玉山村	9/29	
28	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区	岩手県農政部	天王	矢巾町	10/2～5	
29	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区	岩手県農政部	舞地	矢巾町	10/2～5	
30	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業徳田第一地区	岩手県農政部	十文字	矢巾町	10/17	
31	北上川上流流域下水道事業石鳥谷ポンプ場建設工事	岩手県土木部	古館	石鳥谷町	10/17	
32	一般県道夏油温泉江釣子線道路築造	岩手県土木部	八天坂	北上市	10/20	
33	体育館整備事業(第一体育館改築事業)	岩手県教委	荒巻南	金ケ崎町	10/20	
34	三陸縦貫自動車道大船渡三陸道路	建設省	萱中Ⅱ	大船渡市	10/24	
35	三陸縦貫自動車道大船渡三陸道路	建設省	細野Ⅲ	大船渡市	10/25	
36	県営ほ場整備事業和賀中央第四地区	岩手県農政部	長沼館跡	北上市	10/30	
37	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設	農林水産省	JE79-2027	一戸町	10/30	
38	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設	農林水産省	JE79-1111	一戸町	10/31	
39	国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設	農林水産省	JE69-1397	一戸町	10/31	
40	大志田ダム建設	農林水産省	JE69-1379	一戸町	11/1	
41	ふるさと農道緊急整備事業鳥居長根地区	岩手県農政部	MF56-2165	遠野市	11/6	
42	ふるさと農道緊急整備事業鳥居長根地区	岩手県農政部	MF66-0206	遠野市	11/6	
43	一関遊水池事業管理用通路工事	建設省	滝ノ沢	平泉町	11/7	
44	一般県道玉里水沢線田原地区道路改良工事	岩手県土木部	石山	江刺市	11/7	
45	担い手育成基盤整備事業赤沢川地区	岩手県農政部	MF55-1357	遠野市	11/7	
46	担い手育成基盤整備事業赤沢川地区	岩手県農政部	太田	遠野市	11/7	
47	担い手育成基盤整備事業赤沢川地区	岩手県農政部	MF56-2081	遠野市	11/9～10	
48	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手県農政部	横間台	安代町	11/9～10	
49	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手県農政部	横間Ⅰ	安代町	11/9～10	
50	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手県農政部	曲田Ⅴ	安代町	11/9～10	
51	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手県農政部	JE73-2089	安代町	11/9～10	
52	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手県農政部	JE74-0045	安代町	11/9～10	
53	中山間地域総合整備事業新町地区	岩手県農政部	上の山Ⅸ	安代町	11/9～10	
54	担い手育成基盤整備事業赤沢川地区	岩手県農政部	赤川	遠野市	11/10	

No.	事業名	事業者	遺跡名	所在地	調査期日	備考
55	担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区	岩手県農政部	MF32-2025	宮守村	11/10、3/11	
56	担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区	岩手県農政部	MF32-2036	宮守村	11/10	
57	一般国道107号藤根地区道路改良事業	岩手県土木部	藤根駅北	北上市	11/13～12/1	
58	土地改良総合整備事業大巻地区	岩手県農政部	赤川館跡	紫波町	11/14	
59	一般国道340号特殊改良(第一種)事業	岩手県土木部	大沢口II	岩泉町	11/17	
60	一般国道340号特殊改良(第一種)事業	岩手県土木部	下川代	岩泉町	11/17	
61	一級河川岩崎川中小河川改修事業	岩手県土木部	稲村I	紫波町	11/20	
62	一級河川岩崎川中小河川改修事業	岩手県土木部	高水寺	矢巾町	11/20	
63	一般国道4号矢巾拡幅事業	建設省	岡村	矢巾町	11/21	
64	一般国道4号矢巾拡幅事業	建設省	島	矢巾町	11/21	
65	水泳プール整備事業	岩手県教委	館下(岩谷堂城跡)	江刺市	11/22	
66	石鳥谷駅西地区宅地造成事業	岩手県住宅供給公社	備中館跡	石鳥谷町	11/28	
67	交通安全施設整備事業(歩道設置)	岩手県土木部	田中	遠野市	11/28	
68	農免農道整備事業巻堀地区	岩手県農政部	幅下	玉山村	12/11	
69	農免農道整備事業巻堀地区	岩手県農政部	本宮II	玉山村	12/12	
70	一般農道整備事業松ヶ沢地区	岩手県農政部	松ヶ沢	大野村	12/13	
71	担い手育成基盤整備事業宮野目地区	岩手県農政部	馬立II	花巻市	12/12	
72	担い手育成基盤整備事業宮野目地区	岩手県農政部	田力中野	花巻市	12/12	
73	担い手育成基盤整備事業宮野目地区	岩手県農政部	馬立I	花巻市	12/12、3/18～19	
74	担い手育成基盤整備事業宮野目地区	岩手県農政部	柏葉城跡擬定地	花巻市	12/13	
75	担い手育成基盤整備事業宮野目地区	岩手県農政部	ME16-0386	花巻市	12/13～20	
76	土地改良総合整備事業太田地区	岩手県農政部	根子館	花巻市	12/14	
77	ふるさと農道緊急整備事業和乙茂地区	岩手県農政部	上乙茂II遺跡	岩泉町	12/18	
78	家畜市場近代化総合整備事業	岩手県農政部		江刺市	12/19～20	
79	県営ほ場整備事業人首川東部地区	岩手県農政部	NE07-0289	江刺市	1/17	
80	県営ほ場整備事業人首川東部地区	岩手県農政部	NE07-0307	江刺市	1/17～18	
81	県営ほ場整備事業人首川東部地区	岩手県農政部	NE07-1380	江刺市	1/18～19	
82	県営ほ場整備事業人首川東部地区	岩手県農政部	NE07-1393	江刺市	1/19	
83	盛岡南部農業水利事業西部用水路管布設	農林水産省	オミ坂	盛岡市	1/22～23	
84	盛岡南部農業水利事業西部用水路管布設	農林水産省	大ヶ森	盛岡市	1/24	
85	東北自然歩道りんごと山桜のみち整備工事	岩手県環境保健部	高館古墳	盛岡市	1/24	
86	東北自然歩道りんごと山桜のみち整備工事	岩手県環境保健部	飯岡山舘跡	盛岡市	1/24	
87	東北自然歩道りんごと山桜のみち整備工事	岩手県環境保健部	飯岡舘跡	盛岡市	1/24	
88	ふるさと農道緊急整備事業成田地区	岩手県農政部	十二丁目城跡	花巻市	2/5	
89	ふるさと農道緊急整備事業小森林地区	岩手県農政部	小森林館跡	石鳥谷町	2/6	
90	一般県道相去飯豊線新九年橋橋梁整備事業	岩手県土木部	九年橋	北上市	2/7～14	
91	県北農業技術センター整備事業	岩手県農政部	和当地I	軽米町	2/8	
92	国営かんがい排水事業胆沢平野地区	農林水産省	北田	水沢市	2/8	
93	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業	岩手県農政部	幅欠	石鳥谷町	2/13～14	
94	低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業	岩手県農政部	野沢川I	石鳥谷町	2/13～14	
95	一般県道相去飯豊線新九年橋橋梁整備事業	岩手県土木部	ME65-2366	北上市	2/14	
96	歩道設置工事	建設省	衣関	平泉町	2/15	
97	一般国道4号水沢東バイパス事業	建設省	矢中	水沢市	3/13	
98	一般国道4号水沢東バイパス事業	建設省	蟹沢	水沢市	3/13	
99	県営ほ場整備事業真城地区	岩手県農政部		水沢市	3/13	
100	県営ほ場整備事業徳岡地区	岩手県農政部		胆沢町	3/13～14	
101	一般国道4号花巻東バイパス事業	建設省	下似内	花巻市	3/15	
102	一般国道4号渋民バイパス事業	建設省	KE67-2114	玉山村	3/19	
103	ダム湖活用環境整備事業計画	建設省	山崎	東和町	3/22	

III　分布調査

第１表　担い手育成基盤整備事業宮守川上流地区関連遺跡一覧

事業者：遠野地方振興局農政部　　調査期日：平成６年12月～７年４月25日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＭＦ41—0239		散布地	縄文土器	縄文	宮守村上宮守大笹	新規	
2	—0214		〃	〃	〃	〃　〃　熊ノ洞	〃	
3	ＭＦ32—2050		〃	〃	〃	〃　〃　小沢	〃	
4	—2042		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
5	—2036		〃	土師器	平安	〃　〃　西風	〃	
6	—2021		〃	縄文土器	縄文	〃　〃　下村	〃	
7	—2025		〃	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃　〃　〃	〃	
8	—1281		〃	縄文土器	縄文	〃　〃　大上	〃	
9	—1142		〃	〃	〃	〃　〃　町	〃	
10	—0099		〃	縄文土器(前期)	〃	〃　〃　楡の木	〃	

第２表　国営馬淵川沿岸農業水利事業大志田ダム建設関連遺跡一覧

事業者：東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所　　調査期日：平成７年５月31日～６月１日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＪＥ79—2027		散布地	縄文土器	縄文	一戸町平糠笹渡	新規	
2	—1076	切掛II	〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	町調査、範囲拡大
3	—1058		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
4	—1039		〃	土師器	平安？	〃　〃　〃	〃	切掛Ｉを分割
5	—1049	切掛Ｉ	〃	縄文土器	縄文	〃　〃　〃		範囲拡大
6	ＪＥ69—1049	大志田IV	〃		縄文？	〃　〃　大志田	新規	町調査、範囲拡大
7	ＪＥ79—1111		〃	縄文土器	縄文	〃　〃　切掛	〃	
8	—0175		〃	石器	〃	〃　〃　〃	〃	
9	—0155		〃		縄文？	〃　〃　〃		可能性あり
10	—0201	釜石IV	〃		〃	〃　〃　釜石	新規	町調査、範囲拡大
11	ＪＥ69—1397		〃	弥生土器？	弥生？	〃　〃　大志田	〃	
12	—2309	大志田II	〃		縄文？	〃　〃　〃		範囲拡大
13	ＪＥ79—1105	切掛III	〃	縄文土器	縄文	〃　〃　切掛	新規	町調査
14	—1107		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
15	—0179	切掛IV	〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	町調査
16	—0189		〃	土師器	平安	〃　〃　〃	〃	
17	—1200	切掛IV	〃	縄文土器	縄文	〃　〃　〃	〃	町調査
18	—0284	釜石Ｉ	〃	〃	〃	〃　〃　釜石	〃	〃
19	—0276					〃　〃　〃		可能性あり
20	—0265	釜石II	〃	石器	縄文	〃　〃　〃	新規	町調査、範囲拡大

21	—0235	釜石III	〃	縄文土器	〃	〃 〃 〃	〃	町調査
22	ＪＥ69—2296					〃 〃 〃		可能性あり
23	ＪＥ79—2296	道白II	〃	縄文土器	縄文	〃 〃 道白	新規	町調査

第３表　一級河川北上川上流北上川白山築堤事業関連遺跡一覧

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所　　調査期日：平成７年５月11日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＮＥ47—0163		散布地	土師器	平安	前沢町白山字川岸場	新規	
2	ＮＥ47—1009	川岸場II	〃	縄文土器	縄文、中・近	〃 〃 〃		

第４表　北上川上流流域下水道事業小森林地区関連遺跡一覧

事業者：北上川上流流域下水道事業所　　調査期日：平成７年５月18日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＭＥ06—0273	小森林館跡	城館跡		中世	石鳥谷町八幡字小森林		
2	—0297	古館	城館跡 散布地		平安・中世	〃 〃 字江曽		範囲拡大
3	—1206	江曽一里塚	一里塚		近世	〃 〃 〃		県指定史跡

第５表　県営ほ場整備事業真城地区関連遺跡一覧

事業者：胆江土地改良事業所　　調査期日：平成７年６月～７月

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＮＥ26—2387	金田Ｉ	集落跡	土師器・須恵器	平安	水沢市真城字金田		
2	—2380	北野III	〃	〃 〃	〃	〃 〃 字北野		
3	ＮＥ27—2092	北野II	〃	土師器・須恵器・陶器	〃	〃 〃 〃		
4	ＮＥ37—0010		〃	土師器	古代	〃 〃 字館ほか		金田Ｉ、館Ｉ・II 畑田Ｉ・II
5	—0012	畑田荒谷	散布地	土師器・須恵器	平安	〃 〃 字畑田		範囲拡大
6	—0040	中平西	〃	〃 〃	〃	〃 〃 字中平		
7	ＮＥ26—2362	高田	集落跡	〃 〃	〃	〃 〃 字高田		
8	ＮＥ36—0300	堤尻下	散布地	陶器	中世	〃 〃 字堤尻下		
9	—0320		〃	土師器	古代	水沢市真城	新規	
10	—0376	真城落合	〃	〃	〃	〃 〃 字落合		
11	ＮＥ37—0072	寺ヶ前II	〃	〃	平安	〃 〃 字谷地田		中平館を含む
12	ＮＥ36—0397	土手比	城館跡	土師器・須恵器	〃	〃 〃 字土手		
13	—1323	二ノ淵	散布地	土師器・須恵器・陶器	平安・中世	〃 〃 字二ノ淵		
14	—1318	土手南	〃	土師器・須恵器	平安	〃 〃 字土手		
15	—1334	二ツ淵南	〃	〃 〃	〃	〃 〃 字二ツ淵		谷地館を含む
16	—1352	谷地	屋敷跡 散布地	土師器	古代・近世	〃 〃 字谷地		
17	—1359		散布地	土師器・須恵器	古代	水沢市真城	新規	

18	ＮＥ37—1053		〃	〃　　〃	〃	〃　〃	新規	
19	ＮＥ36—1393		〃	土師器	〃	前沢町古城	〃	
20	—2315	栗林	屋敷跡 経　塚	一字一石経	中世・近世	水沢市真城		古代集落あり
21	ＮＥ37—1091		散布地	土師器・須恵器	古代	〃　〃	新規	
22	—1084		〃	〃　　〃	〃	〃　〃	〃	
23	—2013		〃	〃　　〃	〃	〃　〃	〃	
24	—2030		〃	〃　　〃	〃	〃　〃	〃	
25	—2033		〃	〃　　〃	〃	前沢町古城字館	〃	
26	—2050	六日入城	城館跡		中世	〃　〃　〃		
27	ＮＥ36—1315	二ツ淵北	散布地	須恵器	平安	水沢市真城字二ツ淵		

第６表　県営ほ場整備事業徳岡地区関連遺跡一覧

事業者：胆江土地改良事業所　　調査期日：平成７年７月～８月

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＮＥ45—0065		散布地	縄文土器	縄文	胆沢町小山字外浦	新規	
2	—0112		〃	土師器？	古代	〃　〃 字上鞍骨	〃	
3	—0115		〃	石器	縄文	〃　〃　〃	〃	
4	ＮＥ35—2179		〃	土師器	古代	〃　〃 字八幡堂	〃	
5	ＮＥ45—0129					〃　〃　〃	〃	可能性有り
6	—0144		散布地	縄文土器	縄文	〃　〃 〃 字上鞍骨	〃	
7	—1147	外浦	〃	縄文土器・石器	〃	〃　〃 字外浦		位置修正
8	—1144	休場	〃	縄文土器	〃	〃　〃　〃		〃
9	—0213		〃	〃	〃	〃 〃 字田中	新規	
10	—0232		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
11	—0276		〃	土師器	古代	〃　〃 字小林	〃	
12	—0361					〃　〃 字中の森	〃	可能性有り
13	—1303	板子沢	製鉄跡	ノロ、フイゴ	古代	〃　〃 字養ケ森		位置修正
14	—1333	小山沢田	散布地	土師器	平安	〃　〃 字沢田		〃

第７表　県営ほ場整備事業東田地区関連遺跡一覧

事業者：胆江土地改良事業所　　調査期日：平成７年７月

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＮＥ15―1068		散布地	土師器	平安	胆沢町南都田字五松林	新規	
2	―1110		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
3	―1104		〃	〃	〃	〃　〃　字下河原	〃	
4	―0282		〃	〃	〃	水沢市佐倉河半入	〃	
5	―0264		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
6	―0178	蝦夷塚古墳	古　墳	土師器・須恵器	奈良	胆沢町南都田字駒堂		
7	―0292	小姓堂	散布地	土師器	平安	〃　〃　〃		

第８表　県営住宅(長谷堂アパート)建築事業関連遺跡一覧

事業者：岩手県土木部　　調査期日：平成７年７月４日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＮＦ39―1151	長谷堂貝塚群	貝　塚	縄文土器・石器・骨角器	縄文・弥生	大船渡市猪川町字長谷堂		

第９表　凍雪害防止緊急地方道整備事業関連遺跡一覧

事業者：二戸土木事務所　　調査期日：平成７年７月５日～６日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＩＥ88―1203	漬谷地Ⅰ	散布地	縄文土器	縄文	二戸市野々上漬谷地		

第10表　猿ケ石用水農業水利事業・北部・東部幹線用水路関連遺跡一覧

事業者：東北農政局胆沢猿ケ石農業水利事業所　　調査期日：平成７年７月10日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＭＥ68―0225	長洞	散布地	縄文土器・石器	縄文	北上市口内町字長洞		
2	ＭＥ70―0259	栗生沢	集落跡	〃	〃	江刺市梁川字市道		範囲拡大

第11表　県営ほ場整備事業人首川東部地区関連遺跡一覧

事業者：江刺農林事務所　　調査期日：平成７年７月10～14日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＮＥ07―0289		散布地	土師器	平安	江刺市岩谷堂中堰	新規	
2	―0370		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
3	―1313					〃　〃　〃	〃	可能性あり
4	―1380		散布地	土師器	古代	〃　〃　橋本	〃	
5	―1393		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
6	―2314		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
7	―2323		〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	

8	—2365		〃	〃	〃	〃 〃 後田	新規	
9	—2382		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
10	ＮＥ17—0320		〃	〃	〃	〃 田原西前田	〃	
11	—0259		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
12	—0382		〃	〃	〃	〃 〃 川崎	〃	
13	—0278		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
14	—0347	御免	〃	縄文土器	縄文	〃 〃 字御免		
15	—0367	松川	〃	土師器・須恵器	古代	〃 〃 字大日		

第12表　担い手育成基盤整備事業一関第三地区関連遺跡一覧

事業者：一関地方振興局農林部　　調査期日：平成７年８月24日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＮＥ87—0057	和田	散布地	縄文土器・土師器	縄文晩・不安	一関市舞川字和田		範囲拡大
2	—0170	細田	〃	土器	弥生	〃 〃 字細田		〃
3	—0087		〃	縄文土器	縄文	〃 〃 字川辺	新規	
4	—1165	西平II	〃	〃	〃	〃 〃 字西平		
5	—1186	平	〃	縄文土器・土師器	縄文・古代	〃 〃 字平		範囲拡大
6	—2101					〃 〃 字川辺	新規	可能性あり
7	—2151					〃 〃 〃	〃	〃

第13表　東北新幹線建設盛岡沼宮内間関連遺跡一覧

事業者：日本鉄道建設公団　　調査期日：平成７年８月29日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＫＥ08—0155		散布地	縄文土器	縄文	岩手町大字五日市字五日市	新規	
2	—1184	五日市	〃	〃	〃	〃 〃 〃		
3	ＫＥ18—0152	石神下II	〃	〃	〃	〃 〃		
4	—0170	石神下I	〃	弥生土器	弥生	〃 〃		
5	—2059	乙茂内I	〃	縄文土器・弥生土器・土師器	縄文・弥生・古代	〃 大字江刈内第３地割乙茂内平		
6	ＫＥ28—1120	芦田内II	集落跡	縄文土器・弥生土器	縄文・弥生	〃 大字川口第48地割		
7	—0182		散布地	縄文土器	縄文	〃 大字大坊	新規	
8	—1125	芦田内IV	〃	縄文土器・弥生土器・須恵器	縄文・弥生・古代	〃 〃		
9	—1136	芦田内V	〃	縄文・弥生土器	縄文・弥生	〃 大字江刈内第20地割字荻野		
10	—2009	丹藤滝	〃	縄文土器	縄文・弥生	〃 〃 第６地割字入口		
11	—2191	円満寺跡	寺院・集　落	縄文土器(中・後)	縄文	〃 大字子抱第５地割字笹川		
12	ＫＥ38—0112	秋浦I	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代	〃 大字江刈内第６地割字入口		
13	—0131	秋浦II	集落跡	縄文土器・土師器・貝	縄文・古代	〃 〃 第３地割乙茂		
14	ＫＥ47—1348	芦名沢I	散布地	土師器・縄文土器	縄文・平安	・玉山村大字馬場字芦名沢		

15	—1367	芦名沢II	〃	縄文土器	縄文	〃 〃 〃		
16	—1378	芦名沢III	〃	〃	〃	〃 〃 〃		
17	ＫＥ67—1177		〃	剝片	〃	〃 大字玉山字障子	新規	
18	—2112	独活倉	〃	縄文土器	〃	〃 大字門前寺字独活倉		

第14表　中山間地域総合整備事業新町地区関連遺跡一覧

事業者：岩手北部土地改良事業所　　調査期日：平成７年８月30日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＪＥ63—2256		散布地	縄文土器	縄文	安代町字	新規	
2	—2371		〃	〃	〃	〃 〃	〃	
3	—2384		〃	〃	〃	〃 〃	〃	
4	ＪＥ64—0021	横間台	〃	〃	〃	〃 字打田内		範囲移動
5	—0022		〃	〃	〃	〃 〃	新規	
6	—0013	ヤマカンダ	〃	〃	〃	〃 字曲田		範囲移動
7	ＪＥ54—2095	曲田VI	〃	〃	〃	〃 〃		〃
8	ＪＥ64—0034	横間I	〃	〃	〃	〃 字打田内		〃
9	—0033	横間II	〃	〃	〃	〃 〃		〃
10	—0006	曲田V	〃	〃	〃	〃 字曲田		〃
11	ＪＥ73—2089		〃	縄文土器・石器	〃	〃 字	新規	
12	ＪＥ74—0045		〃	縄文土器	〃	〃 〃	新規	
13	ＪＥ64—0036	上の山IX	〃	〃	縄文・近世	〃 字上の山		範囲移動

第15表　県営担い手育成基盤整備事業金流川沿岸地区

事業者：一関地方振興局農林部　　調査期日：平成７年９月12日～９月27日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＯＥ27—2246		散布地	剝片	縄文？	花泉町金沢字郷ノ目	新規	
2	ＯＥ37—1388		〃	土師器	古代	〃 涌津	〃	
3	—2316		〃	縄文土器	縄文	〃 〃 字舘	〃	
4	ＯＥ38—1099					〃 老松字宮沢		可能性あり
5	—1181	宮沢	散布地	縄文土器、須恵器	古代・縄文	〃 〃 字上宮沢		
6	—2093	五輪堂	祭祀跡	鉄五輪塔地輪	鎌倉	〃 涌津字五輪堂		
7	—2046			土師器	平安	〃 〃 〃	新規	
8	ＯＥ48—0015					〃 〃 〃		可能性あり
9	—0038					〃 〃 字矢ノ目		可能性あり
10	—0048	下館城	城館跡	曲輪、土塁、空堀	室町～桃山	〃 〃 〃		

第16表　主要地方道二戸田子線緊急歩道整備事業関連遺跡一覧

事業者：二戸土木事務所　　調査期日：平成７年９月13日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＩＥ99—0263	釜屋敷	散布地	縄文土器、土師器	縄文・古代	二戸市下斗米字釜屋敷		
2	—0266	細越	〃	〃	〃	〃　〃　字細越		

第17表　急傾斜地崩壊対策事業浄法寺町大字浄法寺地区関連遺跡一覧

事業者：二戸土木事務所　　調査期日：平成７年９月14日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＪＥ36—1304	浄法寺城	城館跡	４郭	中世	浄法寺町大字浄法寺字八幡館		

第18表　一般県道宮古岩泉線道路改良事業関連遺跡一覧

事業者：宮古土木事務所　　調査期日：平成７年９月20日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＬＧ23—1255	小平I	散布地	縄文土器、石器	縄文	宮古市山口12小平		
2	—1245					〃　〃　〃		可能性あり

第19表　砂防事業二戸市似鳥地区関連遺跡一覧

事業者：二戸土木事務所　　調査期日：平成７年９月13日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＪＥ18—0376		散布地	縄文土器	縄文	二戸市似鳥字林ノ下	新規	

第20表　一戸病院・北陽病院移転事業関連遺跡一覧

事業者：岩手県医療局　　調査期日：平成７年11月16日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＪＦ20—1006					二戸郡一戸町字砂森地内		可能性あり

第21表　主要地方道花巻衣川線横川目地区道路改良事業関連遺跡一覧

事業者：北上土木事務所　　調査期日：平成７年11月29日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＭＥ53—1058	蛭川館	城館跡・散布地	縄文土器・石器	縄文・中世	北上市和賀町横川目蛭川		
2	—0094	館森	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代	〃　〃　〃　古館		

第22表　一般県道玉里水沢線田原地区道路改良事業関連遺跡一覧

事業者：水沢土木事務所　　調査期日：平成７年11月29日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＮＥ08―1135		散布地	縄文土器・土師器	縄文・平安	江刺市田原字山館	新規	
2	―1165		〃	縄文土器・石器・土師器	〃	〃　〃 字稲荷	〃	
3	―1194		〃	須恵器	平安	〃　〃　〃	〃	
4	ＮＥ18―0011	石山	〃	〃	〃	〃　〃 字大日		

第23表　一般県道東山薄衣線薄衣地区道路改良事業関連遺跡一覧

事業者：千厩土木事務所　　調査期日：平成８年３月21日

No.	遺跡コード番号	遺　跡　名	種 別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＯＥ09―2118	田村藩御蔵跡	蔵　跡		近世	川崎村薄衣字諏訪前地内		新規登録

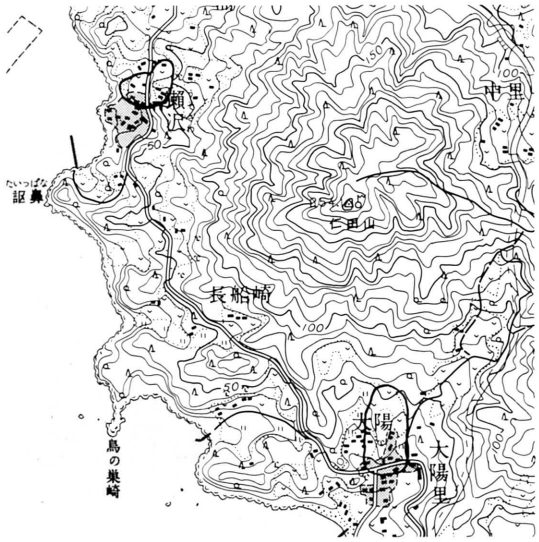
IV　貝塚調査

岩手県内貝塚調査事業

獺沢貝塚（ＮＦ78－1067）

大陽台貝塚（ＮＦ78－2175）

標記事業は今年度より３ヶ年計画で実施するもので、岩手県内に所在する貝塚及び獣骨等の自然遺物を出土する遺跡の位置、範囲、内容の確認を目的としたものである。６年度末現在、この調査事業に該当する遺跡は87ヶ所登録されているが、周知されていない貝塚も少なくないと予想され、新たな知見を加え、保護を図ることができることが期待される。

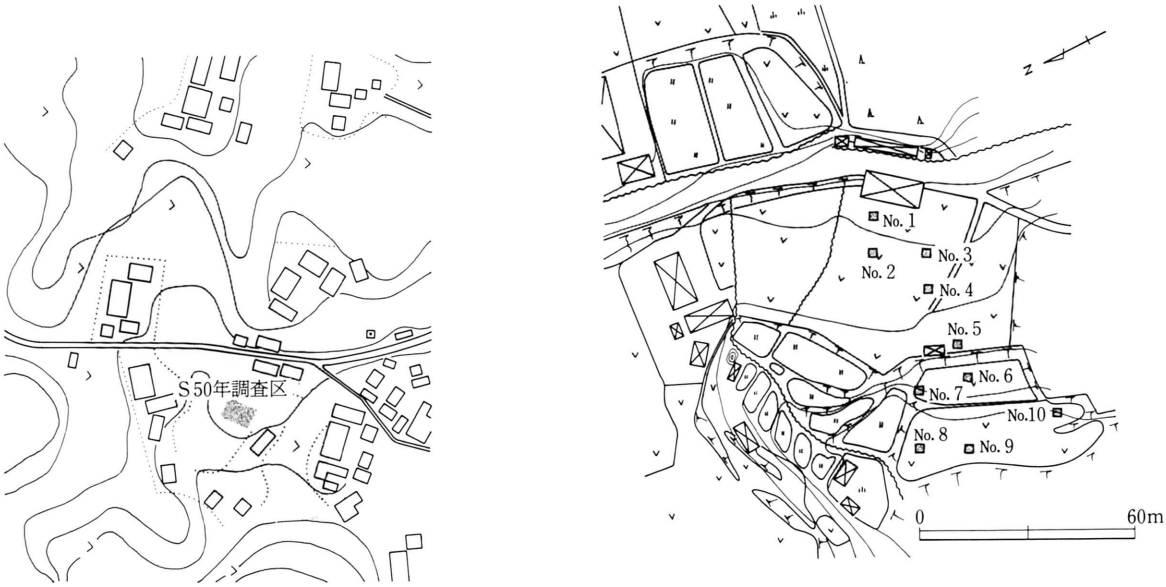


第81図　獺沢貝塚・大陽台貝塚の位置

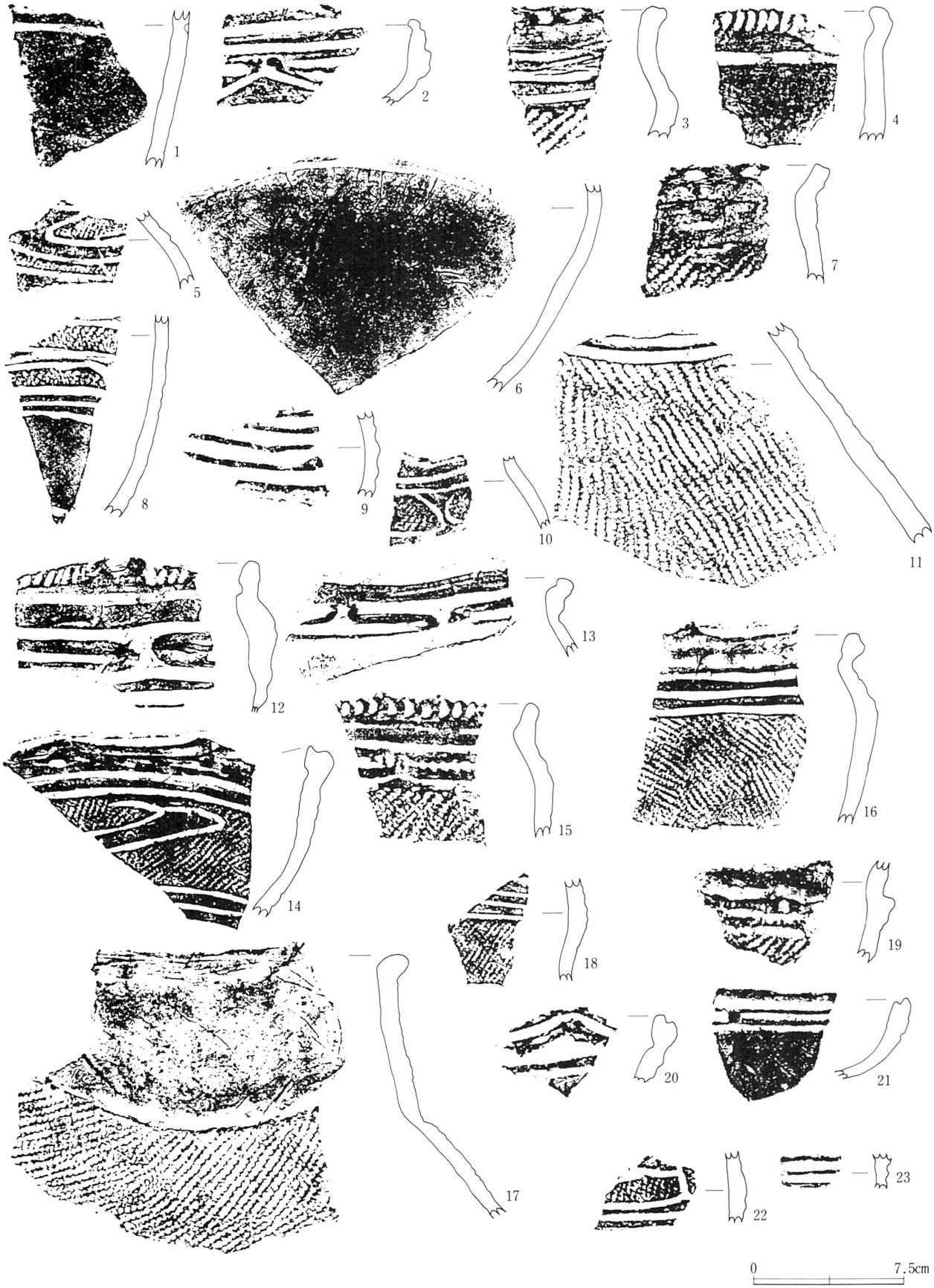
具体的調査方法は県内を九戸、下閉伊、上閉伊、気仙、両磐、その他の６地区に分割し、それぞれの地区ごとに調査員を委嘱して夏季から秋季にかけて数回分布調査を実施し、調査カードを作成していくものである。地区ごとの調査員は次の通りである。

九戸　千葉啓蔵（久慈市教育委員会）・佐々木和久（久慈琥珀博物館）、下閉伊　田鎖康之（岩泉町教育委員会）・高橋憲太郎（宮古市教育委員会）、上閉伊　花石公夫（釜石文化財センター）、気仙　金野良一（大船渡市立博物館）・佐藤正彦（陸前高田市立博物館）、両磐　佐々木繁喜（若柳高等学校）、全県　熊谷常正（盛岡大学）・浜田宏（岩手県立博物館）

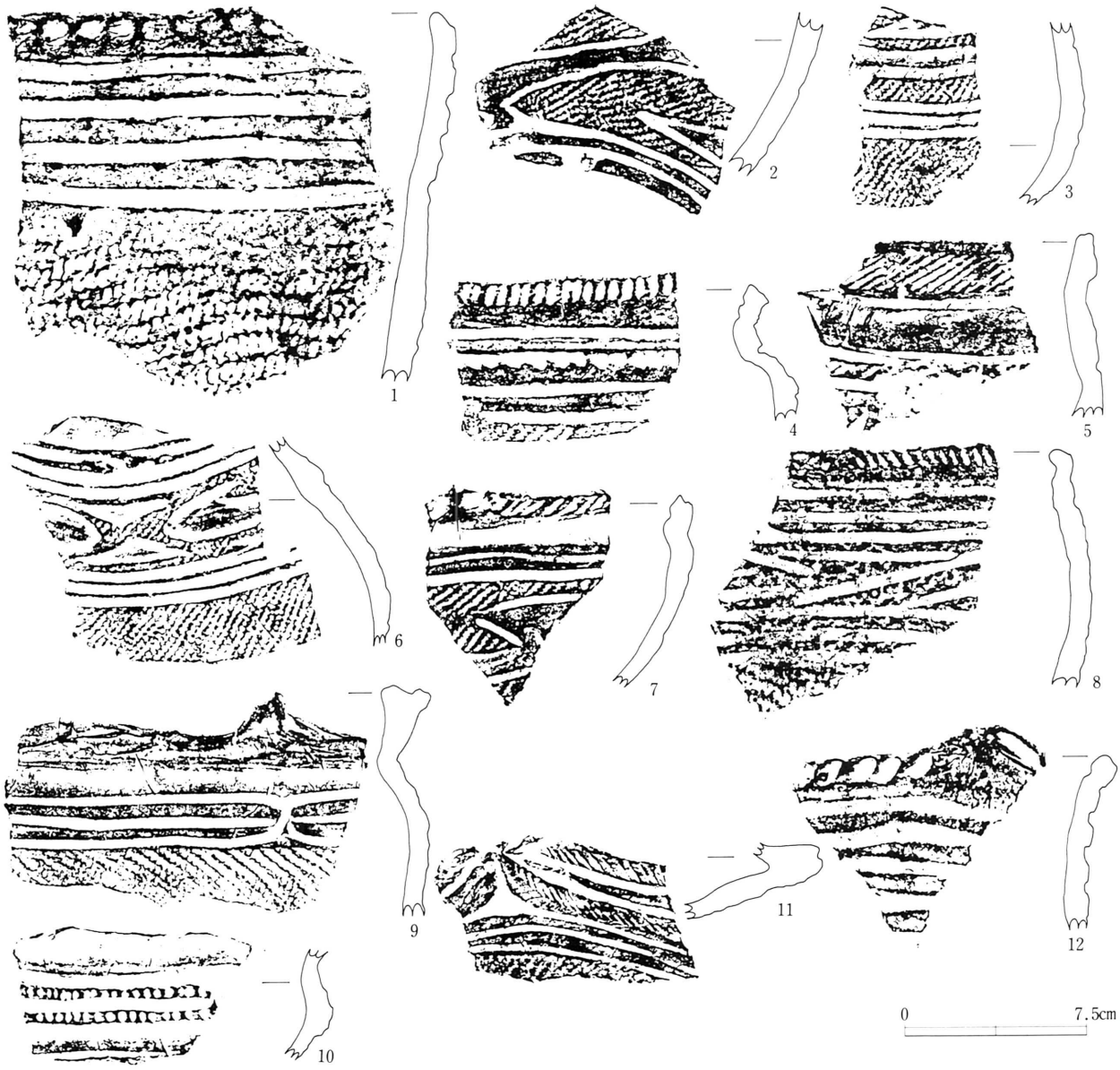
平成７年度は次の48貝塚について調査を実施した。



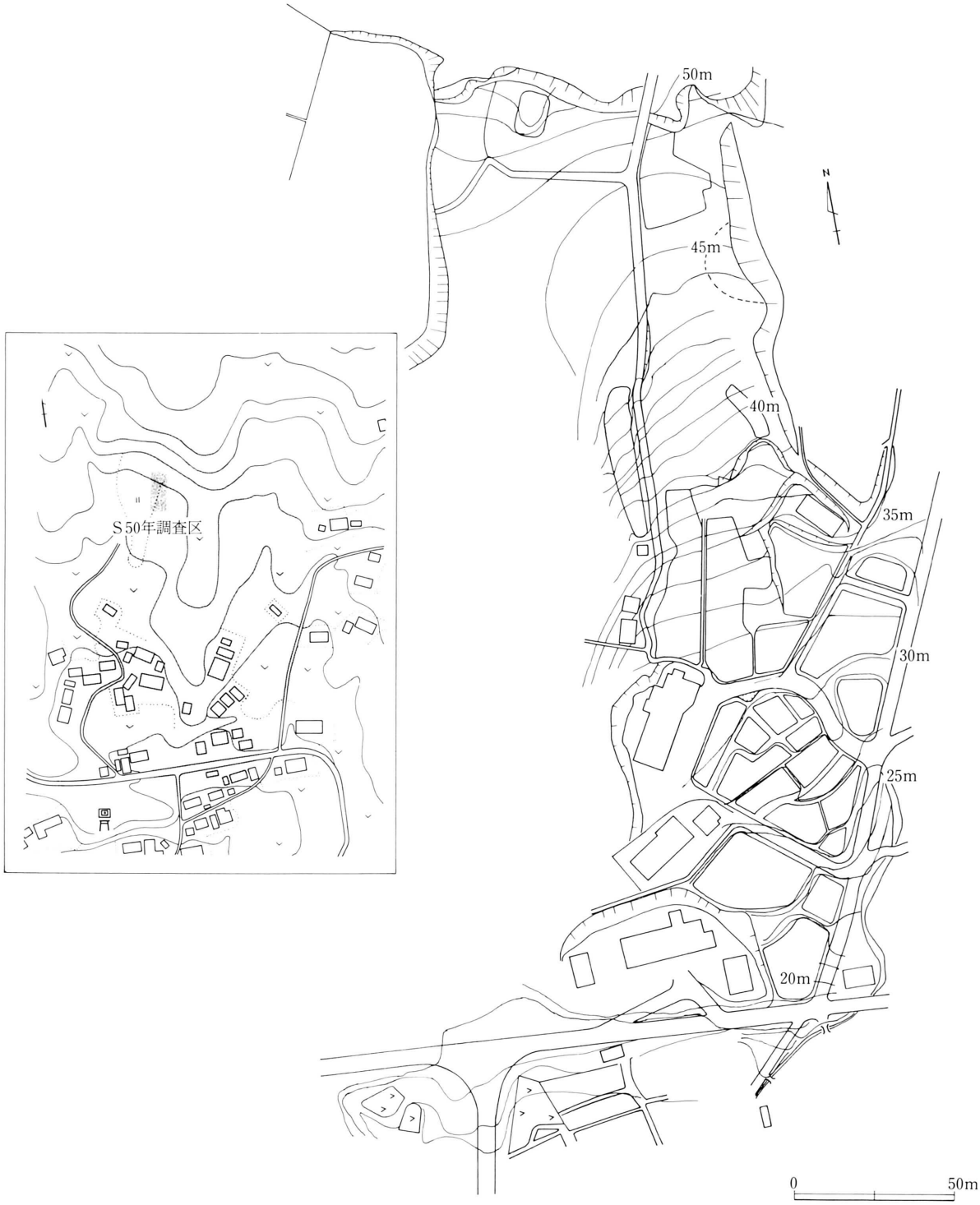
第82図　陸前高田市獺沢貝塚調査区位置図



第83図　陸前高田市獺沢貝塚出土土器(1)



第84図　陸前高田市獺沢貝塚出土土器(2)



第85図　陸前高田市大陽台貝塚地形測量図

第86図　陸前高田市大陽台貝塚表面採集土器

平成７年度貝塚分布調査一覧

No.	遺跡名	時　代	地区	所在地
1	ホックリ貝塚	縄文	九　戸	九戸郡種市町八木字ホックリ
2	小子内貝塚	縄文・近世	〃	〃　小子内字長坂
3	八木貝塚	縄文	〃	〃　八木
4	黒マッカ貝塚	縄文	〃	〃　有家
5	麦生Ⅰ遺跡	近世	〃	久慈市侍浜町字麦生
6	昼場沢遺跡	奈良・平安	〃	〃　旭町
7	平沢Ⅰ遺跡	縄文～平安	〃	〃　長内町
8	二子貝塚	縄文(早～晩)	〃	〃　44-90-1
9	大尻Ⅰ遺跡	縄文（前・中）	〃	〃　第45地割
10	大芦遺跡	縄文（後・晩）	〃	〃　夏井町
11	松林Ⅲ遺跡	縄文（前）	下閉伊	下閉伊郡岩泉町安家永渡
12	越田遺跡	縄文・近世以降	〃	〃　田老町字越田
13	崎山貝塚	縄文～平安	〃	宮古市崎山１字千束長根ほか
14	大付貝塚	縄文・弥生	〃	〃　崎鍬ケ崎15字大付
15	鍬ケ崎館山貝塚	縄文～中世	〃	〃　鍬ケ崎下町
16	上村貝塚	縄文～平安	〃	〃　磯鶏上村
17	磯鶏館山遺跡	平安～近世	〃	〃　磯鶏中谷地ほか
18	赤浜Ⅱ遺跡	縄文（前・中）	上閉伊	上閉伊郡大槌町赤浜１丁目
19	松磯遺跡	縄文（前・中）	〃	〃　吉里吉里13
20	向舘（仮称）	中・近世	〃	〃　3
21	崎山弁天貝塚	縄文(早～晩)	〃	〃　32
22	長崎貝塚	縄文（晩）	気　仙	大船渡市赤崎町字長崎
23	大洞貝塚	縄文（後・晩）	〃	〃　大洞
24	清水貝塚	縄文（前・中）	〃	〃　清水
25	蛸ノ浦貝塚	縄文（前・中）	気　仙	大船渡市赤崎町字蛸ノ浦
26	小出貝塚	縄文（中・後）	〃	気仙郡三陸町越喜来字小出
27	向浜貝塚	縄文（中・後）	〃	〃　吉浜字横石
28	沖田貝塚	縄文（前・中）	〃	〃　沖田
29	道尻貝塚	縄文（中・後）	気　仙	気仙郡三陸町字垂水
30	泊貝塚	縄文（後・晩）	〃	〃　越喜来字泊
31	野々前貝塚	縄文(前～晩)	〃	〃　綾里字野々前
32	新釜貝塚	縄文（中・後）	〃	〃　字新釜
33	砂子浜貝塚	縄文（前・中）	〃	〃　綾里字砂子浜
34	増舘貝塚	縄文（後・晩）	〃	〃　吉浜字増舘
35	千歳貝塚	縄文（中・後）	〃	〃　千歳
36	中村貝塚	縄文（早期）	〃	〃　越喜来字中村
37	浪板貝塚	縄文（後期）	〃	〃　浪板
38	藤野田貝塚	縄文（中期）	〃	〃　浪板
39	宮野貝塚	縄文(前～晩)	〃	〃　綾里字宮野
40	舘ケ森貝塚	縄文（後・晩）	〃	〃　舘ケ森
41	根白貝塚	縄文（中・後）	〃	〃　吉浜字根白
42	十二役貝塚	縄文～平安	〃	〃　十二役
43	向野貝塚	縄文・弥生	〃	〃　向野
44	鴻ノ巣貝塚	不明	両　磐	西磐井郡花泉町永井字鴻ノ巣
45	高倉貝塚	縄文（後・晩）	〃	〃　東方
46	石崎貝塚	縄文（中・後）	〃	〃　西狼ノ沢
47	上館遺跡	不明	〃	〃　花泉字田東58
48	下金森遺跡	縄文・古墳	〃	〃　寺沢

上記のほか、特に早急な内容の把握や範囲の確定が必要と考えられる標記貝塚について、事務局と調査員による合同調査を実施した。調査期日　平成７年11月24日から26日。

獺沢貝塚は陸前高田市小友町字獺沢に所在する。西側に広田湾を望む斜面に立地している。県道広田半島線を挟んで大きく西側と東側に区分することができる。現状は、東側では宅地及び杉林となっており、遺跡としての遺存状況の確認が困難である。西側は遺跡北側の沢と西側の海に向かって緩く傾斜し、宅地・畑地・休耕田等として利用されている。このうち休耕田部分の約75m²については昭和50年に緊急調査を実施し、記録保存を行っている。また、西側斜面及びその下部では縄文土器片、獣骨類、石器などが多数散布している。この貝塚は古くから調査されてきたことで学史的にも著名である。特に、大正年間に行われた松本彦七郎によるものは、層の特徴ごとに遺物を区分して採集し、その後の日本考古学の方法に大きく影響を与えたとされている。

今次の調査は、昭和50年調査地点の再確認及び斜面下部を中心とする箇所での遺存状況の確認が主目的である。新たに２m四方のグリッドを設定し、うち10ヶ所について試掘調査を実施した。その結果、斜面上部（No.１～４）では表土直下が地山となっていて、包含層等は一切失われている状態が確認された。地山層まで掘り込んでいる遺構の有無については、なお今後の課題として残されている。斜面上部先端及び下部では、表土下に獣骨を主とし若干の貝を含む遺物包含層を確認した。包含層の厚さや広がりについては十分な把握ができなかったが、少なくともこの付近では遺跡が良好に遺存していることがあきらかとなった。出土遺物は縄文時代後期後半及び晩期後半から終末の土器、石器、釣針・骨針などの骨角器などである。

大陽台貝塚は陸前高田市広田町字大陽に所在する。広田半島の西側で、広田湾を見下ろす標高20～50m付近に位置している。中央に南北の尾根を挟んでいるが、尾根より西側は宅地化が進んでいて、また北側は昭和52年ごろ開田が行われ遺存状況は良くない。この開田に先立って、昭和51～52年に緊急調査が実施されている。尾根東側は一部で宅地や水田が見られるものの、南側にやや急に傾斜する斜面は広く畑地となっており、縄文時代前期及び中期の土器・石器類が多数採集できる。このため、今次の調査では1/500の縮尺で尾根東側を中心に平板測量調査を実施し、今後の保存活動の資料とした。また、ボーリング調査により北側尾根麓に貝層が遺存している可能性が認められた。

これらの貝塚調査事業の詳細については別途報告の予定である。

V　写真図版

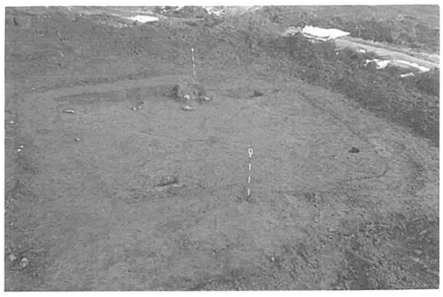


写真１　晴山II遺跡１号住居跡

写真２　北野IV遺跡３号住居跡

写真３　北野IV遺跡４号住居跡

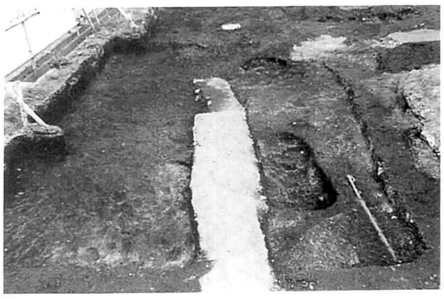


写真４　北野IV遺跡４号住居跡

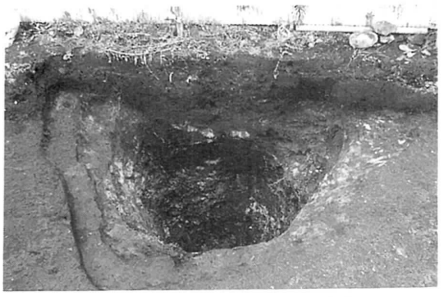


写真５　北野IV遺跡井戸跡

写真６　北野IV遺跡２号落とし穴

写真８　龍ヶ馬場遺跡１号住居跡

写真９　龍ヶ馬場遺跡２号住居跡

写真10　山ノ内III遺跡発掘区

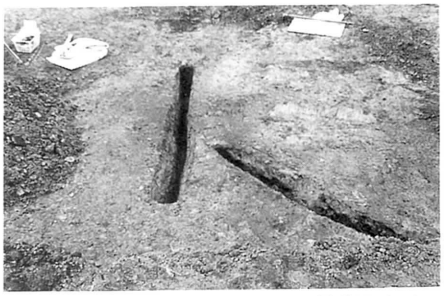
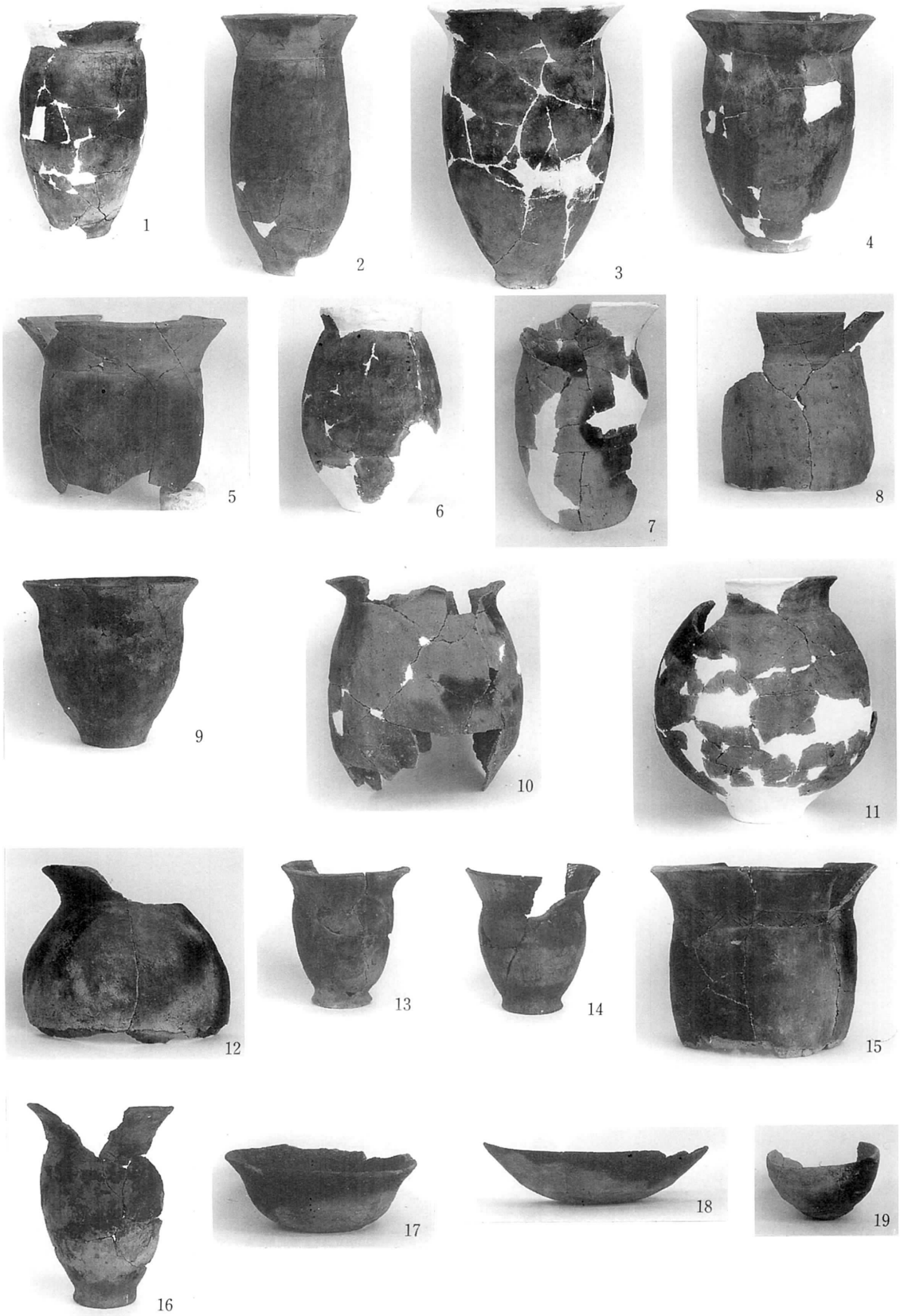


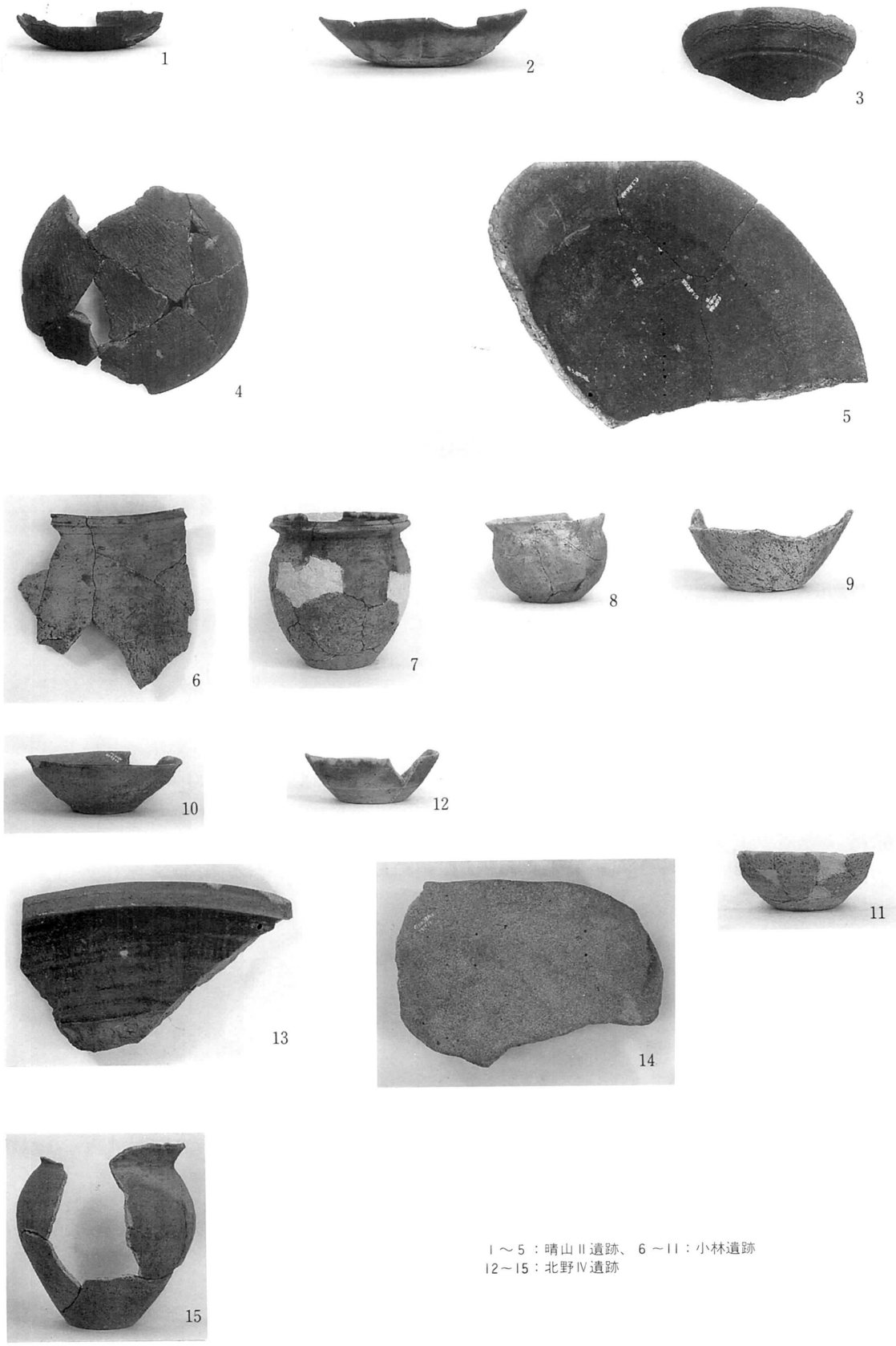
写真11　大久保遺跡１号・２号落とし穴

写真図版１　平成７年度岩手県内遺跡発掘調査



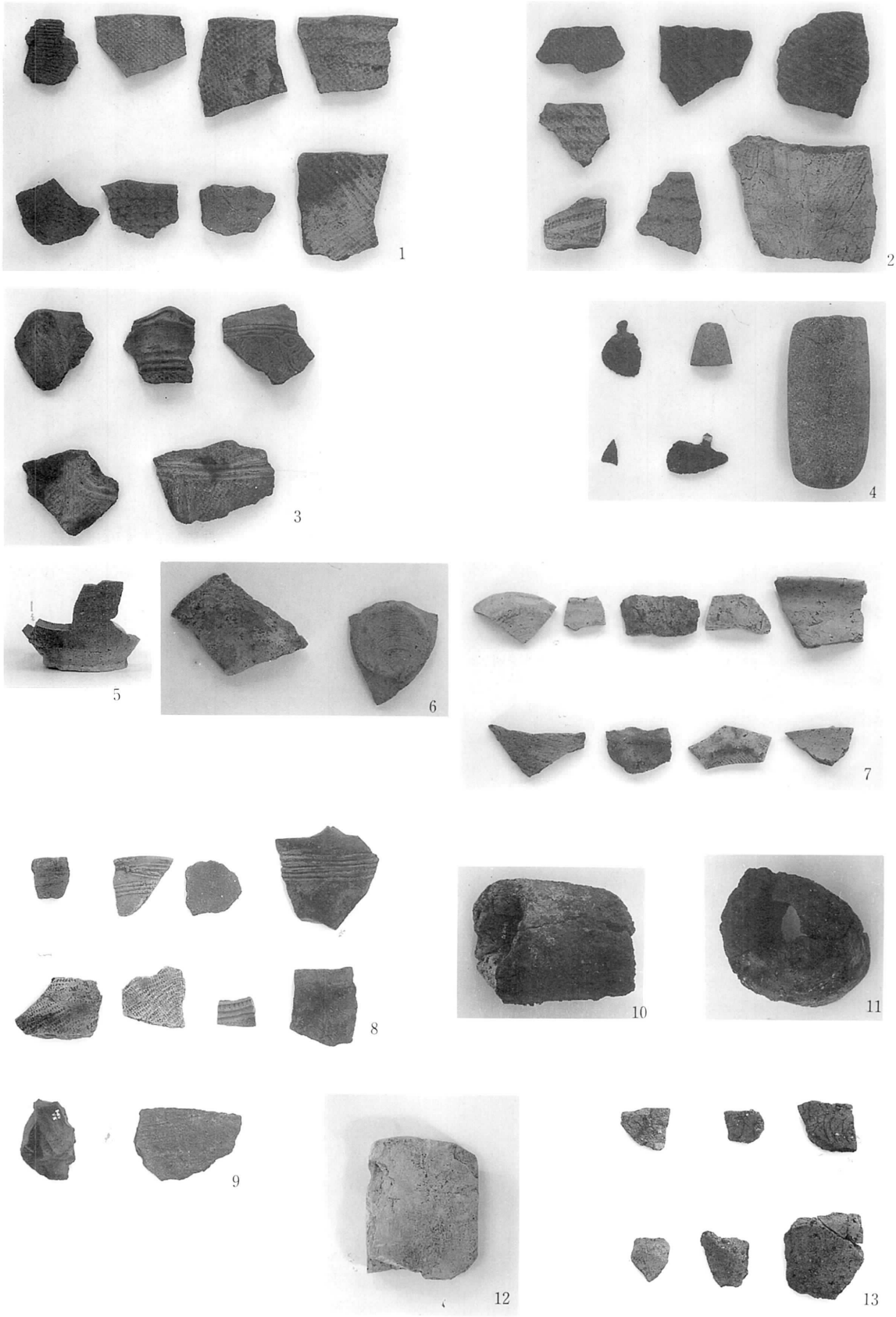
1～19、晴山Ⅱ遺跡

写真図版２　岩手県内遺跡出土遺物



1～5：晴山Ⅱ遺跡、6～11：小林遺跡
12～15：北野Ⅳ遺跡

写真図版3　岩手県内遺跡出土遺物

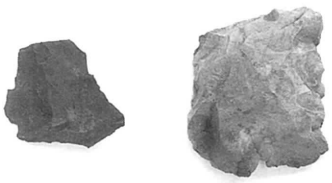


1～4：山ノ内Ⅲ遺跡、5・6：龍ヶ馬場遺跡、7：水無遺跡、
8・9：川岸場Ⅱ遺跡、10～12：房ノ沢Ⅳ遺跡、13：本宮Ⅰ遺跡

写真図版4　岩手県内遺跡出土遺物

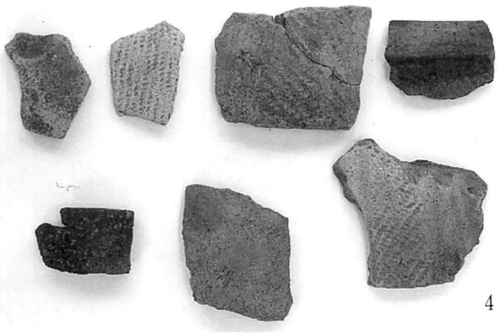
1

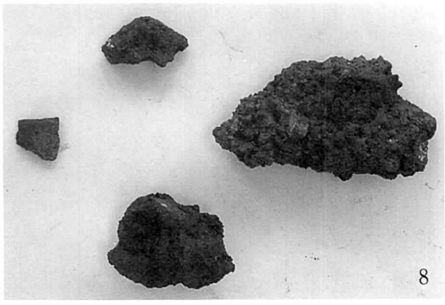
3


2

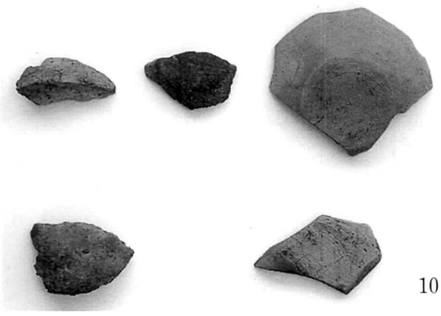
5

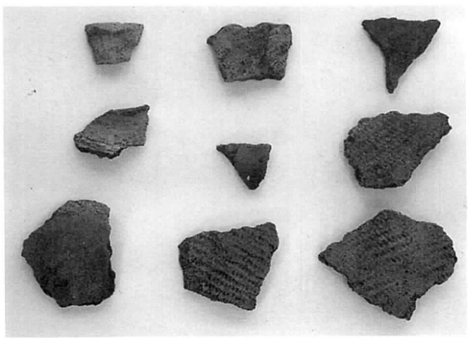
6

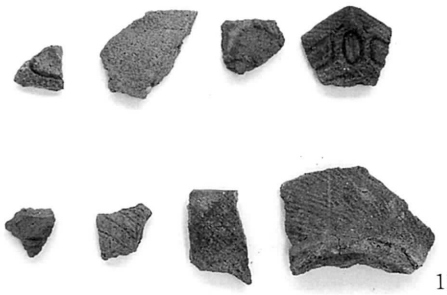

4


8

7

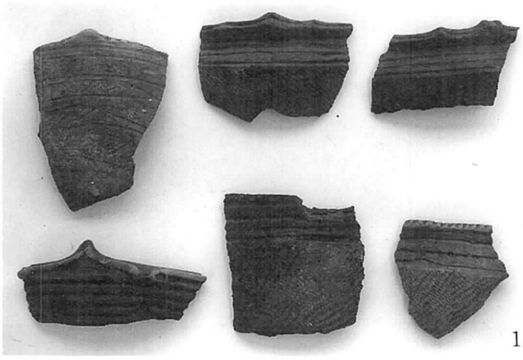

10

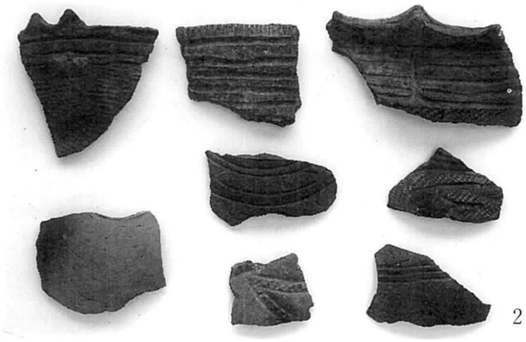

9

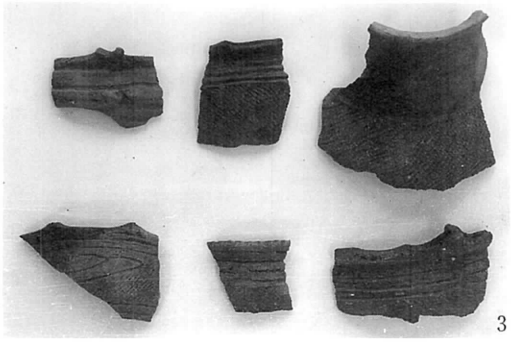

11

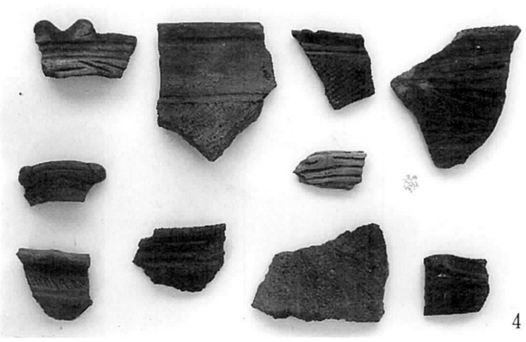
写真図版５　岩手県内遺跡出土遺物

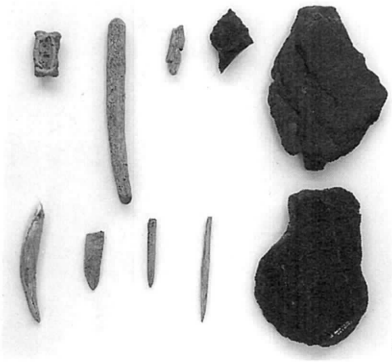
１・２：下尿前Ⅳ遺跡、３：麦生Ⅲ・Ⅸ遺跡、４：上野平遺跡、
５：深淵遺跡、６：小池遺跡、７：長谷堂貝塚、８：檜沢Ⅱ遺跡、
９：才津沢遺跡、10：久保Ⅱ遺跡、11：江刺家Ⅳ遺跡

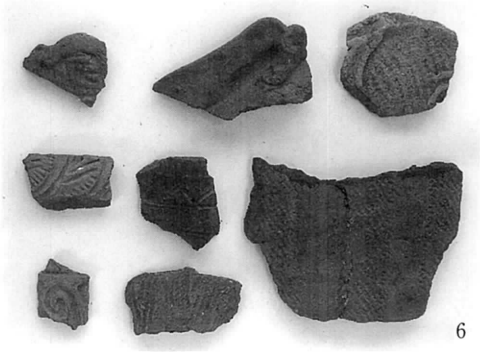

1


2

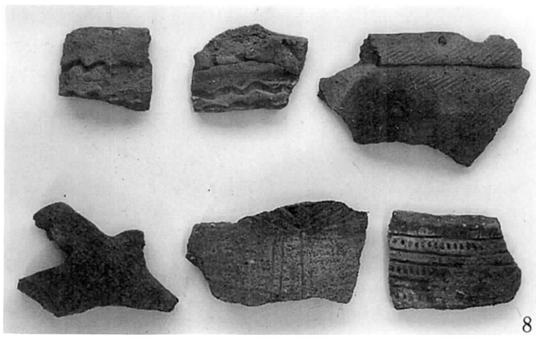

3

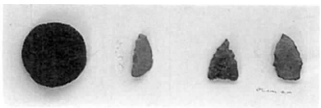

4


5


6

7


8


9

1～5：獺沢貝塚、6～9：大陽台貝塚

写真図版6　岩手県内遺跡出土遺物

岩手県文化財調査報告第98集

岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成７年度）

発行日　平成８年３月

発　行　岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10－１

編　集　岩手県教育委員会事務局文化課

印　刷　㈱杜陵印刷
盛岡市みたけ二丁目22番50号